Japanet presents
世界体操
AEON presents
世界新体操
KITAKYUSHU 2021

2021 世界体操・新体操選手権北九州大会における北九州市の取組み実施報告書

Contents
目次

- ごあいさつ …… 1
- 大会概要 …… 2
  【世界体操・世界新体操選手権とは】
  【2021世界体操・新体操選手権北九州大会について】
- 誘致決定までのあゆみ …… 4
- 北九州市における推進体制 …… 9
- 大会開催に向けたあゆみ（2020年10月～2021年3月頃） …… 11
- 大会開催に向けたあゆみ（2021年4月～コロナ禍での開催決定に至るまで） …… 13
- 大会会場に関する調整 …… 16
  【体操会場に関する調整】
  【新体操会場に関する調整】
  【インフラ環境の整備に関する調整】
- 大会に向けた様々な対応 …… 19
  【大会における医療や救急等に関する調整】
  【輸送や宿泊・食事に関する調整】
  【各種視察の受入れ、協議】
- 大会に向けた気運醸成・本市の強みの活用 …… 24
- 世界体操の運営（施設関連を中心に） …… 32
- 世界体操の開催 …… 36
- 世界新体操の運営（施設関連を中心に） …… 41
- 世界新体操の開催 …… 44
- 大会期間中のおもてなし・交流など …… 48
  【選手団のお出迎え】
  【各種イベント・交流】
  【市民による灯りでのおもてなし】
- コロナ関連 …… 54
- 広報 …… 58
  【都市装飾】
  【情報発信】
  【効果測定】
- 大会のレガシー …… 66
  【都市間交流】
  【教育・文化】
  【KOHEI UCHIMURA THE FINAL】
- 寄稿文 …… 68
- 選手からのメッセージ …… 75
- 年表 …… 82

ごあいさつ

北橋 健治
北九州市長
大会組織委員会名誉顧問

2021年10月、本市において、史上初となる世界体操、世界新体操の同時開催が実現しました。

この大会には、約70の国･地域から1,200人を超える選手関係者が参加し、2万6千人を超える観客が来場するなど、大いに盛り上がりを見せ、大成功のうちに終えることができました。

今大会の開催に当たり、本市では、スポーツ振興・国際交流に加え、リサイクルメダルや再生可能エネルギーの活用、表彰式におけるメダル授与ロボットの登場など、SDGs未来都市として「市の強みを活かした取組」を行いました。また、学校や市民センターでの応援プロジェクトやおもてなしビレッジといった、「選手や関係者、観客へのおもてなし」を展開いたしました。

このような取組の中で、市民の一体感の醸成、国際交流やSDGsに関する理解の促進、コロナ禍における国際スポーツ大会のロールモデルの構築など、大きな成果を上げることができました。

加えて、幅広いメディアを通じて本市の魅力が発信され、知名度や都市イメージの向上にも繋がりました。

市制発足以来、最大のスポーツイベントとなったこの大会は、コロナ禍における希望の光となり、世界の多くの人に夢と感動を与え、未来に繋がる大会になりました。

今後とも、本大会で培った経験を活かし、様々な国際スポーツ大会の誘致に取り組み、スポーツ振興、にぎわいづくり、まちの活性化に繋げていきたいと考えております。

国際体操連盟を始め、日本体操協会、福岡県、大会スタッフ、ボランティアなど、大会運営に携わった全ての皆様に深く感謝を申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

渡辺 守成
国際体操連盟会長
国際オリンピック委員会委員

東京2020オリンピック･パラリンピックは「United by Emotion（感動で私たちは一つになる）」のスローガンのもと、コロナ禍に苦しむ世界中の人々に感動による勇気と元気を与えました。

そして、その開催から2か月後、東京2020オリンピックのレガシーとして世界体操・新体操選手権北九州大会を開催しました。

COVID-19パンデミックは世界に「新しい価値観」を生みだしました。スポーツ界においても様々な「新世界」が創造されようとしています。本大会では世界のスポーツ界に先駆けて、既存の「エンターテイメントとしてのスポーツイベント」から、開催地の人々と一緒にSDGsを推進するという「社会貢献型のスポーツイベント」に挑戦をしました。その開催意義にご共感賜り、ご協力をしてくださいました、北九州市、福岡県、日本体操協会の皆様、および関係各位の皆様に心より感謝を申し上げます。

世界中から参加してくれた選手たちと観客の皆様、そして大会を視聴された世界中の人々が「北九州」をキーワードに一つに成れた瞬間であったと存じています。

そして何より世界で混迷を続けているCOVID-19パンデミックと戦い無事開催し成功をおさめた大会として「世界の北九州」として発信されたことには大変な価値を残したものと存じます。

今後も北九州市、福岡県がスポーツ、SDGs、などで世界をリードする未来都市として発展されることを願いまして私の挨拶とさせていただきます。

大会概要

世界体操・世界新体操選手権とは

世界体操競技選手権（以下、世界体操）は国際体操連盟が主催する体操競技の世界一を決める大会である。第１回大会は1903年にベルギーのアントウェルペンで行われた。

世界新体操選手権（以下、世界新体操）は国際体操連盟が主催する新体操の世界一を決める大会である。第１回大会は1963年にハンガリーのブダペストで行われた。

両大会は、夏季オリンピック年を除き毎年開催されているが、2021年は本来2020年に開催予定だった東京 2020 オリンピックが新型コロナウイルス感染症の拡大により延期されて開催されたため、夏季オリンピックと世界体操・世界新体操が同一年に開催されることとなった。

2021 世界体操・新体操選手権北九州大会について

● 大会概要・意義

2021世界体操･新体操選手権北九州大会は、第50回世界体操競技選手権と第38回世界新体操選手権の同時開催となる大会であり、2021年10月、北九州市で開催された。

本大会は、①史上初となる「世界体操」と「世界新体操」の同時開催、②東京2020オリンピック･パラリンピック競技大会のメダリストを含むトップ選手の出場、③東京2020オリンピック･パラリンピック競技大会後、国内初の世界選手権である、という点で大いに注目を集めた。

本大会では、世界体操･世界新体操合わせて、約70の国・地域から1,200人を超える選手･関係者が本市を訪れ、トップレベルの素晴らしい演技が繰り広げられた。中でも、日本選手団については、世界体操で金メダル２個、銀メダル５個、銅メダル１個、世界新体操では銅メダル２個を獲得する大活躍をみせてくれた。

また、コロナ禍で世界的に大規模なスポーツ大会の中止が相次ぐ中、選手団、観客、大会スタッフなど全ての関係者に対して万全のコロナ対策を講じることで、安全･安心な大会となった。あわせて、コロナ禍での行動制限緩和に向けた国の技術実証である「ワクチン･検査パッケージ」を活用することで、100%有観客で開催し、26,000人を超える観客が来場して、大いに盛り上がりをみせた。

また、本大会では、国際体操連盟や日本体操協会、福岡県、「SDGs未来都市」である北九州市など全ての関係団体が連携し、省エネルギー、高齢化社会、ヘルスケア、ジェンダー平等などに関する様々な取組みを展開した。スポーツ大会の枠を超えた、SDGsの推進に挑戦する大会となった。

大会の模様は、数日にわたり日本全国でゴールデンタイムに放送されたほか、国際映像として海外の国々に配信されるなど、体操や日本、「開催都市」北九州市が国内外に向けて大いに発信された。

● 北九州市にとっての大会の意義

２つの世界選手権の開催とあわせ、本市の強みの活用、気運醸成、おもてなし、情報発信を柱に取組みを展開することで、本市のスポーツの振興、国際交流、にぎわいづくり、知名度向上を図り、まちの活性化に繋げた。

市の強みの活用	「環境」や「SDGs」、最先端技術等を活用した取組みを展開。本市の価値の向上、魅力発信。
気運醸成	全市民への周知やPR、イベント、都市装飾等を展開。大会への理解や市民参加を促進。
選手、観客等へおもてなし	子どもから大人まで幅広く市民が参加し、選手への応援や選手団･観客への歓迎･交流等を展開。来訪者の満足度向上、市民の一体感･国際理解を促進。
情報発信	大会を契機に本市の魅力や取組みを国内外に発信。ニュース、情報番組、バラエティー番組、CM、SNS 等を通じ、本市の知名度や都市イメージが向上。

この大会は、市制発足以来、最大のスポーツイベントとなった。さらに、コロナ禍における希望の光となり、多くの市民に夢と感動を与え、未来に繋がる大会となった。

2021 世界体操・新体操選手権北九州大会　大会概要

	世界体操	世界新体操
大会名	第50回世界体操競技選手権	第38回世界新体操選手権
大会会場	北九州市立総合体育館	西日本総合展示場 新館
練習会場	北九州穴生ドーム 北九州市立浅生スポーツセンター	西日本総合展示場 新館
大会開催期間	10月18日(月)～24日(日)	10月27日(水)～31日(日)
日　程 ※下線は地上波で全国放映	10/18　開会式、女子予選 10/19　女子予選、男子予選 10/20　男子予選 10/21　女子個人総合決勝 10/22　男子個人総合決勝 10/23　種目別決勝 （男子：ゆか・あん馬・つり輪） （女子：跳馬・段違い平行棒） 10/24　種目別決勝、閉会式 （男子：跳馬・平行棒・鉄棒） （女子：平均台・ゆか）	10/27　個人予選、種目別決勝 （フープ、ボール） 10/28　個人予選、種目別決勝 （クラブ、リボン） 10/29　団体総合 10/30　個人総合決勝 10/31　団体種目別決勝
主　催	国際体操連盟（ＦＩＧ）	
共　催	日本体操協会、福岡県、北九州市、日本新体操連盟（新体操のみ）	
主　管	2021 世界体操・新体操選手権北九州大会組織委員会	
特別スポンサー	ジャパネット株式会社	イオン株式会社
参加者数	61か国・地域　825人（選手：308人）	48か国・地域　446人（選手：168人）
	計：71か国・地域　1,271人（選手：476人）	
チケット	1,500円～30,000円	2,000円～18,000円
入場者数	16,527人（平均：2,361人）	10,138人（平均：2,028人）
	計：26,665人	
国内選手結果	・橋本 大輝 （個人総合・銀、鉄棒・銀） ・南 一輝（ゆか・銀） ・萱 和磨（あん馬・銀） ・米倉 英信（跳馬・銀） ・村上 茉愛（平均台・銅、ゆか・金） ・芦川うらら（平均台・金）	・喜田 純鈴 （個人総合・8位、種目別ボール・5位） ・フェアリージャパン （団体総合・4位、種目別ボール・銅、 種目別フープクラブ・銅）
特　徴	■「世界体操」と「世界新体操」の史上初の同時開催 ■東京2020オリンピックのメダリストを含むトップ選手の出場 ■東京2020オリンピック後、国内初の世界選手権（コロナ禍での開催） ■「ワクチン・検査パッケージ」活用による100%有観客での開催 ■SDGsの推進への挑戦	

誘致決定までのあゆみ

●本市のこれまでの大規模国際大会開催実績

本市では、2016年に北九州市スポーツ振興計画を改定し、「スポーツによるまちの活性化」を政策に掲げ、様々な国際スポーツ大会の誘致、開催に取り組んでいる。

これまで、ラグビーワールドカップ2019でのウェールズ代表キャンプ、東京2020オリンピック・パラリンピックのキャンプのほか、ラグビー、サッカー、卓球、テニスなど、数多くの大規模国際大会を誘致・開催してきた。

近年の主な大会は以下のとおりである。

- 「HSBC ワールドラグビー女子セブンズシリーズ北九州大会」(2017～2019年)
- 「ITTF ワールドツアー卓球ジャパンオープン荻村杯北九州大会」(2018年)
- 「ワールドパラ・パワーリフティングアジアーオセアニアオープン選手権大会」(2018年)
- 「女子テニス国別対抗戦フェドカップ(日本対スペイン)」(2019年)
- 「サッカー女子日本代表国際親善試合(対南アフリカ)」(2019年)
- 「サッカー男子U−24日本代表国際親善試合(対アルゼンチン)」(2021年)

また、世界選手権として、2002年に「世界車いすバスケットボール選手権大会(北九州ゴールドカップ)」(12か国・地域から、20チーム、約350人の選手団が参加)を開催した経験もあった。この大会を契機に、現在でも本市で国際大会が開催されている。

●新型コロナウイルス感染症の発生と拡大

2019年12月初旬、新型コロナウイルス感染症(以下、「COVID-19」、「コロナ」)について、中国で第1例目の感染が報告された。COVID-19は、感染力が強い上に高齢者や基礎疾患のある人は重症化しやすく、世界的に感染が拡大した。世界保健機関(WHO)は2020年1月30日に「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」、3月11日に「世界的大流行(パンデミック)」を宣言した。

日本においては、1月15日に最初の感染が確認されると、たちまち拡大し、本市でも3月1日に1例目となる感染が確認された。

感染者の急増を受け、4月7日、福岡県を含む7都府県に第1回目の緊急事態宣言が発出され、4月16日には対象が全国に拡大された。

5月14日、福岡県を含む39県で緊急事態宣言が解除され、25日にはおよそ1か月半ぶりに全国で解除された。ようやくコロナを乗り越えたかに見えたが、夏には第2波が日本全国を襲った。

●相次ぐ国際スポーツ大会の延期

2020年2月頃から、コロナの拡大を受け、国際スポーツ大会など多くのイベントが中止や延期となっていった。

3月24日、2020年7月から9月にかけて予定されていた東京2020オリンピック・パラリンピックの1年程度の延期が決まった。

また、本市の国際スポーツ関連では、4月に予定されていた「2020ITTF卓球ジャパンオープン荻村杯北九州大会」が中止、オリンピックキャンプ(タイ、コロンビア)、パラリンピックキャンプ(英国、ドイツ)が延期となった。

●世界新体操選手権開催の打診

「2021年の世界新体操の誘致を検討しませんか?」

第1回緊急事態宣言が解除されて間もない6月下旬、日本体操協会から、福岡県を通じて本市に打診があった。

世界新体操は、オリンピックイヤーを除いて毎年開催されており、2022年のブルガリア、2023年のスペインの開催がすでに決まっていたが、2021年の開催地は空白となっていた。

●世界新体操に必要な施設要件等

このとき日本体操協会から示された開催要件は、次のとおりハイレベルなものであった。

①大会期間は2021年9、10月の中で数日間。設営・撤去や公式練習日なども含めて、20日程度の会場確保。

②メインアリーナは、広さが2,500㎡以上で、新体操の種具を高く投げ上げることから、天井高は、最低10m、推奨は12～14m。

③メインアリーナに隣接したウォーミングアップ会場に、マットが２面、天井高はメインアリーナと同様。空調完備。関係者やメディアが使う多数の諸室。
④練習会場に、マットが８面、空調完備で、天井高はメイン会場と同様。
⑤数百人の海外選手団が宿泊できるホテル。
⑥自治体負担金は数億円。　など

●誘致に向けた期待と不安

世界新体操は、本市における最大規模の国際スポーツ大会であり、またとない「まちの活性化」のチャンスとなる。

しかも、2019年の世界新体操（アゼルバイジャンで開催）では、日本が団体で金・銀メダルを獲得し、東京2020オリンピックでもメダル候補と目されていた。東京2020オリンピック直後の大会になるので、国内外から注目を集めることが期待された。

一方で、コロナ禍で多くの国際スポーツ大会が相次いで中止や延期となっていた。先行きが不透明な中での誘致には、慎重な検討が必要であった。

●誘致に向けた調査・協議を開始

７月１日、福岡県との協議を開始した。

本市も福岡県も、世界選手権の誘致を進めたいものの、やはりコロナ禍での誘致には不安があった。そこで、コロナの状況に注視しつつ、誘致に向けた調査を行うこととした。

本市は、世界新体操の基準を満たすスポーツ施設の調査や事前調整、前回の国内開催（2009年、三重県）の情報収集等を行った。

世界新体操では、施設の広さ、天井高、観客席数、独占利用期間などで高いレベルが求められる。この要件を満たす施設はどれか、早急に調査を行ったところ、該当するのは、メインアリーナが北九州市立総合体育館（以下、総合体育館）、練習会場が北九州市立浅生スポーツセンター（以下、浅生スポーツセンター）と西日本総合展示場本館のみであることが判明した（西日本総合展示場新館は、利用可能期間が短かった）。

なお、北九州メディアドームも会場の要件を満たしていたが、改修工事のため、使えなかった。

並行して、福岡県とともに、日本体操協会との協議を開始した。大会開催まで期間が短いため、一日でも早く本市を視察することを要望した。

●世界体操の開催をデンマークが辞退

2021年の世界体操は、デンマークでの開催が決まっていた。しかし、7月7日、コロナの世界的な大流行による経済的影響のため、デンマーク体操連盟が開催を辞退した。国際体操連盟は、新たな開催国を模索することとなった。

●国際体操連盟会長からの電話

「北九州市のスポーツ施設を見に行きたい」

日本体操協会とのやりとりを続けていた7月下旬、国際体操連盟の渡辺守成会長本人から本市に電話が入った。

渡辺会長は、本市出身（戸畑高校卒業）で、2017年から国際体操連盟会長、2018年から国際オリンピック委員会委員を務めており、大会誘致の最も重要なキーパーソンである。

大会の誘致活動では、充実したスポーツ施設、大会開催の経験、熱意など開催都市としてのポテンシャルに加え、キーパーソンの存在が重要となる。これまでの本市の誘致経験でも、キーパーソンに辿り着くまでに苦労していた。

１年のほとんどを海外で過ごす渡辺会長が、このとき帰国していた。またとない機会だ。

こうして、渡辺会長の視察が決まった。

●国際体操連盟会長による本市視察

８月１日、国際体操連盟の渡辺会長と日本体操協会の担当者が本市を視察した。

視察先は、総合体育館、浅生スポーツセンター、リーガロイヤルホテル小倉、JR九州ステーションホテル小倉、北九州国際会議場、西日本総合展示場本館・新館とした。

各会場は、
①数多くの大規模なスポーツ大会やイベントで活用された実績があること
②施設間が離れているものの、都市高速など交通網が発達しており、短時間で移動できること
などの強みがある。

当初、本市は、世界新体操の試合会場として総合体育館、練習会場として浅生スポーツセンターや西日本総合展示場本館を想定していた。

ところが、最初に総合体育館を視察した渡辺会長から、

① 第一競技場は試合会場として申し分ないが、第二競技場は天井高が足りず（9mしかない）、ウォームアップ会場にできない

② 総合体育館内で試合会場とウォームアップ会場を両立させるには、第一競技場を2つに区切る方法があるが、観客席がかなり少なくなるのが課題

との発言があった。

渡辺会長は、最後に西日本総合展示場新館を視察した。渡辺会長から、「この新館のアリーナの広さや天井高があれば、ここだけで試合会場、ウォームアップ会場、練習会場ができそうだ。ホテルも近く、スムーズな大会運営ができる」と高い評価を得た。

さらに、「世界新体操を西日本総合展示場新館、世界体操を総合体育館にすれば、同時開催できるかもしれない」との発言もあった。

また、本市のスポーツ施設や交通網、これまでのスポーツ大会や市民交流の実績についても、高く評価された。

会場視察が終わり、総括協議の場を設けた。

渡辺会長、日本体操協会、福岡県、本市で、「西日本総合展示場新館を世界新体操会場とする」案について、実現可能性を検討した。

世界新体操では、20日間程度の独占利用が必要となるが、新館にはすでに他の予約が入っており、空いているのは10月18日～11月2日までの2週間のみであった。日本体操協会担当者によれば、「設営、撤去を工夫すれば、ギリギリ対応できそう」とのことだった。

また、会場レイアウトも検討した。渡辺会長自らがホワイトボードに図を描いては消し、また描いてを繰り返しながら、案を練っていった（本番の会場は、ほぼこの案のとおりとなった）。

このとき、渡辺会長から、「正確な図面での検証やスケジュールの精査を行う必要はあるが、実現できそう」という前向きな感触を得た。

●国際体操連盟会長が本市を表敬訪問、同時開催を提案

2020年8月19日、国際体操連盟の渡辺会長が本市を訪問し、北橋健治市長・梅本和秀副市長を表敬訪問した。

渡辺会長から、

①自分の生まれ故郷の北九州市で、史上初の世界体操と世界新体操の同時開催ができないか

②大会を地方活性化のロールモデルにしたい

との提案があった。

北橋市長は、「ありがたい提案をいただいた。福岡県とともに検討したい」と応じた。

●世界体操に必要な施設要件等

日本体操協会から示された世界体操に関する開催要件も、次のとおりハイレベルなものであった。

①大会期間は2021年10月の中で1週間程度。設営・撤去や公式練習日なども含めて、1か月の会場の確保が必要。

②メインアリーナは、2,500㎡以上で、天井高は10m（最低8m）。メインアリーナに隣接したウォーミングアップ会場に、体操器具1セットを設置。空調完備。関係者やメディアが使う多数の諸室。

③練習会場は、空調完備で、体操器具を男女それぞれ4～6セット設置。

④数百人の海外選手団が宿泊できるホテル。
⑤自治体負担金は数億円。　など

●日本体操協会等との実務者レベルの協議

8月下旬～9月上旬まで、日本体操協会、福岡県、本市の三者間で、実務者レベルの協議を継続した。なお、コロナ禍で、実際に会って協議を行うことが難しかったため、オンライン会議を密に行った。

通常、世界選手権の準備に3～4年はかかるといわれているが、本大会の場合、1年しか期間がない。しかも2つの世界選手権の同時開催である。この点については、「大会が決まれば、日本体操協会、福岡県、本市が、過去に開催した国際大会の経験を集結させ、力を合わせて挑戦しよう」ということになった。

また、日本体操協会から、「大会の予算規模は約19億円で、福岡県、北九州市には各6億円の負担金をお願いしたい」との要望があった。

●施設の仮予約を急ぐ

三者での協議と並行して、市内の施設やホテル等と、仮予約に関する協議を継続した。

世界新体操会場については、8月の渡辺会長との協議を踏まえて精査を繰り返し、概ねめどが立っていた。

世界体操について、総合体育館を大会会場とするには、諸室が不足するという課題があったが、館外に仮設施設を設置する方向とした。

また練習会場については、西日本総合展示場本館は別の予約が入っていたため1か月間の独占利用ができず、浅生スポーツセンターだけでは、4～6面の器具が設置できないなどの課題があった。

改めて施設を探したところ、北九州穴生ドーム(以下、穴生ドーム)が候補にあがった。しかし、穴生ドームは、広さは5,400㎡と十分なものの、全面人工芝であるため体操器具を設置できないという課題があった。この点については、全面にコンパネ（工事現場等で使われる、縦横が約90×180cm、厚さ約1cmの合板)を敷き詰めて対応することとした。

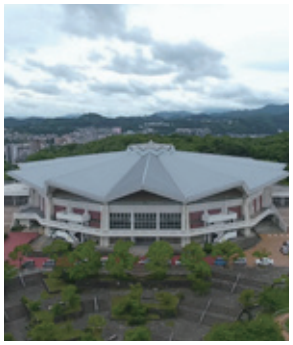
ホテルについては、最大で1日千数百人分の部屋を確保する必要があった。しかし、各ホテルにはすでに他の予約が入っており、全館貸切りできるホテルは皆無であった。そこで、複数のホテルに分散させることで対応することとした。

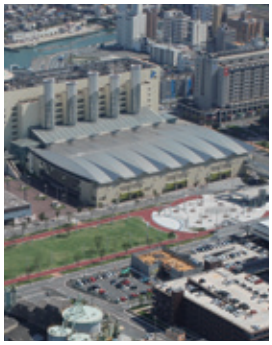
●実務者レベルでの原案が整う

9月上旬、日本体操協会、福岡県、本市の三者の実務者レベルで、次のような同時開催の原案ができた。

①主管として、日本体操協会を中心に大会組織委員会を設立し、福岡県、本市のほか、関係団体が構成員となる。
②大会名に「KITAKYUSHU」、「北九州」を盛り込む。
③世界体操については、10月17日～24日頃に総合体育館で開催。練習会場は、穴生ドーム、浅生スポーツセンターとする。
④世界新体操については、10月26日～31日頃に西日本総合展示場新館で開催。練習会場も同館とする。
⑤ホテルは、大会会場、練習会場に近い小倉、黒崎エリアを中心に、約20館確保する。　など

ただし、コロナ禍の中で、正式に誘致を進めるのかという問題は残った。





●北九州市で誘致の方針を固める

2020年夏、日本はコロナの第2波に襲われていた。コロナの状況が見通せない中、最終的な誘致方針をどうするかという難しい課題が残っていた。

北橋市長、梅本副市長、担当者が、何度も検討を重ねた。

史上初の同時開催ということで、
①スポーツの振興、国際交流
②経済効果などコロナ禍で影響を受けたまちの活性化
③国内外からの注目による本市のイメージアップ
など大きな効果が期待できる。

さらに、「万全のコロナ対策を講じて、地方都市でも安全・安心な大会を開催し、ロールモデルとなることを目指す」との方針で、北橋市長は、誘致を決断した。

9月中旬、北橋市長と福岡県の小川知事が電話会談

し、両者で世界体操・新体操を誘致する方針が固まった。

●国際体操連盟に「開催立候補親書」を提出

9月中旬、国際体操連盟の渡辺会長と日本体操協会に対し、正式に誘致する方針を伝えた。

9月30日、日本体操協会に、市長・県知事の連名で国際体操連盟会長に宛てた「開催立候補親書」を提出した。

概要(原本は英語)は次のとおりである。

①福岡県、北九州市は、世界体操・新体操の開催地に立候補する。

②福岡県は「スポーツ立県福岡」、北九州市は「スポーツによるまちの活性化」を政策に掲げ、スポーツの振興に取り組んでいる。

③コロナ対策を講じて大会を成功させ、日本、世界の体操界の発展に寄与したい。

10月19日、日本体操協会から国際体操連盟に、北橋市長・小川知事連名の「開催立候補親書」と立候補関係書類が提出された。

●北九州市開催が決定、発表

11月上旬、国際体操連盟の理事会(持ち回り)において、本市開催が決定した。

11月8日、体操の国際親善大会「Friendship and Solidarity Competition(友情と絆の大会)」が国立代々木競技場(東京)で開催された。

そのクロージングセレモニーにおいて、世界体操・新体操の本市開催決定が発表された。発表には、国際体操連盟の渡辺会長、東京2020オリンピック・パラリンピック組織委員会の森会長、福岡県の小川知事、北橋市長が出席した。

まず森会長から、「オリンピック・パラリンピック後の最初のレガシーとして、北九州市で体操と新体操の世界選手権を開催する」と発表された。

国際体操連盟が主催で、日程と会場は、世界体操が2021年10月17日(日)～24日(日)、総合体育館、世界新体操が10月26日(火)～31日(日)、西日本総合展示場新館など大会概要も公表された。

※その後、世界体操は10月18日(月)～24日(日)に、世界新体操は10月27日(水)～31日(日)に、大会日程が短縮された。

渡辺会長から、

①コロナ禍で世界中のイベントが中止や延期となる中、福岡県や北九州市の協力を得て開催できることに心より感謝する

②私や内村航平選手も北九州生まれであり、故郷に恩返しをしたい

③スポーツを通じて地域を活性化させたい

④体操は全てのスポーツの基礎であり、健康づくり、高齢化社会への対応など、レガシーを残したい

⑤大会まで時間はないが、しっかりと準備を進めたい

とのコメントがあった。

北橋市長は、

①本市開催を嬉しく、名誉に思う

②ラグビーワールドカップ2019のウェールズキャンプを契機とした交流が今も続いており、世界選手権でもレガシーを残したい

③世界選手権を大きなインパクトに変え、市民やまちを元気にするロールモデルとしたい

④市を挙げて、選手、観客のみなさまを歓迎したい

⑤成功するように努力したい

と力強くあいさつした。

また、この大会には、本市出身の内村航平選手が出場していた。内村選手からも、「自分の生まれ故郷で世界選手権ができることはこの上ない幸せ」とのコメントがあった。

北九州市における推進体制

北九州市は、大会組織委員会の一構成員として大会自体を推進するとともに、開催都市として、独自の取組みを展開した。

市役所内部の推進体制は、市長を本部長とする国際スポーツ大会推進本部や担当部署である国際スポーツ大会推進室（誘致段階）、世界体操・新体操選手権推進室（誘致決定後）、業務応援（大会時）となっている。

また本市では、これまでの国際スポーツ大会やキャンプの誘致・開催をきっかけに、産学官の連携、大学等との連携、市議会議員の協力など、様々な推進体制が構築されている。

ここで、推進体制をまとめておく。

●市役所内の推進体制

（1）国際スポーツ大会推進本部

国際スポーツ大会推進本部は、国際スポーツ大会やキャンプの誘致、開催等を目的に、市役所全体で取り組もうと、2018年7月に設置された。本部長は市長、副本部長は副市長3人と教育長が務め、構成員は全局区室長、スポーツ担当理事となっている。

下部組織として、課長職で構成する3つの部会（開催支援部会、気運醸成・レガシー部会、インバウンド・シティプロモーション部会）がある。

本大会では、3回の本部会議を開催した。

（2）国際スポーツ大会推進室

市民文化スポーツ局国際スポーツ大会推進室は、国際スポーツ大会やキャンプ等の誘致、開催を担当する部署である。

同推進室が、世界体操・新体操の誘致活動を展開した。また、誘致決定前から、「大会を通じて、まちをステージアップさせたい」との思いで、本市独自の取組みに関する検討を開始した。

当時（2020年6月から11月頃）、本市は最優先課題としてコロナ対策に取り組んでおり、コロナ関連部署の職員体制を急拡大させていた。同推進室からもコロナ関連部署への転出や業務応援等に出ていたため、体制縮小の中での誘致活動となった。

（3）世界体操・新体操選手権推進室

本大会の誘致決定を受け、2020年11月16日、国際スポーツ大会推進室から分離して、「世界体操・新体操選手権推進室」が発足した。執務室に「世界体操・新体操選手権推進室」の看板を設置した。

最初は3人体制であったが、12月、2021年1月、2月に、順次増員するとともに、3月から、係長1人を日本体操協会に派遣した。

大会の準備に加え、本市独自の取組み（市の強みの活用、市民の気運醸成、選手団や観客へのおもてなし、情報発信など）についても本格化させるため、4月、大幅に増員した。

また、9月にはコロナ対策の担当を充実させ、大会終了後は、順次規模を縮小していった。

［推進室人員体制］

年月日		人数（人）					備考
		部長級	課長級	係長級	係員	兼務	
2020年	11月16日	1	1	1	0	0	「世界体操・新体操選手権推進室」新設
	12月1日	1	1	1	0	1	
2021年	1月1日	1	1	3	1	2	
	2月1日	1	1	3	2	2	
	3月1日	1	1	4	1	2	日本体操協会に係長1人を派遣（9月16日まで）
	4月1日	1	3	7	1	20	
	4月25日	1	3	7	9	19	本格的に体制整備
	9月21日	1	3	7	9	22	コロナ対策の体制強化
	11月1日	1	3	7	9	19	
	11月15日	1	3	7	9	19	
	12月1日	1	3	6	7	0	
	12月24日	1	2	5	6	0	
2022年	1月1日	1	1	1	3	1	

※2021年4月1日より、部長級については、スポーツ担当理事の事務取扱

(4)市職員の業務応援動員

本市は、世界体操・新体操選手権の成功に向けて、市役所全体で取り組む必要があると考えていた。

そのため、市の幹部会において各局に大会従事職員の協力依頼を行い、市職員の従事内容、従事人数について、話し合いを重ねた。

その後、福岡県作成のボランティアシフトに基づき、市職員の動員数・従事場所が確定、また従事予定職員名簿から従事者を確定した。

一度は確定した市職員動員計画であったが、選手等のコンディション維持のための取組み(通称:お散歩プロジェクト)の実施が検討され、それに伴い市職員動員計画が大幅に修正された。

さらに、選手等のためにミクニワールドスタジアム北九州(練習会場)が開放されたことで、市職員動員計画が再修正され、市役所内の推進体制が整えられていった。(従事職員延べ人数:507人)

このような取組みの過程で、日々状況が変化しながらも、市役所全体の協力を得ることができ、コロナ禍という厳しい状況の中でも大会を成功に導くことができた。

●様々な推進体制

(1)北九州市大規模国際大会等誘致委員会

北九州市大規模国際大会等誘致委員会は、国際スポーツ大会やキャンプの誘致、開催等を目的に、2014年7月に設立された。

経済、市議会、スポーツ、観光、国際交流、学識経験者、市役所など、市内の産学官の関係団体で構成され、ラグビーワールドカップ 2019のウェールズ代表キャンプや各国際スポーツ大会の誘致、開催に取り組んできた。

本大会では、3回会議を開催した。

(2)大学等とのスポーツ連携

2017年1月から2018年2月にかけ、本市は、市内の全10大学、九州医療スポーツ専門学校と、スポーツ連携協定を締結した。

この協定では、本市と各大学等が互いの資源を有効活用し、スポーツで地域を活性化させる環境整備に取り組むこととしている。

本大会でも、各大学等から、大会の競技運営、ボランティア、若者世代との交流、医療、コロナ対策など様々な協力を得ることができた。

(3)スポーツ振興北九州市議会議員連盟

スポーツ振興北九州市議会議員連盟は、本市のスポーツ振興に資するため、2015年6月、市議会議員全員が参加して、設立された。本大会でも、様々な応援をいただいた。

●世界体操・新体操選手権北九州大会組織委員会における本市の位置付け

「2021世界体操・新体操選手権北九州大会組織委員会」(以下、組織委員会)は、本大会の準備、運営等を行うことを目的に2021年6月28日に設立された。

組織委員会では、史上初となる世界体操と世界新体操の同時開催に加え、「SDGs 未来都市 北九州市」にふさわしい大会を目指すこととされた。SDGs関連では、本市の強みである環境のほか、国際体操連盟の渡辺会長が提唱する、健康と福祉(高齢化社会・フレイル対策)、ジェンダー平等などに取り組むこととなった。

組織委員会は、日本体操協会を中心に、福岡県、本市などの関係団体で構成されている。

本市からは、

①副会長として、本市スポーツ担当の三浦理事、北九州商工会議所女性会の深町宏子会長

②委員として、北九州商工会議所の羽田野隆士専務理事

③名誉顧問として、北橋市長、市議会の鷹木研一郎議長

が構成員となった。

組織委員会における本市の主な役割は、コアメンバーとして、大会の方針検討、大会会場等の施設管理、観客輸送、コロナ対策、救急対応などであった。

事務局は、日本体操協会が中心となった。本市からも係長1人を派遣した。

組織委員会 設立総会

大会開催に向けたあゆみ（2020年10月～2021年3月頃）

2020年10月から2021年3月頃は、①大会の誘致の決定、②ソフト面、ハード面ともに、本市独自の取組みの方向性を決定、③専門部署である世界体操・新体操選手権推進室の設置（11月16日付け。p9参照）など、重要な時期となった。

また、組織委員会の設立の前段階の時期であり、日本体操協会、福岡県、本市、テレビ朝日、電通の五者が連携しながら、準備を進めていった。

●体操の国際大会を視察

2020年11月8日、国際体操連盟が主催する体操の国際大会「Friendship and Solidarity Competition（友情と絆の大会）」が国立代々木競技場（東京）で開催された。コロナの影響により海外渡航が制限されて以降、オリンピック種目では国内初の本格的な国際大会となった。

日本、ロシア、アメリカ、中国の強豪4か国からトップ選手が出場し、国や男女が混合で、2つのチームに分かれて競われるオールスター戦となった。

国際スポーツ大会推進室の担当者が、この大会を視察した。目的は、①体操の国際大会とはどのようなものか、②コロナ対策、③施設の整備状況などに関する調査である。

国際大会ということで、内村航平選手やロシアのナゴルニー選手など世界のトップ選手が、力強く華麗な演技で観客を魅了した。内村選手は、H難度の大技ブレットシュナイダーを成功させた。

また、体操器具の設置については、フロア全体に青のカーペットを敷き詰め、ポディウムと呼ばれるステージを置き、その上に体操器具が設置されていた。

コロナ対策では、徹底したスクリーニング検査とバブル方式等がとられていた。

会場演出についても、大型ビジョンでの映像、照明の暗転・明転、スポットライト、音楽が組み合わされ、エンターテイメントの要素がふんだんに取り込まれていた。

また、国立代々木競技場は、東京2020オリンピックに向けた、大規模改修を終えたばかりであった。耐震確保のほか、多機能トイレの設置、照明のLED化による省エネルギー化・利便性向上、スピーカー改修による音響機能の強化等が図られていた。

今回の視察を通じて、体操の国際大会について、また、コロナ対策や必要な施設・設備について、イメージをつかむことができた。

●本市のステージアップに向けた取組みに着手

大会誘致を進めていた2020年10月上旬、本市では、大会を契機に、いかにまちのステージを上げ、国内外に情報発信していくのか、検討を開始した。

ソフト事業、ハード整備の両面について検討し、2021年3月、市議会の承認を経て、次の方針が決まった。

(1) ソフト事業

2020年10月上旬、国際スポーツ大会推進、地方創生、スタートアップ、新科学館等の関係部課長によるプロジェクトチームを発足させた。ソフト事業について何度

も検討を重ね、10月下旬に方向性をまとめた。

この時点ではアイデアベースのものであったが、

①大会開催については、満員の集客、地方におけるコロナ対策のロールモデル

②気運醸成については、市民交流・学校交流（一校一国応援）、都市装飾

③本市の強み活用については、SDGs、リサイクルメダル、ロボット

④情報発信については、最初から高いパブリシティ効果を得るための取組み

など約30の案があった。

11月24日、プロジェクトチームの案を骨子として、市役所の全部局に大会を活用した取組みを募り、さらなるアイデア出しを行った。12月上旬、各部署から合計200近いアイデアが寄せられた。

12月17日、国際スポーツ大会推進本部会議を開催した。「世界体操・新体操選手権」誘致決定を報告し、この約200件の提案について今後精査するとともに、にぎわいづくりやおもてなし、情報発信に全市を挙げて取り組む方針となった。

世界体操・新体操選手権推進室による各局区へのヒアリングを経て、市の強みの活用、気運醸成、おもてなし、情報発信の４つの柱、約100の取組みに整理した。

（2）ハード事業

2020年12月頃、国際体操連盟や日本体操協会において、国際規格の体操器具と華やかな舞台を備えた競技会場、大型ビジョンや音響を活用した迫力ある演出など、世界最高の演技を観客も一体となって楽しむことができる大会会場づくりが検討されていた。

この検討状況や国立代々木競技場の視察を踏まえ、本市としても世界選手権にふさわしい施設にしたいと考えた。また、施設の機能強化を図れば、市民の利便性が向上する上、今後の大規模なスポーツ大会やイベント誘致にも弾みをつけることができる。

こうしたことから、大会まで１年を切るという限られた期間ではあったが、次の機能強化を行うこととなった。

総合体育館

①トイレのユニバーサルデザイン化

②大型LEDビジョンの新設

③音響設備の更新

④アリーナ及び館内照明のLED化

⑤空調設備の新設、改修

⑥外壁、内装等の改修　など

西日本総合展示場新館

①トイレのユニバーサルデザイン化

②照明のLED化　など

また、大会会場だけでなく、本市の玄関口となる小倉駅のリブランディングも進めた。

①JAM広場への空間装飾

②北九州モノレール小倉駅壁面への液晶マルチビジョンの新設

③南北公共連絡通路へのデジタルサイネージの新設

●大会関連予算の成立

2020年12月、大会の誘致決定後の初となる市議会定例会が開催された。市議会では、大会開催に向けた市長の意気込み、大会会場の充実、本大会開催で期待される効果、コロナ対策、大会PRなど、多くの議員から質問があり、関心の高さがうかがわれた。教育文化委員会では、誘致決定に関する報告を行った。

2021年２月下旬から３月下旬にかけ市議会定例会が開催され、大会関連予算が審議された。

本会議では、大会の準備状況等について質疑があった。

世界体操・新体操関連予算として、大会負担金　6億円、ステージアップに向けた取組み（ソフト事業）　2.8億円の合計8.8億円が承認された。この歳入の一部に、公営競技事業からの繰入金や国庫補助が充てられた。

この他に、総合体育館の改修費用９億円等が承認された。

●大会の準備に関する協議・準備

誘致決定直後から、日本体操協会、福岡県、本市、テレビ朝日、電通の五者を中心に、大会の準備に関する協議が始まった。組織委員会の設立は2021年４月以降とし、それまで五者が連携しながら準備を進めることとなった。

五者による協議は、オンライン会議が中心であり、個別協議と週１回の定例会議で協議を重ねていった。

あわせて、コロナの状況を踏まえながら、日本体操協会、テレビ朝日、電通等が本市を訪れ、現地視察を行った。

この時点では、明確な分業化が進んでおらず、本市の

役割は、概ね大会の方針に関することや地元の調整業務全般となっていた。具体的には、大会会場の管理・施設改修、宿泊ホテルの調整、選手団等のおもてなし、地元の気運醸成、地元医療機関・消防・警察・企業との調整、コロナ対策に関する地元調整など、幅広く関与していた。

3月1日、本市は、係長１人を日本体操協会に派遣した。

3月中旬には、日本体操協会主催の選定委員会で体操器具の設営担当としてイーグル、選手団の輸送・宿泊・食事等の担当としてJTBが決定され、大会運営に参画することとなった。

2021年3月23日、令和2年度第3回北九州市大規模国際大会等誘致委員会を開催し、大会開催概要、誘致の経緯、大会開催に合わせたおもてなし、気運醸成イベント等の準備状況を報告した。

大会開催に向けたあゆみ（2021年4月～コロナ禍での開催決定に至るまで）

●大会まで半年となる

2021年4月、大会まで半年に迫った。しかし、会場レイアウト、コロナ対策、選手団の入国管理など、決まっていないことが多く、課題は山積であった。

大会成功に向けて集中的に取り組むため、本市では、4月1日、25日と相次いで、世界体操・新体操選手権推進室の大幅な体制強化を図った。大会開催、おもてなし・交流、情報発信・コロナ対策の課長級の３ライン体制となった。

あわせて、4月15日、大会における本市への助言や協力を目的に、九州学生体操連盟の堀内担志会長、福岡県新体操クラブ連盟の上村郁代理事長に北九州市アドバイザーとして就任していただいた。

●大会準備に関する本市の役割

4月以降、五者以外の参画団体も徐々に増えていった。組織委員会の設立はまだであったが、先行して、競技部会、施設部会、メディカル部会、地域部会、参加者サービス部会、国際映像部会、広報部会などの専門部会に分かれて準備を進めることになった。

本市は、開催都市として、様々な部会の企画・計画段階から携わった。

次については、実施段階まで重点的に携わった。

①施設部会

大会会場、練習会場の施設管理、施設改修、会場設営に関する調整など

②メディカル部会

大会で傷病が発生した場合の医療体制、アンチ・ドーピング体制（ドーピング検査、アンチ・ドーピング教育）、コロナ対策（スクリーニング検査や陽性者が発生した場合の地元対応、ワクチン・検査パッケージなど）など

③地域部会

地元の気運醸成、選手団等のおもてなし、SDGs、組織委員会の北九州事務所の設置など

④参加者サービス部会

選手団等の宿泊、食事、輸送等に関する地元調整など

⑤国際映像部会

会場装飾、大会の映像を全世界に配信するために必要な電源、インターネット回線などインフラ整備

⑥広報部会

大会の広報、PRなど

⑦マーケティング部会

大会スポンサーの募集など

●組織委員会の設立

本市は、日本体操協会、福岡県とともにコアメンバーとして、規約の起草、委員の選定、大会概要など、組織委員会の設立の準備を進めた。組織委員会は、当初、4月に設立する予定であった。

しかし、4月中旬からコロナの第4波が発生したため、5月12日から31日まで、福岡県では３度目となる緊急事態宣言が発令された。その後、緊急事態宣言は6月20

日まで延長されたため、設立のタイミングを見極めようということになり、宣言が明けた6月28日、ようやく組織委員会の設立にこぎつけた。

設立総会は、Japan Sport Olympic Square(東京)で開催された。オンライン会議も併用したハイブリッド方式となった。

主な議題は、組織委員会規約、役職員の選定、コロナ対策、大会予算などであった。

本市から、スポーツ担当の三浦理事が出席し、副会長に選任された。

コロナ対策では、

①WHOのスポーツイベントにおけるリスクアセスメントに基づいた大会運営を行う(入国規制、コロナ検査等の具体的な対策は、東京2020オリンピック・パラリンピックを参考にする)

②観客制限や大会中止の可能性も排除しない(「COVID-19対策会議」を設置し、今後判断する)

③対策の検討状況については、随時公表する

などの基本方針が決まった。

また、大会の予算規模は、約19.8億円となった。

●東京2020オリンピックが無観客で開催

東京2020オリンピックについては、東京都へ4度目の緊急事態宣言(2021年7月12日から)が発出されることとなり、7月8日、東京会場等で無観客開催が決まった。

オリンピックは、緊急事態宣言下の2021年7月23日から8月8日まで開催され、33競技、339種目が実施された。205の国・地域から約11,000人が参加した。

バブル方式による徹底的なコロナ対策が講じられた。

体操競技は、7月24日から8月3日まで、有明体操競技場(東京)で実施された。団体総合、個人総合、個人種目別(男子6種目、女子4種目)が行われ、約200人の選手が出場した。

日本は、橋本大輝選手、村上茉愛選手などの活躍で、5つのメダルを獲得した。

新体操は、8月6日から8日まで、有明体操競技場(東京)で実施された。団体総合、個人総合が行われ、約100人の選手が出場した。初のメダルに挑んだ日本団体は8位入賞であった。

両種目とも、世界一流の演技に加え、日本選手の活躍もあり、本大会に対する期待が高まっていった。

●コロナ第5波の発生、開催の可否等の検討

7月下旬から、福岡県でもコロナの第5波が発生し、8月20日から9月12日まで、4回目となる緊急事態宣言が発令され、その後9月30日まで延長された。

当初8月上旬のチケット発売を予定していたが、大会開催自体の検討を継続する必要があったため、延期を余儀なくされた。「チケットの発売はいつからか」という電話が世界体操・新体操選手権推進室に殺到した。

ところが、8月末までコロナの感染が拡大すると、大会の中止を求める市民の声が増えていった。

組織委員会でも、本市でも、大会自体を開催するか、観客の上限をどうするか、大いに悩んだ。この課題については、組織委員会に設置した「COVID-19対策会議」で検討を重ねた。

選手、観客、市民など全ての人にとって、安全・安心な大会とすることが前提である。また、大会でコロナを拡大させ、医療体制をひっ迫させるわけにはいかない。

開催の可否等の検討に当たり、大会のコロナ対策の準備状況とともに、福岡県内のコロナの発生状況や病床使用率などのデータを重視した。

8月2日の第1回会議では、コロナが増加傾向で、状況を注視する必要があり、「開催可否の判断は9月に行う」が、「現時点では開催に向けた準備を進める」との方針となった。これを受け、引き続き大会の準備を急ピッチで進めていった。

●大会開催の決定

感染症の専門家も含めて、海外のコロナの状況を分析したところ、新規感染のピークを迎えると感染者数、医療のひっ迫状況ともに改善に向かい、6～8週間後にはかなり改善すると予想された。

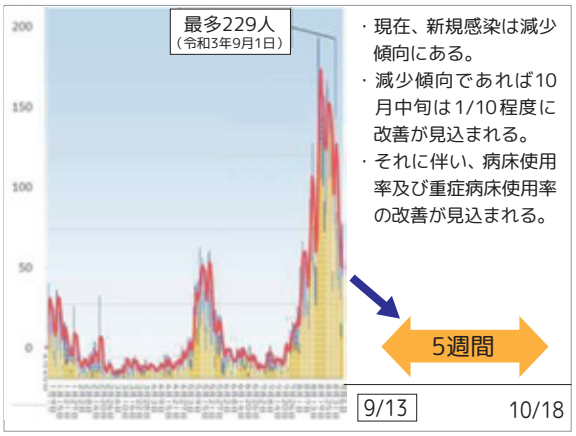
8月末になると、第5波のピークアウトの兆しが見えたが、まだはっきりとしない状況であった。一方で、国内外から大会に参加する選手のことを考えると、いつまでも判断を先伸ばしすることもできない。

9月1日の第2回会議では、「北九州市のコロナの新規感染や病床使用率などから大会期間中の感染状況を予測する」こととし、「9月13日に開催の可否を判断する」方針を決めた。

9月13日の第3回会議で、改めてコロナのデータを検証したところ、8月末に第5波のピークを迎え、新規感染等は減少傾向にあることがはっきりしてきた。この傾向であれば、大会期間中は新規感染が10分の1程度まで

減り、医療ひっ迫もかなり改善することが予測できた。そこで、「大会を開催する（ただし、感染が再拡大した場合は、再検討）」との結論にいたった。大会まで１か月という、ギリギリのタイミングでの判断となった。

10月中旬の北九州市新規陽性者数の推移予測



第３回会議資料から抜粋

●観客数に関する検討

福岡県でもコロナの第5波発生に伴い、8月20日から9月30日まで、４回目となる緊急事態宣言が発令された。この間、開催の可否と合わせて、観客数の上限についても組織委員会内に設置したCOVID-19対策会議で検討を重ねた。

緊急事態宣言下では、イベントの観客制限、飲食店の営業時間短縮、旅行自粛など、様々な社会経済活動の制限が講じられた。

国や福岡県が示した大規模イベント（大声あり）の観客数については、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置、経過措置期間（それらの解除後１か月間）のいずれの場合でも、収容率は50%以内となっていた。

これをあてはめると、大会期間中は、経過措置期間となり、50%収容が上限となる。一方で、大規模大会であることや、オリンピックが無観客開催となったこともあり、8月の感染拡大の時期では、「開催できても、無観客はやむを得ない」という意見も出ていた。

●ワクチン・検査パッケージを活用し100%有観客を決定

9月に入り、ワクチン接種の進展とあわせ、国において、コロナ禍での社会経済活動の再開を目指す「ワクチン・検査パッケージ」（p56参照）の検討が進められていた。ワクチンの2回接種済みや検査での陰性証明などを条件に、緊急事態宣言下等での行動緩和を行おうという試みである。10月にも自治体等と連携して技術実証を始めようとのことだった。

また、福岡県のコロナの感染状況についても、明るい兆しが見えてきた。すでに8月末に第5波のピークを迎えており、大会期間中の感染は少なくなるという予測もあった。

もともとある「一人でも多くの市民に生で観戦していただきたい」、「会場で応援し、選手の力になっていただきたい」との思いに加え、こうした状況の好転もあり、福岡県や本市が中心となって、ワクチン・検査パッケージの技術実証に立候補し、100%の有観客を目指すこととなった。

9月13日の第3回COVID-19対策会議、9月15日の組織委員会総会で、「有観客」とし、観客上限については「コロナの状況、国のワクチン・検査パッケージの検討を踏まえて後日判断する」こととなった。

国との協議を進めたところ、10月1日ワクチン・検査パッケージの対象事業に決定され、100%の有観客を実現した。

なお、10月1日からチケット販売を開始した。大会までの期間は非常に短かったが、ほとんどの日程で完売となった。

●大会直前の本市の動向

9月下旬から、日本体操協会、福岡県、電通、テレビ朝日等の関係者が相次いで本市入りした。組織委員会の事務所を AIM８階に置き、これまでのオンライン会議ではなく、関係者が直接顔を合わせ、入念な打合せを重ねた。

10月に入り、様々な変更がありながらも、大会の準備は大詰めを迎えていた。

10月7日、北九州市国際スポーツ大会推進本部会議が開催された。その中で、北橋市長は、「各局区においても、創意工夫をしながら、東京2020オリンピック・パラリンピックのスポーツ熱をそのまま世界体操・新体操につなげて、大会の成功、本市の魅力発信等に取り組んでいこう」と呼びかけた。

大会会場に関する調整

体操会場に関する調整

総合体育館第一競技場を競技会場、第二競技場をウォーミングアップ会場とし、穴生ドーム、浅生スポーツセンターの２か所を練習会場とした。

大会会場においては、競技運営を円滑に行うために大会本部や様々な諸室を整備するとともに、メディアセンターなど大会運営に必要な施設を仮設コンテナ等で設置した。

●大会会場（総合体育館）

(1) 諸室の準備

準備を進める中で、必要となる諸室が多種多様で、用意しなければならない諸室の種類や広さがかなりのボリュームであることが分かってきた。既存の体育館内の部屋ではそのすべてをまかなうことができないため、不足分については、体育館下にある来場者用駐車場に仮設コンテナを設置して対応することになった。

仮設コンテナを設置するにあたっては、仮設建築物等許可申請を始めとした様々な手続きが必要となり、その窓口となる関係部署も複数になる。設営業者や設計事務所の方々の尽力や関係部署から適宜いただいた丁寧な指導により、メディアセンターをはじめとした諸室を設置することができた。

また、富士通の採点システムのサーバや器具設営業者の控え室等、競技会場に近い位置に配置しなければならない諸室についても、体育館内の部屋でまかなうことができず、体育館の倉庫を、備品の整理や移動を行い、諸室として活用した。

(2) 関係者用駐車場の確保

大会には、スタッフや業者、報道関係者や来賓等、多くの関係者用駐車場が必要である。しかし、来場者用駐車場は仮設コンテナの設置に加え、選手団用のタクシープールエリアとして使用することなどから、当該駐車場に関係者駐車場を確保することができなかった。関係者は、開場前から閉場後にかけてほぼ１日中会場での業務や、不測な事態への対応などを行うことから、関係者用駐車場は会場周辺に準備することが求められる。こうした事情から、体育館周辺で関係者用駐車場として使用できる場所を探し、地図を広げるなどして近隣の施設等に伺い、相談させていただいた。その結果、到津の森公園、北九州視覚特別支援学校、高見の森保育園等、各所の駐車場の使用について快諾いただき、関係者駐車場を何とか確保することができた。

(3) 周辺環境の整備

周辺環境の整備については、体育館を含む県営中央公園を所管する北九州県土整備事務所や管理している指定管理者と協議を重ねてきた。選手団や観客を迎えることとなった際に、大会会場が自然に囲まれた豊かな場所にあることを実感いただくため、樹木の剪定、草刈り、清掃、歩道橋の整備、体操体験遊具の設置などを行っていただいた。また、諸室の準備や関係者用駐車場の確保にあたっても協力いただいた。

(4) 施設管理者との調整

体育館には、施設管理者でもある北九州市スポーツ協会の事務局があり、日頃から様々なスポーツ団体が訪れている。協会の方々には、これまでに経験したことのない規模の大会で、コロナの影響もあり見通しがなかなか立たない中でも、諸室の準備等を始めとしたハード面、開閉館時間や勤務シフトの調整、各種問い合わせへの対応、入館制限に伴う加盟スポーツ団体との連絡調整等のソフト面についても協力いただいた。

テレビ朝日及び設営業者等による視察の様子

仮設空調等の運転のため設置した発電機（騒音対策のため吸遮音パネルを設置）

●練習会場（穴生ドーム）

(1) 周辺環境との調整

穴生ドームの周辺は住宅地となっており、住宅やマンションが建ち並んでいる。世界体操の練習会場として使用するにあたっては、選手団の送迎による周辺道路の混雑や仮設空調等の運転に伴う発電機の騒音などの影響が考えられることから、周辺の方々へ事前に周知を行った。適時適切な配車や方向を限定した出入管理等、輸送を担っていただいた多くの方々の尽力や吸遮音パネルの設置等の騒音対策により、影響を最小限に抑えることができた。また、穴生ドームも関係者用駐車場を確保する必要があった。そこで、目の前の土地を管理している企業に相談したところ、駐車場として使用させていただけることとなり、円滑な会場運営につながった。

(2) 施設管理者との調整

穴生ドームは生涯学習の拠点である穴生学舎（北九州市立年長者研修大学校）に隣接しており、穴生学舎の利用者との調整も重要だった。幸い両施設の管理者は同一であったため、それぞれの実情を踏まえた助言をいただきながら準備を進めていった。

●練習会場（浅生スポーツセンター）

(1) 一般利用者との調整

浅生スポーツセンターは、アリーナ、室内温水プール、武道場等を備えた複合スポーツ施設で、練習会場としてアリーナ等を使用したが、それ以外は一般利用を制限することのないよう調整を行った。一般利用者と選手の動線分離や駐車場の利用方法など、何度も現地で打ち合わせを重ねながら調整を進めていった。

(2) 施設管理者との調整

設営・撤去期間中や練習期間中は、開閉館時間が通常と比較すると朝早く夜遅くなってしまう。通常よりも長い開閉館時間の中で、一般利用者への対応も行っていただくことになった。

練習会場のレイアウトは、体育館棟２階、ストレッチエリア及び食事会場は武道場棟１階となっており、別棟で階数が違っていることから、動線やその他諸室の使い方を含めて施設をどう利用するか現場合わせを重ねながら準備を進めていった。また、浅生スポーツセンターは、東京2020オリンピック事前合宿の会場になったこともあり、施設管理者からは、その際の経験を踏まえた助言を数多くいただいた。

新体操会場に関する調整

競技会場、練習会場ともに西日本総合展示場新館とした。

●大会・練習会場（西日本総合展示場新館）

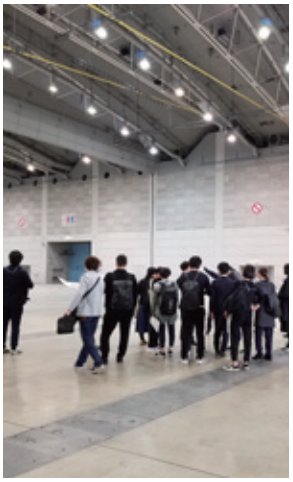
西日本総合展示場新館の8,000㎡の無柱空間は、ニーズに応じて3分割利用（ABCの3分割）ができる。有効天井高13m、床強度５t/㎡（集中荷重）のため、重量物の展示はもちろん、効率的な搬入･搬出作業が可能である。

また、小倉駅に近く、動く歩道もあり、アクセスも良好である。

(1) 施設管理者等との調整

大会開催にあたっては、西日本総合展示場新館の所管課である産業経済局MICE推進課、指定管理者である北九州観光コンベンション協会、AIMビルを所有する北九州輸入促進センター（キプロ）から、施設の利用調整や視察対応等のあらゆる面で協力をいただいた。

MICE推進課、北九州観光コンベンション協会、キプロ担当者に集まっていただき、大会概要、施設図面、選手や大会関係者の動線、エレベーターの占用利用、利用予約、工事スケジュール等を説明し、大会の円滑な開催に向け協議を重ねた。



(2) 会場の機能強化

大会開催に合わせ、西日本総合展示場新館の会場トイレの改修と照明のLED化などを行った。

トイレは、ユニバーサルデザインによるおもてなし空間としてショールーム化し、「SDGs未来都市」の取組みや「ものづくりのまち北九州」の発信を強化した。また、照明を水銀灯からLED化することにより、設備環境の向上と、省エネ化を図った。

(3) 関係者用駐車場の確保

ローディングヤードの荷捌場エリアは、AIMビル関係の搬出入車等の駐車場として利用した。南側の駐車場エリアを占用利用した。南側駐車場エリアは、通常、施設入居者向けの駐車場として利用されているため、占用利用にあたっては、駐車場を管理している北九州観光コンベンション協会に、代替駐車場の手配等の調整をしていただいた。

インフラ環境の整備に関する調整

(1) インターネット(通信)環境の整備

国際スポーツ大会の運営において、インターネット環境の整備は重要度が高く、近年デジタル化やグローバル化の進展に伴ってその重要度も増している。

本市は、開催都市及び施設管理担当として、当該整備を調整することとなったが、必要な環境等未知な部分が多く、また、コロナ禍で海外メディアの来日や、メディア対応など不確定要素が多く、非常に苦慮した。

そのような中、これまでの実績や地元企業の協力を得ながら進めていった。

特に、大会の放送や情報発信を行う国内外のメディアや報道関係のインターネット環境については、何本もの専用線の確保や帯域保証といった非常にハイレベルな要求に対応した。

(2) 電源環境の整備

電源環境についても、インターネット環境と同様に大会にとっては必要不可欠かつ、トラブルが大会に与える影響が非常に大きく、失敗が許されない業務である。

会場内における運営の電源、演出の電源、諸室の電源、さらには、館外に設置した諸室の電源と、それぞれの容量等を見積り、業者と必要環境の整備を行った。

また、常設の電源で足りない電源や、停電時のトラブル防止のため、電源車も活用した。

大会に向けた様々な対応

大会における医療や救急等に関する調整

●医療体制

2021年3月、大会のメディカル部会が置かれた。この部会の主な役割は、大会中の選手団等の傷病対応、アンチ･ドーピング、コロナ対策などである。

この中で本市は、公式病院の選定、傷病者の救急搬送、ドーピング検査会場の設営、地元としてのコロナ対策(p54～57参照)などに、深く関わった。

公式病院・公式薬局

大会には海外から多くの選手団が参加することから、傷病が発生した場合、言語、アンチ･ドーピング、医療費の支払い(IMSSA保険という国際体操連盟が加入する海外の医療保険で対応する必要あり)等が問題となる。迅速に対応するため、選手団等を受け入れる公式病院と公式薬局をあらかじめ選定した。

公式病院の選定にあたっては、北九州市医師会に相談したほか、北九州市歯科医師会、北九州市薬剤師会に協力いただいた。

公式病院

市立医療センター(小倉北区)
北九州総合病院(小倉北区)
九州歯科大学附属病院(小倉北区)
市立八幡病院(八幡東区)
地域医療機能推進機構九州病院(八幡西区)
戸畑共立病院(戸畑区)
戸畑総合病院(戸畑区)
労働者健康安全機構総合せき損センター(飯塚市)

公式薬局

サンキュードラッグ
小倉駅前店(小倉北区)
黒崎駅前薬局(八幡西区)

救急体制

大会では、怪我や病気(特に大怪我や急病)が発生した場合、迅速な対応が必要となる。そこで、本市消防局に対し、大会における救急協力を依頼した。

大会会場では、救急隊・救急車の常時待機、練習会場やホテルではオンコール対応の体制をとった。

本大会ではコロナ対策のバブルを徹底するため、傷病の程度に関わらず、自分で通院するのではなく、全て救急車で搬送するというオペレーションとした。

10月14日に総合体育館、25日に西日本総合展示場新館において、救急隊、会場医師、福岡県や本市の担当者が参加し、本番さながらの救急搬送訓練を実施した。

なお、大会期間中は選手、コーチ、関係者の傷病で13件の搬送があった。

ドーピング関係

ドーピング関係については、メディカル部会で検討が進められ、本市は、ドーピングルームやドーピングカーの場所、検査場内のレイアウト調整、ドーピングエデュケーション(ドーピング教育)、当日の補佐等を担当した。

シャペロン(通告員)の手配は福岡県が担当した。

(1)事前打合せ・確認

国際体操連盟の岩崎メディカル委員長や日本体操協会の立花情報医科学アンチ・ドーピング委員長等とともに協議を行い、施設管理部や施設側との調整、JADA(公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構)、北九州総合病院との調整を行った。

ドーピングという言葉は知っているものの、これまであまり関わりの無い内容であり、知らない言葉が出る等戸惑いもあったが、関係者の協力により円滑に進めることができた。

(2)ドーピングエリアの調整

施設に専用のドーピングエリアがあるわけではなく、諸室不足にも苦慮していた中で、ドーピングエリアの調整は難航した。

また、ドーピングカーの調整については、立花委員長が行っていたが、世界体操については、全期間の利用が難しくなったため、世界新体操のみの導入となった。

最終的には、世界体操は男子更衣室、世界新体操は駐車場エリアに仮設のブースを設置した。

(3)ドーピングエデュケーション

WADA(世界アンチ・ドーピング機構)の最近の取組みとしてアンチ・ドーピング教育に力を入れており、その周知のため、選手やコーチ等のためのブースの設置を調整した。

しかしながら、コロナ禍で接触を最小限に抑えるため、パンフレットの設置と映像の放映でのPRのみとなった。

(4)当日の対応

ドーピング検査については、全てJADAが行った。シャペロンへの事前説明、指示等が行われ、本市は施設担当として、施設側との調整等を行った。ドーピング検査が終了しなければ施設が閉館できないため、閉館がドーピング検査待ちとなる日もあった。

●危機管理に関する調整

消防対策

大会準備段階から、消防局と何度もミーティングを重ね、大会に係る消防対策についての情報共有と意見交換を行った。

また、消防局が独自に消防警戒本部を立ち上げ、安全・安心な大会にするため、「消防対策実施計画」を作成し、事前の関連施設への立ち入り検査や、怪我や病気、事故等に備えた常駐対応等の検討を行った。

避難訓練

大会会場等において、火災を想定した避難訓練を実施した。海外選手の避難を想定し、英語による館内放送を用いた避難誘導や、避難を呼びかけるフリップボードの利用の他、避難経路の確認や緊急時の対応の確認等を行った。

(1) 9月24日：浅生スポーツセンター
(2) 9月24日：総合体育館
(3) 9月28日：穴生ドーム
(4)10月15日：西日本総合展示場新館

警察

大会では、多くの海外選手団や観客が参加することから、雑踏対策、交通対策、テロ対策等が重要となる。

7月19日、第32回北九州市と県警察との連絡会議において、市から県警に対し、本大会の警備対策等への協力を依頼するとともに、定期的に情報交換や協議を行った。

大会期間中は、24時間体制の協力をしていただいた。

輸送や宿泊・食事に関する調整

●輸送

選手団

(1) 輸送におけるコロナ対策

選手団等の輸送にあたり、バブル方式のコロナ対策を講じた。選手団の行動範囲を、空港、ホテル、大会会場、練習会場、食事会場のみに制限(各施設の中でも、一般市民との動線を分離)するとともに、移動は組織委員会が手配した専用車両によることとした(公共交通機関の使用を禁止した)。

(2) 空港送迎

各国のフライト情報に合わせて、福岡空港及び北九州空港から宿泊施設までの無料送迎サービスを、入国については10月12日から、出国については11月1日まで行った。

海外選手団については、コロナ対策のため、成田空港、羽田空港で入国時のPCR検査を行っていた。その検査が予定通り進まず、北九州空港や福岡空港へのフライトについて、時間や到着空港の変更が相次いだ。

(3) 市内移動

選手団の移動については、複数ホテルの分散による大型バスの乗り入れ問題や車内における密回避等、コロナ対策の観点から、国ごとにハイヤー(タクシーの貸切り)を用いた。第一交通産業のハイヤーを中心に、世界体操では延べ3,700台(1国あたり約340台)、世界新体操では延べ約1,200台(1国あたり約180台)を動員した。また、審判団については同一ホテルでまとまった移動であったため、ホテル、大会会場間の移動をマイクロバスとした。

ハイヤーの乗降場所には、スタッフや警備員を配置し、発着の管理、乗降の安全確保、市民との接触回避等を行った。

観客輸送

世界体操の会場である総合体育館の駐車場には、諸室用の仮設コンテナを多数設置するとともに、選手団用の

タクシープールとして使用したことなどから、観客用の駐車場がなく、また、交通アクセスも限定されているため、観客の輸送手段を確保する必要があった。

車での来場者に対しては、八幡東区東田地区に臨時駐車場(無料)を設け、臨時駐車場から大会会場までシャトルバス(無料)を運行した。

シャトルバスの一部に、電気バス(市内企業が開発)、燃料電池バスを活用し、SDGsをPRした。

公共交通機関での来場者に対しては、西鉄バス北九州の協力により従来の定期便に加え、小倉駅バスセンターから大会会場まで臨時バス(到津の森公園前経由)を運行した。料金は定期便と同額(片道大人260円、小児・障がい者130円)であった。

●宿泊

選手団等や大会関係者の宿泊施設は、運営面や利便性を考慮し、小倉都心部や黒崎地区で確保した。

ホテルでは、選手団用のフロアを貸し切りにするとともに、エレベーターの専用利用、時間差利用等で一般客と動線を分離するなど、バブル方式のコロナ対策を講じた。

配宿

名　称	所在地	主な宿泊者
リーガロイヤルホテル小倉	小倉北区浅野	大会役員、選手団
JR九州ステーションホテル小倉	小倉北区浅野	審判員
ダイワロイネットホテル小倉駅前	小倉北区魚町	選手団
ホテルクラウンパレス小倉	小倉北区馬借	
西鉄イン小倉	小倉北区米町	
コンフォートホテル小倉	小倉北区浅野	
ホテルテトラ北九州	小倉北区鍛冶町	
ホテルクラウンヒルズ小倉	小倉北区紺屋町	
東横イン小倉駅南口	小倉北区京町	
東横イン小倉駅新幹線口	小倉北区浅野	
アクティブリゾーツ福岡八幡	八幡東区枝光	
アパホテル小倉駅前	小倉北区浅野	報道関係者
コンフォートホテル黒崎	八幡西区黒崎	選手団(体操のみ)
西鉄イン黒崎	八幡西区黒崎	
アルクイン黒崎	八幡西区黒崎	設営業者

インフォメーションデスク

選手団が宿泊するホテルには、インフォメーションデスクを設置し、選手団との連絡窓口とした。また、コロナ対策のため外出できない選手に代わり、大会スタッフが日用品の買い出しに行く等、きめ細やかな対応が行われた。

●食事

提供方法

食事の際はマスクを外すため、コロナの感染リスクが高くなる。より厳格なコロナ対策が必要となるが、十分にできないホテルもあった。

そこで、あるあるCity2号館の1階フロアをすべて貸し切り、選手等専用のメインダイニング会場(食事会場)とした。ここでは、ソーシャルディスタンスの確保、座席間の間仕切りの設置、ビュッフェの個包装での提供といったコロナ対策を行い、食事時の選手間の接触をなくすようにした。昼食・夕食はこの1か所で提供した。

また、朝食は、各ホテルの自室で弁当をとってもらった。

大会会場、練習会場では、カロリーメイト、チョコレート、フルーツ、ランチパック等の軽食を提供した。

加えて、コロナ対策以外にも、次のことに配慮した。

・食文化の違い等を考慮し、「ビュッフェ形式」で提供
・メニューごとの成分表示案内を設置
・選手等のニーズを考慮し、途中から温かい食事も提供

審判

審判の食事について、選手等と同じ「ビュッフェ形式」のものに加え、宿泊ホテルにも軽食を用意し、提供した。

スタッフ、観客

大会スタッフやボランティア等の食事について、昼食・夕食として弁当と飲み物を提供した。弁当については、スタッフのモチベーションを考慮し、肉中心、魚中心など毎食2～3種類以上を用意し、自由に選択ができるようにした。

観客の食事については、大会会場敷地内にキッチンカーや飲食ブースを設け、食事や飲み物等の販売を行うとともに、飲食スペースも設置した。

各種視察の受入れ、協議

2020年12月頃から2021年10月初旬の大会開催準備期間まで、国際体操連盟の渡辺会長、岩崎メディカル委員長、日本体操協会の藤田会長、竹内副会長、山本専務理事などのキーパーソンが本市を訪れ、視察や協議を行った。

また、実務者レベルとして、設営業者等の大会関係者が会場や関係施設を何度も視察し、念入りに準備が進められていった。

なお、本来行われるべき、国際体操連盟の技術委員長や競技スタッフによる開催都市の視察については、コロナによる渡航制限等のため、実施されなかった。

本市としても、大会運営や会場内諸室、コロナ対策等を学ぶため、担当職員が、高崎アリーナ（群馬県）で行われた全日本体操個人総合・種目別選手権（2020年12月12日・13日）、新体操個人のオリンピック日本代表選考会（2021年6月19日・20日）の視察を行った。

大会に向けた気運醸成・本市の強みの活用

２つの世界選手権の同時開催が決定し、北九州市が世界に注目されるまたとない機会を得た。大会を通じて市の活性化や魅力発信に繋げようと、市役所内で大会を活用した取組みを募ったところ、各部署から合計200近いアイデアが寄せられた。これを100あまりの事業に厳選、集約し、「100本プロジェクト」と称して取り組んでいくこととなった。

もちろん、市役所だけで取組みを進めていけるはずもなく、市民挙げての協力が不可欠である。幅広い協力を呼びかけたところ、老若男女問わず多くの市民や団体が快く応じ、様々な取組みを前進させることができた。

●北九修造プロジェクト

大会のメインキャスターを務める松岡修造さんとともに、地域を巻き込みながら、大会の気運醸成を行った。

1.「北九修造プロジェクト」の誕生

大会100日前イベントに松岡修造さんに出演していただくことになり、5月27日からオンライン会議を重ねた。

会議では、「大会を通じて、北九州を元気にしたい」、「一校一国応援など、市民をあげて大会を盛り上げたい」という本市の思いを、松岡修造さんに伝えた。松岡修造さんが「僕は『北九修造』として、北九州を一緒に盛り上げていく」と応じ、「北九修造プロジェクト」が誕生した。

このプロジェクトでは、「CAN DO(感動)！ つなぐ 北九州」をキャッチフレーズに様々な取組みを展開した。

2. 市内小中学校とのオンライン交流／6月29日

100日前イベントの前に大会に向けた気運醸成を図るため、松岡修造さんと長尾小学校、木屋瀬小学校、曽根中学校のオンライン交流を行った。

3. 大会100日前イベント／7月10日

大会100日前となる7月10日に、記念イベントを開催した。会場は西日本総合展示場新館で、大会関係者含め312人が参加した（※コロナ感染拡大防止のため、定員を10分の1以下に設定）。

イベントには松岡修造さんをはじめ、元体操日本代表の田中理恵さん、幅広い世代に人気の小林よしひささん（NHK おかあさんといっしょ第11代体操のお兄さん）が登場し、会場を盛り上げた。

第１部では、大会の見どころや注目選手、本市の魅力をテーマに３人がトークショーを行った。

第２部では、日本体操協会の一般体操「The Taiso」を田中さん、小林さんの指導により、会場の参加者も一緒に行った。

4. 市民とのオンライン交流／7月10日

100日前イベント終了後、松岡修造さんが、八幡中央高等学校書道部、北九州青年会議所、小倉城竹あかり実行委員会とのオンライン交流をそれぞれ行った。

5. 市内小学校等との対面交流／10月4日

松岡修造さんが、大会前に、長尾小学校、木屋瀬小学校、小倉城竹あかり実行委員会を訪問し、対面交流を行った。

小学校には、松岡修造さんが実際に訪問することを事前に伝えず、サプライズを演出。校長室でのオンライン交流から始め、子どもたちのいる体育館に突入する念の入れようで、子どもたちは大感激。松岡修造さんも子どもたちの熱い思いに触れて大満足の一日となった。

本プロジェクトを通じ、松岡修造さんからは「北九州の皆さんの熱い思いに触れ、自分が力をもらった。北九州の皆さん、ありがとう！」「北九州の人たちが、自分たちのまちの良さに気づいたことが一番大きなこと。大会でつかんだ自信を今後につなげてほしい」とのメッセージが寄せられた。

●ポーラによる新体操メークのデモンストレーション

「フェアリージャパン POLA」オフィシャルパートナーとしてビューティーサポート活動を行っているポーラと連携し、新体操メークのデモンストレーションや写真展示を実施。7月10日の100日前イベント会場や、7月31日の新体操の楽しみ方講座において、来場者の高い関心を集めた。

●田中理恵さん・小林よしひささんによる体操教室訪問

7月10日、100日前イベント終了後、田中理恵さんと小林よしひささんが市内の体操クラブ（WISH 体操クラブ、北九州ジュニア体操クラブ）を訪問した。子どもたちの演技へのアドバイスやQ&Aコーナーの後、小林さんの代名詞でもある「ブンバ・ボーン体操」を一緒に行い大いに盛り上がった。

●楽しみ方講座（体操・新体操）

体操・新体操のファンを増やそうと、東京2020オリンピックの体操競技と新体操競技の開催と合わせて、楽しみ方講座を開催した。

1. 世界体操の楽しみ方講座／7月22日

ATOMica北九州（セントシティ7階）で、元アテネオリンピック日本代表コーチの松浦聡志さん（自由ケ丘高等学校非常勤講師）による「世界体操の楽しみ方講座」を開催した。

体操の歴史や特徴、魅力、体操競技の採点方法、種目別の解説などがあり、参加者の大会への関心を高めることができた。

2. 世界新体操の楽しみ方講座／7月31日

KOKURA natu-garden（セントシティ10階）で、新体操専門家の柿本真弓さん（福岡大学スポーツ科学部教授）による「世界新体操の楽しみ方講座」を開催した。

福岡大学新体操競技部の学生によるデモンストレーションもあり、講座後のアンケートでは、参加者の多くが「実際に会場で観戦したい」と回答した。

●Z世代プロジェクト（ATOMica、Mahal.KitaQ）

7月22日、Z世代（おおむね25歳までの若者）による北九州市と体操・新体操の魅力発見と大会のPRを目的とした「Z世代プロジェクト」を開始した。

本市の魅力を発見し発信する地域型プロジェクト（企画運営 ATOMica）と、諸外国について理解を深める異文化理解型プロジェクト（企画運営 Mahal.KitaQ）の2グループがあり、大学生を中心としたメンバーが大会を盛り上げる様々な取組みを行った。

(1)「北九州市の美しさ」を再定義したポスター制作

体操・新体操を象徴する「美」と身近にある「北九州の美しさ」を掛け合わせた大会PRポスターを9種類制作し、市内各所で掲出した。

(2) 大会のPR方法を企画・実践

TikTokやTwitter、Blogなどの SNSを活用したPRに加え、大会参加71か国・地域の言葉で「ありがとう」の寄せ書きを市民から募って掲出する企画を実施した。

(3)「北九州から世界一周」イベント

10月2日、KOKURA natu-garden（セントシティ10階）で、留学など海外経験のある学生により、世界体操・新体操出場国の紹介やクイズ等で大会を盛り上げる市民向けイベントを開催した。

(4) Mini Demo Day（中間報告会）

10月3日、ATOMica北九州（セントシティ7階）にて、中間報告会を実施した。

(5) Demo Day（最終報告会）

11月28日、イオンモール八幡東にて最終報告会を実施し、活動を総括。各プロジェクトのMVPを選出した。

プロジェクトに参加した学生からは、「大会を通じて、市全体が盛り上がっていく様子を肌で感じた」「全くのゼロから企画運営を最後までやり遂げる貴重な経験をさせてもらった」「コロナ禍の中、北九州が結んでくれた様々な縁をこれからも大切にしたい」等の声が寄せられた。

世界体操・新体操は、将来を担う若者たちの成長と新たな出会いを育むまたとない機会でもあった。

●みんなで作るエコメダルプロジェクト

大会で選手に授与するメダルは、使用済の携帯電話等の廃電子基板から金属をリサイクルして製作することになった。その金属を市民から広く集めるため、9月17日から30日まで、「エコメダルプロジェクト」を実施した。

市庁舎1階ロビーの大会PRブースに、使用済の携帯電話等の回収ボックス（1箱に約100個が回収可能）を設置し、市民に呼び掛けた。

当初、回収量は2箱程度と見込まれたが、市民の熱意により、想定を大きく上回る6箱分（約600個）が集まった。

●一校一国応援プロジェクト

市立小学校等が、それぞれ応援する国を決め、その国に関する学習や応援を行う「一校一国応援プロジェクト」を実施した。全ての小学校（129校）、希望する中学校10校、特別支援学校（小学部）7校、特別支援学校（中学部）7校の合計153校が参加した。

応援する国は、体操で1国、新体操で1国の合計2国とし、日本をプラスした。

(1) 応援国についての学習

応援国の地理や文化、歴史、言語などをテーマに、総合学習の時間などを活用して調べ学習に取り組んだ。

(2) 応援メッセージの作成

各学校が応援メッセージを作成し、大会会場や練習会場、食事会場、おもてなしVillageで、選手が見られるように掲出した。

(3) 関係者との交流会

① 6月29日：木屋瀬小学校6年生、長尾小学校6年生、曽根中学校3年生が、それぞれ松岡修造さんとオンライン交流を実施。（再掲）

②10月4日：木屋瀬小学校6年生、長尾小学校6年生がそれぞれ松岡修造さんと対面交流を実施。（再掲）

③10月18日：あやめが丘小学校6年生、小森江東小

学校６年生が、それぞれ水鳥寿思男子代表監督とオンライン交流を実施。

(4) 公式練習見学及び大会観戦事業（37校 2,685人）
①公式練習見学（23校 1,928人）
②大会観戦事業（14校 757人）

プロジェクトに関わった児童生徒からは「一生に一度あるかないかの体験ができて感動した」「競技を観戦して、選手一人ひとりの懸命な姿がとても格好良かった」「たとえ国が違ったとしても１つのことを通じて分かり合えたらいい」等、興奮冷めやらぬ感想があがった。

また、教職員からは「世界レベルの選手の技術に子どもたちは皆感動していた。これを機にスポーツへの関心・意欲が高まってほしい」「コロナ禍で充実感のある活動ができない中、子どもたちの心に残る貴重な経験になった」等の声が寄せられ、世界体操・新体操は子どもたちに多くの学びや気づきをもたらしたことがうかがえた。

●みんなで応援プロジェクト（市民センター）

一校一国応援プロジェクトに合わせて、各地域の市民も市民センターを中心とした応援活動を行った。

(1) 応援国についての学習

応援国に関する情報や体操・新体操競技に関する情報をパネルなどにまとめて館内掲示し、大会をPRした。

また、応援国に関する専門家を招いた事例もあった。10月16日、永犬丸西市民センターが応援国のルーマニアを学習するためにJICA（独立行政法人国際協力機構）の青年海外協力隊OGを講師に招き、交流会を開催した。

(2) 応援メッセージの作成

各市民センターで応援メッセージを作成し、センター館内のみならず、大会会場や練習会場、食事会場、おもてなしVillageで、選手が見られるように掲出した。

(3) 応援国とのオンライン交流

10月１日、田原市民センター及び鞘ヶ谷小学校４年生が、応援国であるタイの事前学習や今後の応援活動を進めるため、それぞれ在福岡タイ王国領事館とオンライン交流を実施した。

10月５日には、牧山東市民センター及び今町小学校５、６年生が、応援国であるベトナムの事前学習や今後の応援活動を進めるため、それぞれ在福岡ベトナム総領事館とオンライン交流を実施した。

10月25日、企救丘市民センターが、応援国であるブルガリアの新体操代表選手団とオンライン交流を実施。子どもたちが選手たちに対し、事前学習の発表や質問などを交えつつ、最後は選手が教えてくれたブルガリア語で応援のエールを送った。

参加した市民センターからは「このプロジェクトを通じて市民センター・地域・子どもたちの連携が深まり、満足できる活動内容になった」「未知の国であった応援国を良く知ることができ、世界へと視野が広がった。地域で共通の話題にもなり会話が増えた」「内村航平選手が北九州生まれであることが広く認知され、市民の郷土愛や誇りが深まったように感じる」等の声が寄せられた。

世界体操・新体操は、多くの市民が自らのまちの良さを再認識し、地域が活性化するきっかけにもなった。

●幼稚園・保育所による応援プロジェクト

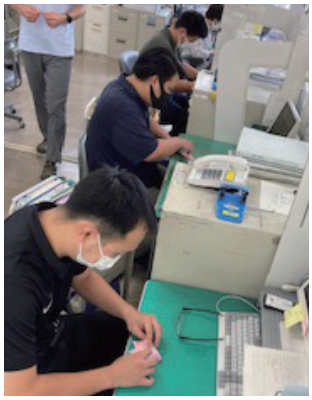
北九州市私立幼稚園連盟及び北九州市保育所連盟を通じて、プロジェクト参加を希望する幼稚園・保育所を募集した。計72園・所が選手向け応援メッセージを作成し、大会会場、練習会場、食事会場、おもてなしVillageに掲出した(合計691枚)。

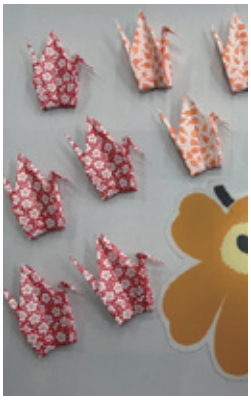
●老人クラブ連合会・穴生学舎による応援プロジェクト

北九州市老人クラブ連合会と穴生学舎(北九州市立年長者研修大学校)から、折り紙作品によるおもてなし及び応援メッセージ作成の申し出を受けた。折り鶴をはじめとした折り紙作品はお土産として練習会場や食事会場で選手等に配布し、大変喜ばれた。また、応援メッセージは大会会場、練習会場、食事会場、おもてなしVillageに掲出した。

●市職員による応援プロジェクト

北九州市職員による「折り紙作品によるおもてなし」を実施した。折り鶴をはじめとする折り紙作品を募ったところ、千代紙1,000枚分の作品が集まった。これらもお土産として練習会場や食事会場で選手等に配布した。





●道路サポーター事業(花植え活動)

道路サポーターをはじめとした市民ボランティアの方々が、大会会場周辺や練習会場周辺で花植え活動を行い、おもてなしの気運を高めた。

(1)浅生スポーツセンター　10月5日
(2)穴生ドーム　10月7日
(3)小倉駅新幹線口ペデストリアンデッキ　10月11日

●竹灯籠によるおもてなし

本市の玄関口である北九州空港及び両大会会場に、市民ボランティアの方々が制作した、世界体操・新体操をモチーフにした竹灯籠を設置し、歓迎ムードを演出した。

(1)北九州空港(10月12日から10月31日まで)

(2)総合体育館(世界体操開催期間中)

(3)あさの汐風公園(世界新体操開催期間中)

●おもてなし清掃活動

大会を控え、選手たちを気持ちよく迎えるための清掃活動が各所で行われた。10月13日、小倉北区の自治会を中心としたボランティアの方々が「クリーンアップできれいやん」と題し、JR小倉駅北口及び南口で大規模な清掃活動を行った。西日本総合展示場新館周辺でも、日本たばこ産業の有志等による清掃活動が行われた。

市の取組みとしては、ロードスイーパーによる主要道路の清掃を重点的に行ったほか、まち美化ボランティア袋に大会ロゴを印刷して配布するなどPRに努めた。

●SDGsに関する取組み

本大会に合わせ、市民、関係団体、企業、本市等が連携して、「SDGs未来都市 北九州市」をPRするさまざまな取組みを行った。

国際体操連盟も、渡辺会長のもと、今大会は「エンターテイメントのスポーツイベント」から「SDGsを推進する社会貢献型スポーツイベント」への変革に挑戦すべく、本市とタッグを組み、新たな大会の形を創造した。

1. 本市の取組みの軸

(1) SDGs未来都市としての情報発信(PR動画・テレビ等)

(2) SDGsを体感できるコンテンツの活用

SDGsゴールを可視化し、SDGsをより浸透させる意識づけを行った。

2. 取組み内容(SDGs100本プロジェクト)

主な取組みを以下に列挙する。

(1) 本市の技術を活用した「リサイクルメダル」

大会で選手に授与した金・銀・銅メダルは、市内企業アステック入江により、使用済携帯電話などの廃電子基板から抽出した金属を用いて製作された。リボン部分はリサイクル衣料の再生糸を織り込んだ「小倉織」を使用。

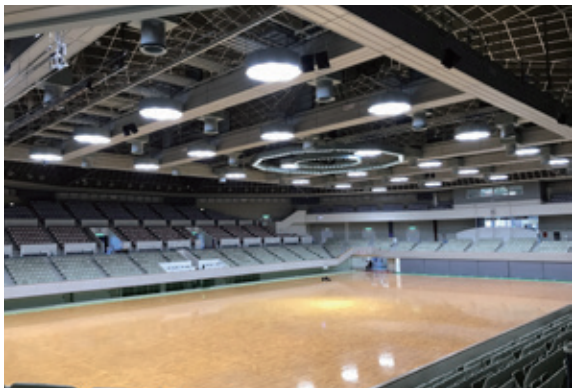
(2) 省エネや再生可能エネルギーの活用

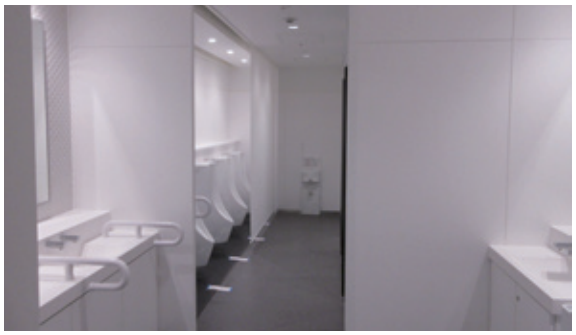
大会会場となる総合体育館、西日本総合展示場新館の機能強化を実施。

・照明のLED化

・トイレの節水化、ユニバーサルデザイン化

・再生可能エネルギー100%電力の使用　など





(3) 次世代輸送手段を活用した観客の輸送

ゼロカーボンに向けた取組みとして、観客輸送の一部に電気バスや燃料電池バスを活用した。電気バスは、市内企業の車両を大会用にラッピングした。

(4)ロボットの活用

市内企業でスポンサーでもある安川電機の産業ロボットを、選手へのメダル授与式に活用。また、市PRブースにおいてICT・介護ロボット等を活用した介護現場の新たな働き方「北九州モデル」を紹介するなど、持続可能社会における人とロボットの共存をPR。

(5)フードロス対策

厳格な個数管理により適正量の食事を提供し、余剰な食事の発生抑制に努めた。それでも発生する余ったお弁当等については、フードバンクの協力による各所への配布や大会スタッフが持ち帰るなどしてロス削減を図った。食べ残しについては市内企業ウエルクリエイトによるコンポスト化(堆肥化)を採用し、廃棄物ではなく資源として循環させる取組みを推進した。

3. その他

(1)SDGsマンスとの連携(パンフレットの作成)

(2)SDGsプレゼン資料(英語版)の作成

(3) 記者会見の実施(10月1日)

10～11月に実施される北九州SDGsマンスと連携し、SDGs未来都市としての情報発信や、SDGsを体感できる各種コンテンツを「こんなところにSDGs」100本プロジェクトとして紹介した。

●PARKOUR PREMIERE CUP 2021 in KOKURAJO CASTLE

「パルクール」は1980年代にフランスで発祥したアーバンスポーツである。街なかの壁や地形を活かし、走る・跳ぶ・登る・飛び移るなどダイナミックな動作を行う。ヨーロッパでは、生涯スポーツとして老若男女に親しまれ、子どものパルクール教室が盛んな一方、高齢者の健康増進(鉄棒にぶら下がる等)にも寄与している。

体操競技に注目が集まるこの時期に、本市の盛り上げに寄与するため、10月2日、小倉城周辺(歴史の道)で、「PARKOUR PREMIERE CUP 2021 in KOKURAJO CASTLE」を開催した。種目はフリースタイルで、日本のトップクラスの選手が、最大90秒間の中で技を表現し、実施・構成・難度の得点を競った。

コロナ禍のため、無観客開催となったが、小倉城を背景に繰り広げられた大会の様子は、オンラインで広く発信された。

世界体操の運営（施設関連を中心に）

選手・関係者が60以上もの国や地域から訪れ、大会会場、練習会場として、総合体育館、浅生スポーツセンター、穴生ドームの３つの施設が使用されたことで、各会場の設営や運営、十分な人員配備が必要となった。

選手団及び大会関係者の数や寄せられる要望も多く、練習会場の運営はたいへん複雑であったが、施設管理者を含めた関係各所と連携を密に取り、スケジュール通りに運営を行うことができた。

・10月13日　体操選手団到着
・10月14日　練習会場にて練習がスタート
・10月15日　競技会場にて練習がスタート
・10月18日　第50回世界体操競技選手権　開幕

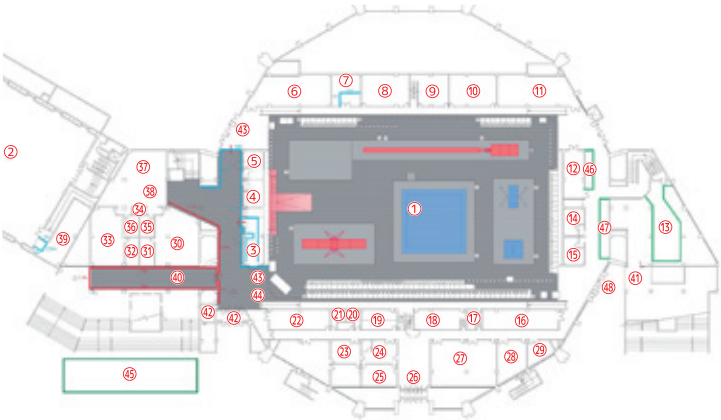
●大会会場（総合体育館）

総合体育館の第一競技場を競技会場とし、第二競技場をウォームアップエリアとして使用した。

ウォームアップエリア

■諸室計画

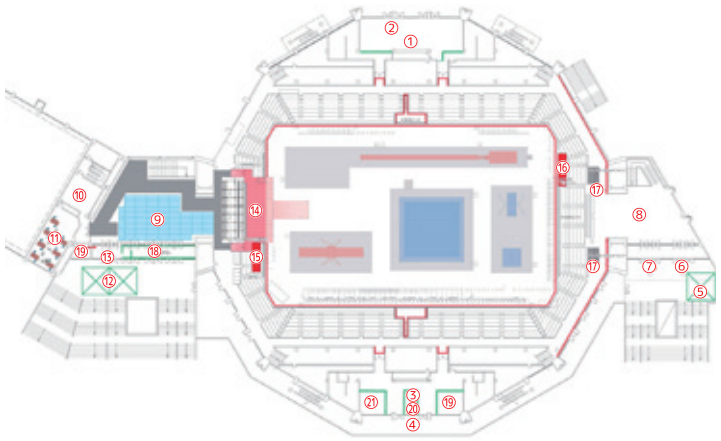
1 階



①	競技エリア
②	ウォーミングアップ会場
③	LOC広報
④	女子トイレ（選手団用）
⑤	男子トイレ（選手団用）
⑥	記録サーバー室（スイスタイミング社）
⑦	タイシャン控室
⑧	男子技術委員会室
⑨	FIG事務局オフィス
⑩	女子技術委員会室
⑪	第４倉庫
⑫	第３倉庫
⑬	FIG TVオフィス
⑭	女子トイレ（海外関係者用）
⑮	男子トイレ（海外関係者用）
⑯	富士通サーバー室
⑰	警備本部
⑱	競技部
⑲	応急処置室・救急隊控室
⑳	男子トイレ（国内関係者用）
㉑	女子トイレ（国内関係者用）
㉒	大会備品室
㉓	応接室
㉔	来賓控室

㉕	来賓室
㉖	来賓／役員入場口
㉗	審判会議室小・LOC事務室
㉘	医療補助室・設営業者控室
㉙	メディカルルーム
㉚	ドーピングルーム
㉛	ドーピングルーム
㉜	女子シャワー室
㉝	女子更衣室
㉞	ドーピングルーム
㉟	ドーピングルーム
㊱	女子トイレ
㊲	マッサージエリア
㊳	選手ケータリング
㊴	タイシャン　器具入れ替え倉庫
㊵	ヴァーチャルメディアセンター
㊶	第10倉庫
㊷	警察控室
㊸	ミックスゾーン
㊹	バーチャルミックスゾーン
㊺	選手ケータリング
㊻	審判控室
㊼	審判控室
㊽	メディア／スタッフ入場口

2 階

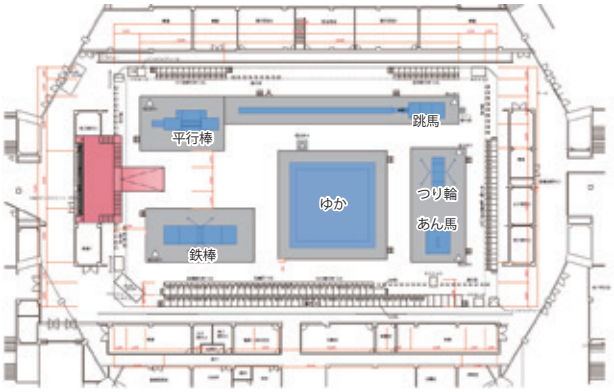


①	テレビ朝日スタッフ控室
②	2F南側ロビー　出入口
③	2F北側ロビー
④	来賓／役員入場口
⑤	チケットセンター
⑥	チケット入場口
⑦	2F西側エントランス出入口
⑧	2F西側エントランスホール
⑨	ストレッチエリア
⑩	食事管理室
⑪	選手ケータリング

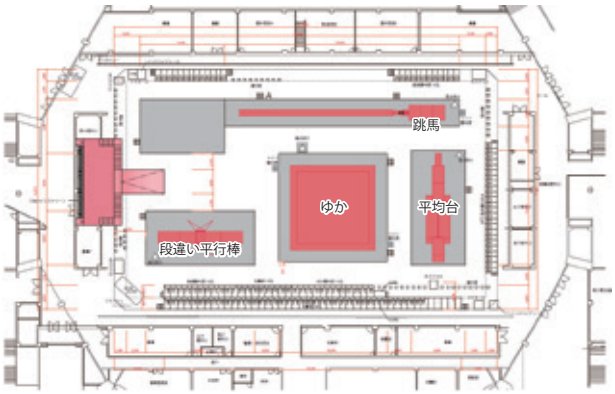
⑫	スポーツインフォメーションデスク
⑬	選手入場口
⑭	メインステージ
⑮	カメラ台
⑯	カメラ台
⑰	車いす席
⑱	男性更衣室
⑲	関係者用控室
⑳	清掃業者用控室
㉑	観客用救護室

■競技会場レイアウト

男子



女子



図面作成後も、大会期間中に諸室配置等の変更が多々あった。

(1)設営・撤去

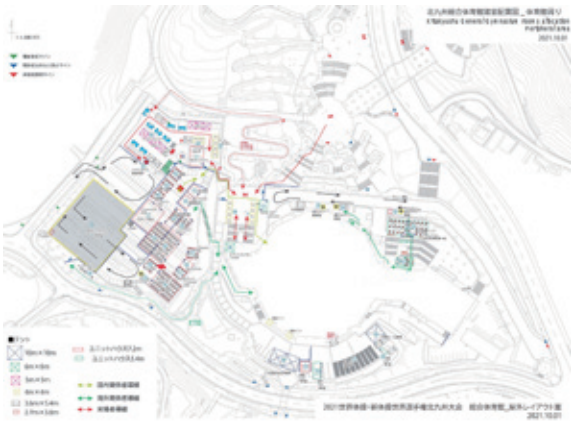
期間が短いなか、体育館内の設営だけでなく、体育館駐車場への仮設コンテナの設置等、広範囲に及ぶ設営に加え、多種多様な備品の準備等もあり、設営スケジュールの管理が特に重要となった。

作業が朝早くから夜遅くまでかかることもあったが、各関係者や施設管理者に協力いただき、迅速に作業を進めることができた。

一方で、総合体育館、浅生スポーツセンターの床については、器具設置時の床面の保護が十分でなかったため、多数の傷がついていた。

大会が終わって器具を撤去した後、組織委員会や設営業者の負担で床面の補修を行った。

■会場周辺図



図面作成後も、大会期間中に諸室配置等の変更が多々あった。

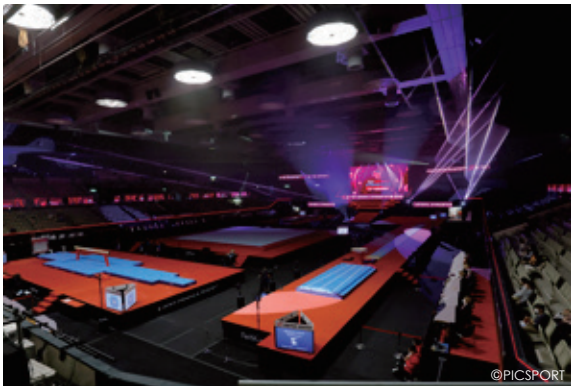
(2)大会期間中

施設の開館・閉館及び施設管理者との調整やインフラ関係等を中心に、大会運営の側面的支援を行った。

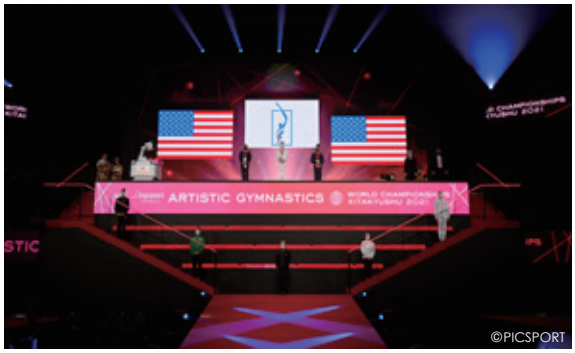
初めの頃は、多少のトラブルや想定外の出来事はあったものの、運営スタッフや施設管理者の協力等により、日を追うごとにスムーズな対応ができた。

(3)場内演出

競技会場の装飾は、黒と赤を基調とし、館内を可能な限り黒幕で覆い、スタンド壁面にはLEDパネルが設置された。なお、装飾に際しての避難誘導灯等の防災設備の取扱いについては、消防局と協議や現地調査を行ったうえで対応した。



また、競技会場東側に設置されたメインスクリーンや競技会場に直接降りられるメインステージを活用した、選手入場や表彰式等の演出は非常に印象に残った。



2階観客席の一部を撤去してステージを設置

(4)警備・案内

館内のセキュリティチェック、タクシー等の関係車両整理及び夜間警備等は警備業者が担い、観客の誘導・案内は、警備員をポイントに配置しつつ、ボランティアを中心に行った。

会場周辺については、関係者以外の会場への侵入を防ぐため、プラスチックフェンスや案内表示等を設置。

また、大会期間中の会場周辺の交通渋滞や混雑を防ぐため、警備員を配置し、交通誘導を行った。

(5)動線の確保

本大会は、コロナ対策のため、関係者と観客の動線だけでなく、海外と国内の関係者の動線も分ける必要があった。

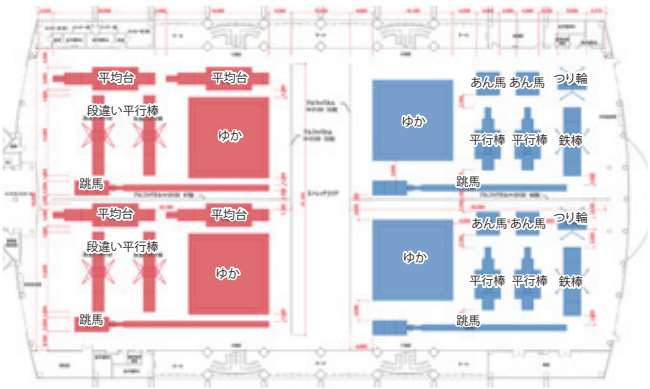
そこで、会場内及び屋外において行動可能範囲のエリア分けや諸室の設置を行い、各関係者の動線を分離した。

コロナ対策を呼びかける案内看板

●練習会場

10月14日より練習が開始され、世界体操・新体操選手権推進室職員がそれぞれ1人ずつ運営管理者として練習会場に派遣された。

穴生ドーム



(1)設営・撤去

穴生ドームは、練習会場が男女それぞれ２面あるため物量が多く、運搬に伴う大型トラックの台数も多かった。また、ドーム前の道路は片側１車線のため、道路上での待機は避けなければならない。そのため、トラックの入退場時間や進入角度等のハンドリングなどについて現地確認を重ね、大きな混乱もなく終えることができた。

(2)練習期間中

早朝の関係者駐車場の解錠、発電機の稼働作業から、練習後の器具調整終了まで対応し、作業が深夜までかかることもあった。

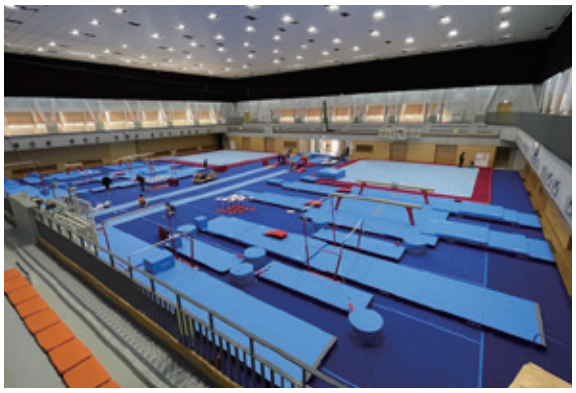
仮設空調はその日の気温や天候に応じて稼働させ、電力の使用については、練習に支障がないよう、発電機も含めた施設全体の電気容量の様子を見て使用するように注意した。

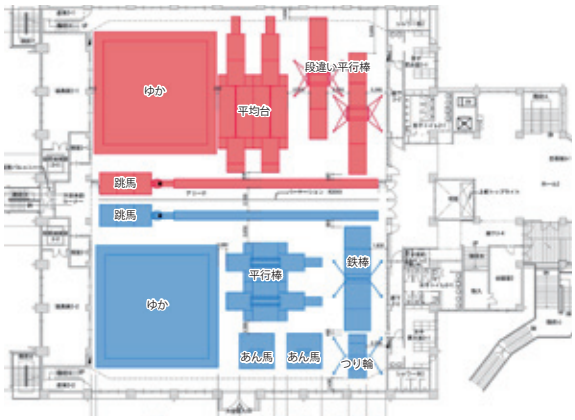
また、選手団関係者から寄せられた質問や要望に関しては、福岡県体操協会や組織委員会、関係業者と協力して対応した。

(3)施設管理者との協働

穴生ドームには常設の空調設備が備わっていないため、スポットクーラーの設置とともに室温調整に窓の開閉を適宜行う必要があったが、施設職員の方々にも協力いただきながら、快適な練習環境の実現を図った。

浅生スポーツセンター





(1)設営・撤去

器具設置を行うアリーナは体育館棟の２階にあり、搬入にあたってはクレーン車を使用する必要がある。また、搬入時の作業エリアは一般利用者の駐車場ゲート入口付近に位置していることから、作業にあたっては、一般利用者の出入口を別に設ける等の対策を行った。現地での誘導や、施設管理者から一般利用者への情報周知などを行うことにより、大きな混乱もなく終えることができた。

(2)練習期間中

施設の開場から練習後の器具調整や運営ミーティングまで含め、早朝から深夜までの対応となった。練習期間中に暴風雨に見舞われる等、選手団関係者の方々の対応だけでなく、屋外仮設フェンス等の対応も必要となり、運営作業が多岐にわたったが、関係各所と協力することで、練習スケジュール通りの運営を行うことができた。

(3)施設管理者との協働

練習期間中は、選手団の人数が多い日などについて前もってスタッフと共有することで、一般利用との調整を図ってもらい、お互いにトラブルが起きないよう心掛けた。その甲斐もあり、練習会場として使用している箇所以外は一般利用者の使用を制限することのない運営を実現できた。

世界体操の開催

●大会概要

世界のトップ選手たちが北九州に集結し、また、東京2020 オリンピックで素晴らしい演技をみせた日本選手団の活躍が期待される中、ついに世界体操が開幕した。

東京 2020 オリンピックは、コロナ対策のため無観客開催だったが、本大会はワクチン・検査パッケージの導入により100%有観客で開催した。

演技をする各国選手たちも、観客も、久しぶりの有観客での開催に会場中が歓喜に包まれていた。

演技終了後も、選手たちの「観客の応援がとても嬉しかった、応援が力になりとても励みになった」という声が印象に残った素晴らしい大会となった。

●大会日程

・10月18日　オープニングセレモニー
　　女子予選１日目
・10月19日　女子予選２日目
　　男子予選１日目
・10月20日　男子予選２日目
・10月21日　女子個人総合決勝
・10月22日　男子個人総合決勝
・10月23日　種目別決勝１日目（男子：ゆか・あん馬・つり輪、女子：跳馬・段違い平行棒）
・10月24日　種目別決勝２日目（男子：跳馬・平行棒・鉄棒、 女子：平均台・ゆか）

●オープニングセレモニー

オープニングセレモニーにおいて、北橋市長が挨拶を行った。選手へ激励の言葉、また本大会に向けた本市のSDGsに関する取組みや市民のおもてなしプロジェクトについて述べるとともに、本大会のために尽力した全ての関係者に対し感謝の意を伝えた。

●大会成績

本大会では日本選手が、金２個、銀５個、銅１個の計８個のメダルを獲得。

本大会をもって現役を引退する村上茉愛選手が個人種目別ゆかで金メダルを獲得し、有終の美を飾った。また、芦川うらら選手も平均台で67年ぶり、日本女子最年少18歳で金メダルを獲得するなど、２人の選手が世界の頂点に輝き、１つの大会で女子選手が２つの金メダルを獲得するという、史上初の快挙が達成された。

女子

＜個人総合＞

順位	選手	国名
金	アンジェリーナ・メルニコワ	RGF
銀	リアン・ウォン	アメリカ
銅	カイラ・ディセロ	アメリカ

＜個人種目別　跳馬＞

順位	選手	国名
金	レベッカ・アンドラーデ	ブラジル
銀	アジヤ・ダマート	イタリア
銅	アンジェリーナ・メルニコワ	RGF

＜個人種目別　段違い平行棒＞

順位	選手	国名
金	韋　筱圓（イ シュウエン）	中国
銀	レベッカ・アンドラーデ	ブラジル
銅	羅　蕊（ラ ズイ）	中国

＜個人種目別　平均台＞

順位	選手	国名
金	芦川　うらら	日本
銀	パウリーネ･シェーファーベッツ	ドイツ
銅	村上　茉愛	日本

＜個人種目別　ゆか＞

順位	選手	国名
金	村上　茉愛	日本
銀	アンジェリーナ・メルニコワ	RGF
銅	リアン・ウォン	アメリカ
8位	平岩　優奈	日本

男子

＜個人総合＞

順位	選手	国名
金	張　博恒（チョウ　ハクコウ）	中国
銀	橋本　大輝	日本
銅	イリア・コフトゥン	ウクライナ

＜個人種目別　ゆか＞

順位	選手	国名
金	ニコラ・バルトリーニ	イタリア
銀	南　一輝	日本
銅	エミール・ソラブー	フィンランド
6位	萱　和磨	日本

＜個人種目別　つり輪＞

順位	選手	国名
金	蘭　星宇（ラン　セイウ）	中国
銀	マルコ・ロダディオ	イタリア
銅	サルバトーレ・マレスカ	イタリア
銅	グリゴリー・クリメンテフ	RGF

＜個人種目別　あん馬＞

順位	選手	国名
金	スティーブン・ネドロシク	アメリカ
銀	翁　浩（オウ コウ）	中国
銀	萱　和磨	日本

＜個人種目別　跳馬＞

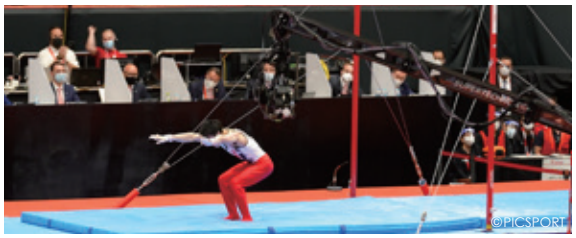
順位	選手	国名
金	カルロス・ユーロ	フィリピン
銀	米倉　英信	日本
銅	アンドレイ・メドベージェフ	イスラエル

＜個人種目別　平行棒＞

順位	選手	国名
金	胡　旭威（コ　キョクイ）	中国
銀	カルロス・ユーロ	フィリピン
銅	侍　聰（ジ　ソウ）	中国
4位	橋本　大輝	日本
6位	萱　和磨	日本

＜個人種目別　鉄棒＞

順位	選手	国名
金	胡　旭威（コ　キョクイ）	中国
銀	橋本　大輝	日本
銅	ブローディー・マローン	アメリカ
6位	内村　航平	日本



会心の着地を決めた内村選手

●表彰式・クロージングセレモニー

本市スポーツ担当の三浦理事が、女子個人種目別(ゆか) のメダルプレゼンターとして、素晴らしい演技をみせた村上茉愛選手に金メダルを渡した。

本市に本社を置く安川電機が開発したロボットがメダル授与のために貢献し、世界の舞台で技術力を大きくアピールする良い機会となった。

クロージングセレモニーでは、オンラインにおいて、北橋市長から世界体操の次回開催都市のリバプール市長に対し、開催地の継承の意を込めてフラッグが渡された。

世界新体操の運営（施設関連を中心に）

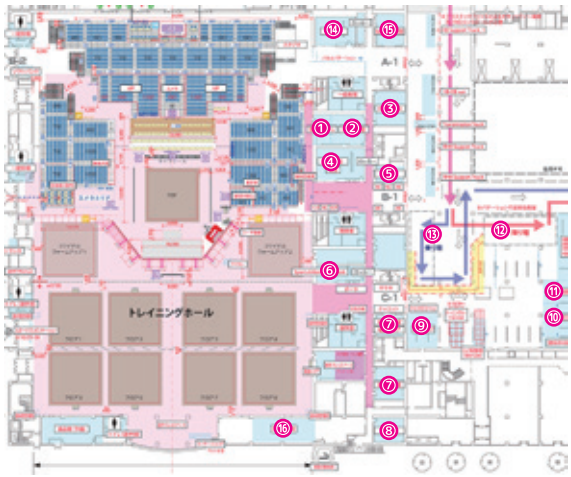
本大会は、史上初の「世界体操」と「世界新体操」の同時開催であり、世界体操開催中に世界新体操の設営や準備を行わなければならず大変苦労したが、関係各所と協力したことで作業を円滑に進めることができた。

大会期間中は、選手の練習が始まる前に事前準備等が必要になるため、朝早いときは6時前に開錠した。練習が終了した後、演出のリハーサルを行うため、終わりが深夜にまで及ぶこともあった。

・10月24日　新体操選手団到着
・10月25日　公式練習がスタート
・10月27日　第38回世界新体操選手権　開幕

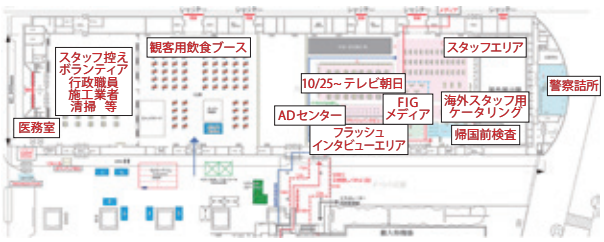
●設営

■主要諸室計画（西日本総合展示場 新館）

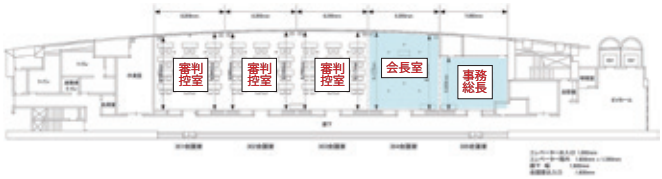


①	Competition Management オフィス	②	LOC オフィス	③	FIG オフィス	④	審判控室
⑤	TC ルーム	⑥	スポーツインフォメーションデスク（SID）	⑦	選手更衣室	⑧	救護室
⑨	ドーピングコントロール	⑩	スタッフ控室	⑪	消防控室	⑫	選手団タクシー降車場
⑬	選手団タクシー乗車場	⑭	FIG TV	⑮	Swiss Timing	⑯	タイシャン控室

■西日本総合展示場（本館）



■西日本総合展示場（新館3F）



図面作成後も、大会期間中に諸室配置等の変更が多々あった。

(1) 会場

競技会場として西日本総合展示場新館のABエリアを使用した。Cエリアはパーテーションで８面に区切り、練習会場として使用した。ABエリアとCエリアは、会場敷設の仕切り壁で仕切った。

(2) 照明

照明のLED化により、平均照度800ルクスとなったが、国際大会基準には照度が足りなかったため、大会では仮設照明を設置した。

(3) 観客席

観客席は仮設スタンドを設営、ステージには、大型ビジョンを設置した。仮設スタンドを設置するためには、消防法に基づき、幅員を設ける必要があるため、事前に図面を確認していただき、消防局と協議を重ねた。

(4) 諸室

新館にある既存の諸室では、必要となる諸室をまかなえないため、ローディングヤード内に、ドーピングルームや消防控室等を設けた。

ドーピングルームは、JADA（公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構）と協議し、ローディングヤードに仮設で設置した。29日からは、ドーピングカーも利用した。

新館３階には、国際体操連盟会長室、事務総長室、審判控室等、海外の大会関係者が利用する諸室を設けた。

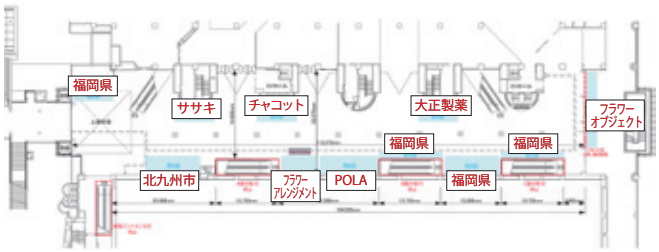
西日本総合展示場本館については、大展示場東側に、ADセンター、メディアセンター、テレビ朝日ルーム、記者会見場、帰国前検査場等を設けた。

大展示場西側には、飲食ブース、ボッチャ体験コーナー等、観客が楽しめるスペースを設けた。

中展示場はスタッフ控室、小展示場は警察控室として利用した。

AIM３階会議室は、来賓室、スポンサーラウンジ等、国内の大会関係者が利用する諸室として利用した。

AIMガレリアには、スポンサーブース、福岡県や本市のPRブースを設けた。



その他、ローディングヤードには、選手のタクシー輸送の乗り場、降り場、国際映像中継のための中継車、電源供給のための電源車等を配置した。

(5) 工事・器具・備品等

10月13日に通信関係の先行工事、17日の夜間に電気の先行工事を行い、18日から仮設スタンド組み、LEDや照明設営、新体操マット敷設、諸室のレイアウト替え、備品搬入等を順次開始した。そのため、10月18日から11月４日まで、西日本総合展示場ローディングヤードを占有し、AIMとの通行扉を封鎖した。

催事場である西日本総合展示場は、椅子やモニターなどの備品の品ぞろえが豊富である。今回の大会でも、仮設スタンドの観客席の椅子や会場の長机、液晶プロジェクター等を借用した。会場で調達できない冷蔵庫やコーヒーメーカー等はレンタルでまかなった。

世界体操終了後、総合体育館より、スイスタイミング、EBUの機器、新体操でも使用するマッサージベッド等の器具や事務用品等を西日本総合展示場に輸送した。

(6) その他

概ね図面通りの各種設営が整った後、22日に国際体操連盟技術メンバーが会場に来訪した。当日の会場を視察いただいたあと、国際体操連盟オフィス→組織委員会事務室と競技部ルーム、理事会メンバー控室→国際体操連盟オフィス、ミックスゾーン等のレイアウトが変更となった。

10月26日に団体ブルガリアチームが、選手の一人が怪我のため棄権となった。

●大会

(1) 警備・案内

会場周辺の交通誘導、駐車場内整理、場内警備、夜間警備及びAD(大会身分証)チェックは警備業者が担い、観客の誘導・案内はボランティアが中心に行った。

警察には大会期間中、小展示場にて、24時間警備体制を敷いていただいた。

(2) トイレ

観客数に対し、女性トイレが不足する恐れがあったので、男性用トイレの一部を女性用として使用した。

海外の選手団や大会関係者が利用するトイレについては、写真付きで英語表記の使用方法を掲示した。

(3) 観客動線・駐車場

観客動線として、小倉駅から動く歩道を通り、スポンサーブース、県・市のブースがあるガレリアを抜け、会場に誘導するよう、スタッフを配置した。

小倉駅からのアクセスが良好のため、チケット販売時に公共交通機関の利用を呼びかけた。車利用者には、AIM地下駐車場や、近隣の民間駐車場を利用いただいた。

西日本総合展示場本館裏の駐車場は、来賓・VIP用、関係者用、車椅子席購入者用駐車場として利用した。

設営・撤去時、選手輸送用等の駐車場として、北九州市港湾空港局所有地を借用した。

※浅野埠頭用地：設営・撤去時のトラック等駐車場

※防災4号緑地：スタッフ用駐車場

※防災2号緑地、3号緑地：宿泊ホテル～食事会場(あるあるCity2号館)～大会会場輸送用のタクシープール

(4) その他

小倉駅から会場までは大会期間中、世界体操・新体操の装飾で彩られた。

大会会場から食事会場(あるあるCity2号館)へは距離的に近く、選手等のコンディション維持のための取組み(通称：お散歩プロジェクト)のコースに設定したことから、多くの選手が大会会場と食事会場間を徒歩で移動した。

コロナ対策のため、館内清掃、消毒作業を実施

●撤去

11月1日から会場の撤去を開始し、4日の医療廃棄物処理をもって撤去が完了した。

世界新体操の開催

●大会概要

東京2020オリンピックに出場した世界トップレベルの選手たちが北九州に集結し、世界新体操が開幕した。

当日は、仮設で設置した観客席いっぱいに観客が入り、会場内は大いに盛り上がりをみせた。

有観客での開催になったことで、会場内だけでなく、会場外においても大会記念ウェアの販売やポーラによる新体操メークアップ講座、県・市PRブース等、子ども連れの観客も楽しめる空間を創出することができた。

また、有観客により、東京2020オリンピックでは叶わなかった、観客に会場で直接演技を観てもらえるという状況に、選手たちは喜びの表情を見せていた。

世界体操と同じく、観客だけでなく大会運営側、各国選手団等、すべての関係者が感動に包まれた素敵な大会となった。

●大会日程

・10月27日　個人種目別(ボール、フープ)
・10月28日　個人種目別(クラブ、リボン)
・10月29日　団体総合(5ボール、3フープ+2クラブ)
・10月30日　個人総合
・10月31日　団体種目別(5ボール、3フープ+2クラブ)

●オープニングセレモニー

オープニングセレモニーにおいて、北橋市長があいさつを行い、大会開催について、大会関係者、福岡県、北九州市民、ボランティア等、全ての関係者に対し感謝の意を述べた。

●大会成績

本大会では喜田純鈴選手が、個人総合で8位、個人種目別ボールで5位入賞を果たした。また、本大会で引退となる皆川夏穂選手は、リボンで15位となり、現役最後の演技を終えた。

さらに、団体種目別ではフェアリージャパンが、5ボール、3フープ+2クラブで、見事な演技をみせ、いずれも銅メダルを獲得。日本は2つのメダルを手にした。

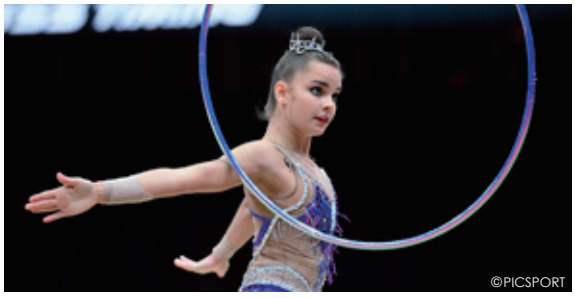
個人

＜個人総合＞

順位	選手	国名
金	ディナ・アヴェリナ	RGF
銀	アリーナ・ハルナスコ	ベラルーシ
銅	アリーナ・アヴェリナ	RGF
8位	喜田　純鈴	日本

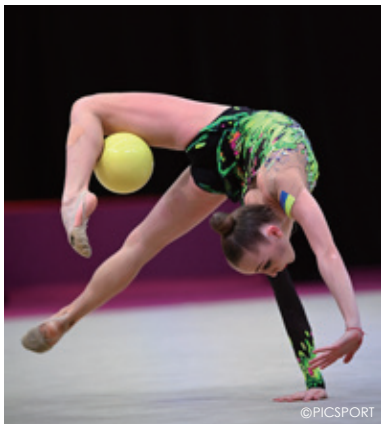
＜個人種目別　フープ＞

順位	選手	国名
金	ディナ・アヴェリナ	RGF
銀	アリーナ・ハルナスコ	ベラルーシ
銅	ソフィア・ラファエーリ	イタリア



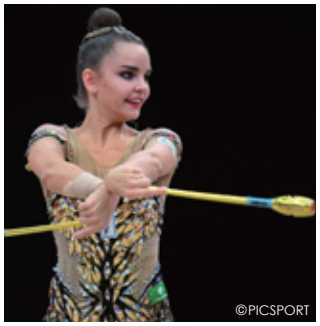
＜個人種目別　ボール＞

順位	選手	国名
金	ディナ・アヴェリナ	RGF
銀	アリーナ・アヴェリナ	RGF
銅	アリーナ・ハルナスコ	ベラルーシ
5位	喜田　純鈴	日本



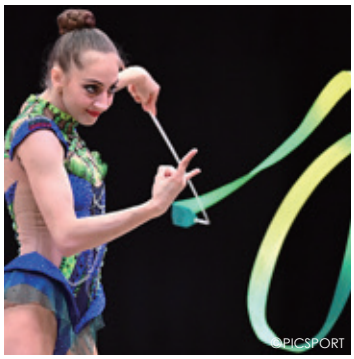
＜個人種目別　クラブ＞

順位	選手	国名
金	ディナ・アヴェリナ	RGF
銀	アリーナ・アヴェリナ	RGF
銅	アナスタシヤ・サロス	ベラルーシ



＜個人種目別　リボン＞

順位	選手	国名
金	アリーナ・ハルナスコ	ベラルーシ
銀	ディナ・アヴェリナ	RGF
銅	アリーナ・アヴェリナ	RGF



団体

＜団体総合＞

順位	国名
金	RGF
銀	イタリア
銅	ベラルーシ
4位	日本

＜団体種目別　5ボール＞

順位	国名
金	RGF
銀	イタリア
銅	日本

＜団体種目別　3フープ＋2クラブ＞

順位	国名
金	イタリア
銀	RGF
銅	日本

●プレショー（団体種目別決勝前のセレモニー）

10月30日、31日のプレショーにおいて、「小倉祇園太鼓保存振興会」の合同チームに太鼓の演奏（オープニングパフォーマンス）をしていただいた。叩く音に合わせて光の演出が施され、圧巻の演奏であった。

●表彰式・クロージングセレモニー

本市スポーツ担当の三浦理事が、団体種目別(5ボール)のメダルプレゼンターとして、３位に輝いたフェアリージャパン代表選手に銅メダルを渡した。

また、クロージングセレモニーでは、北橋市長から大会アンバサダーのエフゲニア・カナエワさん(ロシアの元新体操選手で、オリンピック２連覇を達成)に対し、「コロナ禍で北九州の魅力を感じていただくことができなかった選手、関係者には、この鍵で北九州の扉を開け、ぜひまたお越しいただきたい」と鍵が手渡された。

●クロージング記者会見

10月31日、大会最終日の前に西日本総合展示場本館で、「2021 世界体操・新体操選手権北九州大会」クロージング記者会見が行われた。

●推進室職員に感謝状

セレモニーを含め、大会終了後、組織委員会会長から、市役所世界体操・新体操選手権推進室職員に「感謝状」が授与された。

推進室職員も、大会を無事に終えた達成感に包まれていた。

大会期間中のおもてなし・交流など

コロナ禍のため、市民と選手の対面交流や選手の市内観光など、当初企画していたものの実現できなかった事業は数多かった。また、日々変わるコロナ感染状況の中で企画の度重なる仕様変更に追われ、調整は難航を極めた。

しかし、何としても選手たちに北九州市を楽しんで帰ってもらいたいという関係者の熱意と創意工夫で、様々なおもてなしの取組みが実現した。

選手団のお出迎え

10月13日、北九州空港への第一陣としてイギリスの選手団が到着した。コロナ感染防止のため部外者との接触を避けるバブル方式により、選手たちは一般客とは別の出口を通って送迎バスに乗り込んだ。市民との直接交流はできなかったものの、地元の学生や市職員が到着を歓迎する横断幕やイギリス国旗を持って出迎えた。選手らもスマートフォンでその様子を撮影したり、乗り込んだバスから手を振ったりして応えていた。

その後も各国選手団は続々北九州入りしたが、コロナの関係でフライトの急な変更が次々と発生した。

各種イベント・交流

●「おもてなしVillage（あるあるCity）」の運営

選手や関係者の食事会場で、北九州市ならではのお土産購入や本市の魅力を体感できるコーナーを設けた「おもてなし Village」を、10月10日、あるある City２号館に開設した。10月31日までの間、移動をホテルと大会・練習会場の往復に制限された選手や関係者向けのおもてなしプランを提供した。

また、市民から寄せられた応援メッセージや掲示物を会場内で大々的に飾りつけて雰囲気を盛り上げ、それに対し選手たちから感謝のメッセージが多数寄せられたほか、選手たち自身のSNSに相次いで投稿された。

●「おもてなしVillage（若松体育館）」の運営

コロナ禍の大会運営における国との協議（9月）を経て、トレーニングルームやプールを有する若松体育館を選手や関係者向け練習会場として位置づけ、活用することが決まった。全館貸切りとすることでバブル方式を作り上げた。

アリーナやプールを市民の応援メッセージで飾りつけ、縁日屋台や和服着付けが体験できる日本文化コーナーやSDGs推進PRコーナー等を設置。体育館を単なる練習会場としてではなく、選手たちがリラックスできる「おもてなし Village」として設え、歓迎の雰囲気を盛り上げた。10月17日から28日までの間、14か国延べ125人が会場を訪れ、つかの間の休息を楽しんだ。

また、23日にはスペシャルイベントを実施した。八幡中央高等学校書道部による書道パフォーマンスや、黒田二十四騎によるサムライショー、五平太ばやしの演奏などで選手たちをもてなし、大好評を博した。

●ミクニワールドスタジアム北九州でのおもてなし

大会期間中、選手から「行動範囲がホテル、大会・練習会場、食事会場間に制限され、世界選手権の重圧の中、ストレスが発散できない。せめて外をウォーキングしたい」との要望が寄せられた。本市は関係者と調整を行い、10月21日から31日までの間、ミクニワールドスタジアム北九州を貸し切り、コンコースをウォーキング場所として活用した。(31か国・地域、287人が利用)

大会最終日の31日はスペシャルデーとして、様々なイベントを実施した。ヨーヨー釣りなどの縁日体験やサムライ(黒田二十四騎)との記念撮影ができる特設コーナーを用意し、多くの選手たちが興じた。

また本市は、日本・中国・韓国の3か国で文化芸術による発展を目指す「東アジア文化都市」の日本における選定都市(2020～2021年)であることから、本市東アジア文化都市推進室の協力を得て、日本文化体験プログラムとして尺八・琴の演奏会を開催し、大好評を博した。

●響灘緑地(グリーンパーク)でのリラックスプラン

大会期間中の行動制限を踏まえ、国と協議して、選手や関係者がバブルを保ちながらもリフレッシュできる環境を確保するべく、響灘緑地(グリーンパーク)の閉園日を貸し切って活用した。

(1)10月19日(火):8か国・地域 52人が参加

(2)10月26日(火):9か国・地域 24人が参加

●公式練習見学・大会観戦事業

国際体操連盟は、通常、公式練習の見学を許可していないが、本大会では特別に許可を得て、子どもたちの見学・観戦事業が実現した。コロナ禍の中で、急遽ワクチン・検査パッケージが導入されるなど、オペレーション・予算等の課題もあったが、「一校一国応援プロジェクト」参加校に希望を募り、多数の子どもたちが世界レベルの選手の凄さを目の当たりにした。

(1) 公式練習見学 (23校 1,928人)

10月15日(金) 14校 1,086人

10月25日(月) 4校 412人

10月26日(火) 5校 430人

※体操:14校 1,086人、新体操:9校 842人

(2) 大会観戦事業 (14校 757人)

10月18日(月) 4校 224人

10月20日(水) 3校 93人

10月27日(水) 4校 253人

10月28日(木) 3校 187人

※体操:7校 317人、新体操:7校 440人

●Z世代プロジェクト（北九州市立大学）

北九州市立大学地域創生学群の学生22人が、市民センターが進める「みんなで応援プロジェクト」への参画や、独自にSNSを活用した情報発信などに取り組んだ。

(1)「みんなで応援プロジェクト」への参画

①沼市民センター

市民センターから提供された動画素材を編集し、また学生自らも出演しながら、応援動画を作成し、地域のYouTubeチャンネルで放映した。

②高見市民センター

健康づくり推進員定例会(10月4日)、わくわくキッズタイム(10月9日)に参加し、大会PR及び応援メッセージ等を作成した。

③牧山東市民センター

応援国に関する館内展示資料の作成、在福岡ベトナム領事館とのオンライン交流参加、地域のお祭り「牧山東おうえん＆SDGsフェア」への参加などを行った。

(2)SNSの活用

InstagramやTwitterを活用するほか、コミュニティラジオに出演するなどして、大会及び北九州市に関する積極的な情報発信を行った。

●フレイル予防の取組み

組織委員会は、体操を通じて多くの人たちの健康増進に寄与する活動として、フレイル(加齢により心身の活力が徐々に低下した状態)予防の啓発に取り組むことを決めた。大会開催都市でフレイル予防の取組みが行われるのは史上初のことであった。

1. フレイル予防講演会

9月30日、フレイル予防研究の第一人者である東京大学・飯島勝矢教授を講師に招き、ウェルとばたで講演会を開催。150人の聴衆が熱心に耳を傾けた。

2. サンテジム(Sante Gym)

健康づくりを考える体験型プログラム「サンテジム」(Sante：フランス語で「健康」の意)を、大会会場周辺やショッピングモール等で展開した。

(1) 概要

「大人の体力測定」「運動プログラム」「食セミナー」の3ブースに分かれて様々なプログラムを実施。

・タブレット端末を活用し、顔の画像をスキャンして血流、心拍数、肌年齢、ストレスレベルを計測

・歩行スピードとバランス、左右の筋肉バランスを測定

・ポーズを撮影し、体幹の柔軟性や可動域をAIが解析

など、最新技術がふんだんに活用されている。

(2) 開催日時、場所

①10月18日～24日：

世界体操大会会場（総合体育館）周辺

②10月27日～31日：

世界新体操大会会場（西日本総合展示場）周辺

③10月12・13日、16・17日、23・24日、30・31日：

イオン会場４か所（福岡、直方、八幡東、戸畑）

サンテジムは延べ900人を超える参加者を集め、人々の健康志向の高さを示した。大会終了後もこの取組みは継続されることとなり、レガシーの一つとなった。

● オンラインパブリックビューイング

大勢で集まって応援するパブリックビューイングを企画していたが、コロナ禍のためオンライン方式に切り替えて実施した。

10月21日、女子個人総合決勝の日に、大会準備に関わった市民（団体・個人）を中心に、オンライン会議システム（Zoom）を使って、インターネット上で選手を応援した。テレビ中継や松岡修造さんからのビデオメッセージ紹介などもあり、18団体59人が参加した。

● ジェンダー平等フォーラム

国際体操連盟は、SDGsの5番目のグローバル目標である「ジェンダー平等」をスポーツ界から実現するため、国際オリンピック委員会女性スポーツ委員会のリディア・ヌセケラ委員長をはじめ、国際体操連盟のジェンダー平等委員や国内でジェンダー平等に関わる方々を迎え、「スポーツ界におけるジェンダー平等」についてのフォーラムを開催した。

10月24日、北九州国際会議場で開催されたフォーラムでは、それぞれの文化・社会背景やジェンダー平等に関してどのように考え行動してきたかを共有し、変革を起こすためには「行動することが何より大切」というメッセージを発信した。

● 日本選手団による市長表敬

10月25日、体操日本選手団（水鳥寿思男子体操代表監督・強化本部長、米倉英信選手、安里圭亮選手）が市長を表敬訪問し、世界体操の報告を行った。選手団からは「大会が有観客で行われたことで、多くの方々が応援してくださることの価値を感じた。体操の楽しさやスポーツの素晴らしさを世界に伝えることができた」との謝辞が述べられた。

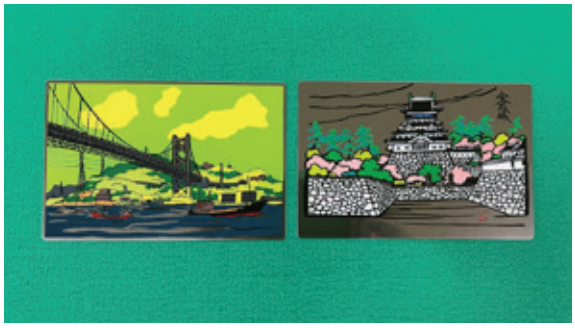
11月１日、新体操日本選手団（山崎浩子強化本部長、吉岡紀子団体コーチ、杉本早裕吏キャプテン、松原梨恵選手、鈴木歩佳選手、今岡里奈選手、稲木李菜子選手、喜田純鈴選手、大岩千未来選手、皆川夏穂選手）が市長を表敬訪問し、世界新体操の報告を行った。選手団からは「北九州の皆さんの応援メッセージを会場で目にして『頑張ろう』と思った。多くの方々の協力があってこそ実現した、温かな大会だった。たくさんの拍手の中で演技ができて本当に幸せだった」との謝辞が述べられた。

● 選手・関係者への北九州市記念品

北九州を訪れた選手や関係者へ、SDGsの理念を体現する北九州市独自の記念品を贈呈した。

具体的には、リサイクル原料（再生紙、都市鉱山由来の金属、再生衣料）を使用した製品や、障害者就労施設が手掛けたもの等、SDGsゴールの達成につながる記念品を積極的に採用した。また、記念品とともに、関連するSDGsゴールを示したカードを添え、SDGs未来都市としてのレガシー構築を推進した。

・グリーティングカード
・リサイクルゴールドしおり
・孫次凧
・藍染めハンカチ
・SDGs柄小倉織ランチョンマット
・ステンレス絵はがき
・ていたんデザインねじチョコ



●交流事業

本大会を機に様々な交流事業を実施した。

1. 選手等との交流
(1) 水鳥寿思男子体操代表監督
(2) 新体操ブルガリア代表選手団
(3) 新体操元日本代表　皆川夏穂選手
2. 応援国関係者との交流
(1) 在福岡タイ総領事館
(2) 在福岡ベトナム総領事館
3. タレント等との交流
(1) 松岡修造(北九修造)さん
(2) 田中理恵さん・小林よしひささん

●ポーラによる新体操メークアップ講座

大会会場にて、ポーラ美容部による新体操メークアップ講座を実施。会場を訪れた女性の希望者に対し新体操独自のポイントを踏まえたメークを施し、大変喜ばれた。

市民による灯りでのおもてなし

●小倉城竹あかり

大会期間に合わせて10月23日から31日まで、「小倉城竹あかり」を開催した。多くの市民が何か月もかけて準備した3万個の灯籠が小倉城を暖かく照らし、その様子は松岡修造さんが報道ステーションで生中継するなど大きく取り上げられた。

累計で4万人の観客が訪れ、市のにぎわいづくりにも大きく寄与した。

●小文字焼

大会期間に合わせて10月24日、「小文字焼」を行った。小倉の夜に鮮やかな「小」の文字が浮かび上がった。

●夜もきれいやん～コクランタン2021～

10月30日、小倉北区自治総連合会による花火とランタンによるおもてなしイベントを開催した。市民の手作りランタン70基と音楽ステージが小倉の街を彩った。

コロナ関連

●大会におけるコロナ対策

コロナ禍の中で、万全のコロナ対策を講じ、選手・観客・市民など全ての方々にとって安全・安心な大会とすることが最重要課題であった。

基本的なコロナ対策は、東京2020オリンピック・パラリンピックのプレーブックを参考に、組織委員会に設置したメディカル部会で検討し、メディカルガイドラインとしてまとめた。

開催や観客の有無等については、組織委員会に設置した「COVID-19対策会議」にて判断され、組織委員会及び国際体操連盟で最終決定された。

あわせて、本市独自に「北九州市新型コロナウイルス感染症対策検討会議」を設置し、対策を検討した。

●「2021世界体操・新体操選手権北九州大会」における北九州市新型コロナウイルス感染症対策検討会議

1. 検討会議の位置づけ

本大会の開催にあたっては、新型コロナウイルス感染症へ万全の対策を講じる必要がある。安全安心な大会運営と大会開催の気運醸成を図るため、市民や関係者の不安を少しでも取り除くことができるよう、市としてできる感染対策について検討を行った。検討内容については、市を通じて組織委員会に提案することとした。

2. 検討会議委員

北九州市新型コロナウイルス感染症対策検討会議　委員名簿

委員	所属	役職	氏名
座長	北九州市	副市長	うめもと かずひで 梅本 和秀
副座長	産業医科大学	教授	もり こうじ 森 晃爾
委員	NPO法人 KRICT （北九州感染制御ティーム）	理事	やまぐち ゆきひろ 山口 征啓
委員	福岡県体操協会	理事長	ひさすみ よしひろ 久澄 喜裕
委員	北九州市中学校体育連盟 体操競技	専門部長	いわなみ りか 岩波 里花
委員	北九州市市民文化スポーツ局	スポーツ 担当理事	みうら たかひろ 三浦 隆宏
委員	北九州市保健福祉局	局長	ながとみ ひでき 永富 秀樹
委員	北九州市産業経済局	局長	きたざと かつとし 北里 勝利
事務局長	市民文化スポーツ局 世界体操・新体操選手権推進室	室長	みうら たかひろ 三浦 隆宏

3. 会議の内容

(1) 会場事前視察：2021年6月2日

検討会議メンバーによる会場（総合体育館、西日本総合展示場新館）の事前視察を行った。

〈意見など〉

・感染対策としてCO2濃度を集中的に監視できるシステムがほしい。

(2) 第1回会議：7月14日

大会概要と感染症対策について説明を行い、地元からさらに必要な対策を提案していくこととした。

〈意見など〉

・バブル方式は、バブルが破れないように実施することが大変。変異株等の流行も注視しつつ、しっかりと対策を講じたうえで、市民交流等関連事業も実施できるよう知恵を絞りたい。

(3) 第2回会議：8月11日

本市のものづくり技術を活用した感染症対策について検討を行った。

①CO2監視システム／ドーワテクノス

②UVCステアライザー／サウンドピュア

③アンチウイルススプレー＆ウェットタオル／新菱

〈意見など〉

・CO2濃度測定器について、大変運用に役立つと思う。競技スペースや観客席よりも、空気の滞留が想定される各諸室や控室等での運用を中心に、換気を補助するシステムとして導入してほしい。

・UVCステアライザーやアンチウイルススプレー・ウェットタオルについても、留意事項に配慮したうえで、運営を補助するアイテムとして活用できると思う。

(4) 第3回会議：10月6日

おもてなし等、本市の関連事業での感染対策について検討を行った。

大会の感染対策や「ワクチン・検査パッケージ」については、事前に委員へ説明。

〈意見など〉

・関連事業における対応スタッフは、観客や運営スタッフ同様、ワクチン・検査パッケージを導入し、ワクチン接種有無によって配置を調整することで了承。

・練習会場におけるパフォーマンスについて、選手団と演技者の「動線を分けていること」、「滞在フロアを完全に分け、接触しないこと」で了承。

・お土産・日用品販売等については、金銭及びクレジットカード等のやりとりに際し、「都度の手指消毒を徹底すること」で了承。

・小倉城周辺周遊ツアー（貸切りのハイヤーから降りずに車窓からイルミネーションなどを楽しんだ）や屋外

トレーニング場(グリーンパーク)については、選手のメンタルヘルス面からも重要であり、特に、決勝に進めない選手等が利用できるように配慮できるとよい。

・公開練習・大会観戦事業での小中学生バス移動について、「バス内での会話を極力控える」など教師の徹底した管理のもと、実施してほしい。

●組織委員会及びCOVID-19対策会議

本大会の開催にあたり、世界各国からの参加者や関係者はもちろん、受け入れる北九州市や福岡県の皆様にも安心していただくため、組織委員会の中に大会の開催可否を協議する「COVID-19対策会議」を設置し、定期的に開催することとした。

(1) 組織委員会・第1回総会：2021年6月28日

組織委員会の設立総会。バブル方式や徹底したスクリーニング検査などのコロナ対策の説明があった。

(2)COVID-19対策会議・第1回会議：8月2日

感染状況やワクチン接種状況等の推移を注視しながら、開催へ向けて準備を進める。

(3)COVID-19対策会議・第2回会議：9月1日

「開催可否」「観客の有無」は、大会開催時の病床ひっ迫状況を見極めるため、大会5～6週間前となる9月13日に判断する。

中止の判断基準を策定。市内で医療ひっ迫が見込まれる場合は、臨時で会議を開催し総合的に判断する。

(4)COVID-19対策会議・第3回会議：9月13日

「通常開催」を決定。ただし、医療ひっ迫(病床使用率50%、重症病床使用率50%)が予想される場合は臨時で会議を開催し判断する。

「有観客」を決定。観客数は感染状況やワクチン接種状況等で判断する。ワクチン・検査パッケージの導入についても検討。

(5) 組織委員会・第2回総会：9月15日

第3回COVID-19対策会議の議事を承認。「通常開催」「有観客」の決定、観客数は感染状況やワクチン接種状況を見て判断する。

(6)COVID-19対策会議・第4回会議：10月1日

国の技術実証に採択された場合は「ワクチン・検査パッケージ」を活用し、100%の有観客とする。不採択の場合は50%の有観客とする。

※会議の後、同日に国が採択を決めた。

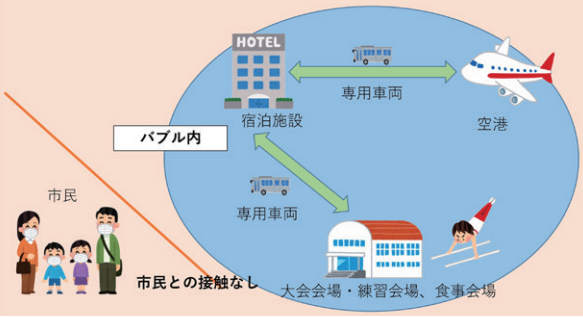
(7) 組織委員会・記者会見：10月8日

メディカルガイドライン及び大会の新型コロナウイルス感染症対策を公表した。

選手・大会関係者における感染対策

- **共通対策（基本的感染対策の徹底）**
  - 短い間隔での手洗い、手指消毒
  - 日常衛生の実践（身体活動前後でのシャワー）
  - 握手の禁止
  - 常時マスク着用及び汚れた場合のマスク交換
  - フィジカルディスタンスの維持
  - 携帯電話など、個人所持品の頻繁消毒　など
- **選手・大会関係者における対策**
  - 選手等の行動を制限し、外部との接触を防ぐバブル方式の運用徹底
  - 無症状の感染者を見逃さないスクリーニング検査の実施
    （選手・大会関係者、その他スタッフをカテゴリー分けし、適切な頻度での検査を実施）
    ⇒国との誓約書で求められる水準以上の検査を実施予定
    （例）選手等：入国後3日目まではPCR検査・抗原検査の併用実施、
    その後も定期PCR検査実施　等
  - 選手の近くで活動するスタッフに対する積極的なワクチン接種の推奨
  - ＣＯ２濃度監視システムの導入　など

選手等のバブル方式の運用徹底



選手等の移動時における感染対策

日本国内においては、ＬＯＣが用意するバス・ハイヤーを使用し、電車等の公共交通機関は禁止

①入国前
- 日本入国前１４日間の健康観察
- 出発前７２時間以内の検査結果陰性証明取得・提示
- 空港でのＣＯＶＩＤ－１９検査受検

②入国（羽田・成田空港）
- 制限エリアを設け、エリア内で誓約書、座席位置のチェック
- ＰＣＲ検査の実施後、結果判明まで指定場所で待機
- 陰性確認後、入国審査

③国内線乗換
- 一般人と動線を分けてバス乗り場まで移動
- ＬＯＣが用意するバス、ハイヤーで国内線ターミナルへ移動

④空港から宿泊施設
- 一般人と動線を分けてバス／ハイヤー乗り場へ移動
- ＬＯＣが用意するバス、ハイヤーで宿泊施設へ移動

→ 各セクションにおいて、専用のスタッフを配置

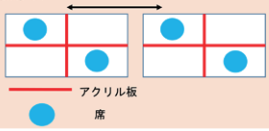
選手等の飲食時における感染対策

- **食事場所**
  - メインダイニングは一ヶ所に限定
  - 大会会場における食事施設
  - 自室でとれる弁当の配布

→ 食事場所を限定することで感染対策を強化

○感染対策
- 入口でのアルコール消毒及び検温の実施
- 個包装のバイキング形式（ドリンクはペットボトルor紙パック）
- テーブル間のソーシャルディスタンス確保
- 飛沫防止パネルの設置
- 黙食　など

配席イメージ　２ｍ以上

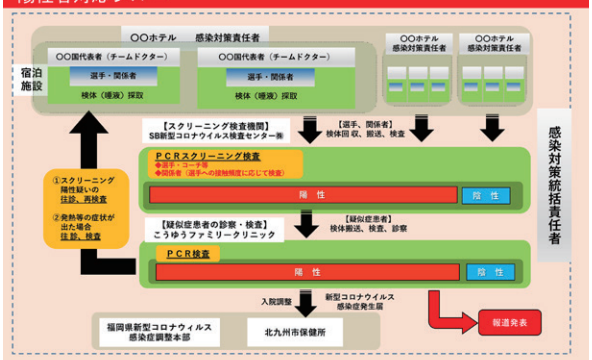


- **施設管理者による対応**
  - 配膳スタッフのマスク着用
    手袋とフェイスシールドの適宜着用
  - 待機列フットサインの設置
  - テーブル等の定期的な消毒と清掃　など

選手・スタッフ等へのスクリーニング検査

カテゴリー	ポジション等	検査頻度
A B	選手（国内から参加も含む）、コーチなど選手に付き添うスタッフ、審判、国際体操連盟関係者他、すべての入国者	【PCR検査】 はじめて組織委員会指定施設へ入る72時間前以内、1日目、2日目、3日目、8日目、14日目 【抗原検査】 施設入り後 1日目、2日目、3日目、国内参加者は活動終了後、5日目、14日目
C	通訳、整体師など、カテゴリーABに帯同するスタッフ	【PCR検査】 はじめて組織委員会指定施設へ入る72時間前、以降 3日目、8日目、14日目 【抗原検査】 活動終了後、5日目、14日目
D	観客席エリアに立ち入るスタッフ(D1) 関係者エリアへ立ち入るが、カテゴリーABに帯同しないスタッフ(D2)	観客席エリアに立ち入るスタッフ(D1)はワクチン接種必要。 自身で受検した72時間前までのPCR検査陰性判定結果、もしくは、組織委員会が用意するPCR検査および抗原定性検査

陽性者対応フロー



●ワクチン・検査パッケージ

ワクチン・検査パッケージは、コロナ禍における感染防止と社会経済活動の両立を図るため、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置（それらの経過措置期間を含む）の下においても、ワクチン接種や検査の陰性等を条件に、イベントでの人数制限等を緩和する制度である。

この制度を全国展開する前に、国が技術実証（モデル事業）を募集することとなった。本市や福岡県が中心となり、9月上旬から国との協議を重ね、大会直前となる10月1日に採択された。

本大会では、

①対象を、観客だけでなく、選手・観客と接する国内スタッフ・ボランティア等とし、

②ワクチンの2回接種証明（接種から2週間経過したもの）、又は入場前72時間以内のPCR検査・抗原定量検査の陰性証明の提示を義務付けた。

会場では、陰性証明の確認や動線案内等を毎日35人のスタッフ体制で行い、大きな混乱なく対応できた。

また、本大会は、観客席を1席空け等することなく、100%の有観客を実現し、約27,000人の観客で大いに盛り上がった。コロナ禍で無観客試合が続いていた選手や観客にとって、久しぶりの満員の国際大会となり、多くの選手から、「応援が力になった」、「これぞスポーツ大会」などの声が上がった。

また、観客や大会スタッフからは、陽性者は1人も出なかった。

●帰国前検査

帰国前検査とは、海外から入国した選手団等が帰国する際に、当該国への入国時に必要な検査を行うものである。

検査の有無や必要な検査は各国により異なっており、ワクチンの2回接種で良い場合もあれば、咽頭拭いの検査や血液検査が必要となる場合があった。さらに、感染状況やワクチンの接種状況等により刻一刻と変化していった。

そのような中、本大会においても必要な検査体制を整えるべく、東京2020オリンピック・パラリンピックで実績があり、全ての国の検査に対応できるアルムと連携して進めていった。

選手団の数や検査の有無等が確定しないため、検査数が読めない中、アルムの担当者とは何度も協議を重ね、メディカル部に諮りながら調整していった。

当初、選手団においては、当該検査は、帰国時に必要な検査であり、実費を負担していただくことにしていたが、仮設の検査所（バブル方式採用により民間の検査所への移動ができなかった）での検査のため費用が高額になったこととホストとしての対応を考慮して組織委員会負担とした。（組織委員会負担は各国から非常に喜ばれた。）

なお、アルムの検査は抗体を福岡市に搬送して行うため、個別や急な対応については、市内のこうゆうファミリークリニックの協力を得て対応した。

(1) 実施方法

アルムと組織委員会において覚書を締結し、組織委員会が検査場所及び検査環境の整備を行い、予約管理や検体採取、証明書の発行等をアルムが行った。

(2) 実施体制

①設営施設名

Pre-Departure Testing Center

②検査対象者

選手団等の海外からの入国者

③検査日

10月20日～10月26日

10月28日～11月2日

④検査種別

・RT-PCR検査（鼻咽頭拭い）

・Igm抗体検査（血清）

⑤証明書

専用システムからダウンロード（PDF）

(3) その他

初日の帰国前検査にて陽性者が出て不安なスタートとなったが、その後の帰国前検査では陽性者は出なかった。

なお、検査におけるトラブルは無かったが、予約ができない、証明書のダウンロードができない、紙の証明書が欲しい等といった個別の対応が相当数あった。

●コロナの検査結果

＜大会における選手団等の検査＞

検査名	検査数(件)	陽性者(件)
PCRスクリーニング検査	5,337	2
抗原スクリーニング検査	9,918	0
帰国前検査	688	1
合計	15,943	3

※入国時の空港検疫検査数1,216件、陽性者2件

＜観客に対する検査＞

検査名	検査数(件)	陽性者(件)
一般観客に対するPCR、抗原定量検査	2,698	0
学校観戦に対するPCR検査	2,233	0
合 計	4,931	0

●陽性者への対応

大会期間中のスクリーニング検査、帰国前検査で海外選手、関係者3人の陽性が判明した。いずれも直ちに隔離措置を取り、スクリーニング検査については、こうゆうファミリークリニックの協力を得て、確定診断を行った。こうした検査結果は、速やかに公表した。

陽性確定後は、市保健所の指導のもと、市内療養施設での療養となった。

適切な対応のおかげで、濃厚接触者はなく、これ以上の感染拡大はなかった。

●選手等のコンディション維持のための取組み

本大会に出場する選手等は、コロナ禍において、感染症対策を徹底する観点から、大会会場・練習会場・ホテル・食事会場という限られた範囲での生活となっており、世界選手権という特別な大会の重圧の中、試合や練習時間以外では体を動かすこともできず、屋外に出る機会がなく、身体的にもメンタル的にも厳しい状況であった。

そこで、国と協議を行い、感染防止対策で徹底しつつ、選手等の心身のコンディション調整を目的に、下記の取組みを行った。

＜取組みの内容＞

以下の3施設を練習会場(貸切)とするとともに、北九州市が若松体育館において、お祭り・縁日体験コーナーの設置や市民からの応援メッセージの掲示など選手等へのおもてなしの取組みを実施した。

・響灘緑地グリーンパーク
・若松体育館
・ミクニワールドスタジアム北九州(大会期間中に国と追加協議を実施した)(p48～49参照)

さらに、世界新体操に向けて、国と追加協議を実施した結果、新体操会場「西日本総合展示場新館」、練習会場「ミクニワールドスタジアム北九州」、食事会場「あるあるCity2号館」間の移動については、徒歩での移動(お散歩)も可能とした。選手等と市民が接触しない形でバブルを作るため、市職員がルート上に立ち、選手等を誘導した。

●地方都市開催におけるコロナのロールモデル

本大会では、

①徹底したスクリーニング検査やバブル方式の運用などコロナ対策
②国の「ワクチン・検査パッケージ」の技術実証の活用
③徹底的な情報公開

など、本市の実情に合わせながら、万全のコロナ対策に取り組んだ。

その結果、

①世界の約70か国・地域から1,200人超の選手・関係者が参加し、約27,000人超の観客が来場するなど、大いに盛り上がった
②クラスター、観客・国内スタッフの陽性者を発生させなかった
③「ワクチン・検査パッケージ」として初めて、「有観客100%の国際大会」、「長期間の大会」を実現した
④コロナ禍での開催に対する市民の理解が得られた
⑤取組みが広く情報発信された

などの大きな成果を上げ、「コロナ禍での地方における国際大会のロールモデル」を構築することができた。

広報

史上初である「世界体操」と「世界新体操」の同時開催を契機に、全国へ本市の魅力を発信し、まちのにぎわいづくり、集客による経済効果、都市イメージの向上を図るため、都市装飾や情報発信を実施した。本市クリエイティブディレクターである下川大助氏の協力のもと、2021年2月に策定した、広報戦略に基づき取り組んだ。

都市装飾

大会開催に向けた気運醸成を図るため、街なかを体操一色に染める都市装飾を実施した。当初は、東京2020オリンピック・パラリンピック閉幕直後の2021年9月上旬から実施予定であったが、コロナの感染拡大に伴い、社会状況を考慮して、実施開始時期を延期し、9月下旬からの実施とした。

小倉都心部を中心に、北九州空港、JR・北九州モノレール各駅、各区役所等に、大会ロゴや選手をデザインした広告やのぼり、バナー、垂れ幕、ステッカー等を飾り付けた。

コロナ禍において、イベント等の開催が難しい中ではあったが、徹底した都市装飾により、市民に大会の開催が認識されるようになった。また、体操一色に染まった街の様子を、テレビや新聞、WEBやSNS等で多く取り上げられるとともに、国際体操連盟の渡辺会長からも称賛された。

● 小倉都心部

小倉駅JAM広場では、大会メダルをモチーフとした空間装飾を施すとともに、北九州モノレール小倉駅壁面に新設された液晶マルチビジョンや小倉駅南北公共連絡通路に新設されたデジタルサイネージで、選手からのメッセージ動画を放映した。小倉駅南口3階東側階段では、選手等をデザインした階段広告を掲出した。小倉駅旧観光案内所では、扉の前面に内照式パネルを設置し、選手等をデザインした広告を掲出した。小倉駅ペデストリアンデッキには、日本語と英語の二言語で大会を盛り上げるステッカーやバナーを飾り、小倉ガレリアには垂れ幕を掲出した。

商店街や旦過市場、小倉井筒屋、アミュプラザ小倉には、のぼりやバナー等があふれ、体操一色となった。

市役所でも、1階南側ロビーに横断幕やPRブース、1階エレベーター扉にステッカーを設置する等の装飾を行い、市役所を訪れた方々に大会開催のPRを行った。

その他に、5月からギラヴァンツ北九州のJ2ホームゲーム(ミクニワールドスタジアム北九州)において、ゴール裏に大会告知の看板を設置し、観戦に来た方々やテレビで観戦する方々に向けて、大会開催のPRを行った。

10月5日からは西日本シティ銀行街かどギャラリーに、西日本工業大学の学生が大会をテーマに制作した立版古（たてばんこ）（立体的な紙作品）や大会メダル等を展示し、大会開催を盛り上げた。

また、例年11月から実施している小倉イルミネーションは、大会開催に合わせて特別に10月から点灯を開始した。その中で、紫川親水広場付近に、「コクラニキタイ」プロジェクトの一環として、西南女学院大学生がプロデュースしたスノードームや新体操ポーズをかたどった人型イルミネーションがお目見えした。市のシンボルである小倉城や小倉駅ペデストリアンデッキ、北九州モノレール橋脚、ミクニワールドスタジアム北九州、紫川親水広場の噴水でも、大会期間中を中心に、大会のテーマカラーに合わせて赤くライトアップした。さらに、紫川に掛かる火の橋では、ガス灯を通常時は週末のみ10分間点火し20分間消火するというサイクルで断続点火しているが、大会期間中の10月22日から24日までと27日から31日までは18時から22時まで連続点火した。

●小倉都心部以外

北九州空港では、垂れ幕や横断幕を掲出し、来訪する選手・関係者等を出迎えた。JR・北九州モノレール各駅、各区役所・市民センター、郵便局等では、のぼりを掲出した。

その他に、6月から工事看板へのステッカーの貼り付けや工事現場への大会PR看板の設置を行い、市内各所で大会開催の周知を行った。

また、例年12月から実施している若松イルミネーションは、大会開催に合わせて特別に10月から点灯を開始した。南海岸通りに巨大な「WAKAMATSU」のLED照明が初お目見えしたほか、街路樹や岸壁の手すりに取り付けられた電飾が、赤く照らされた若戸大橋と相まって洞海湾の夜に彩りを添えた。

●大会会場周辺

世界体操の会場となった総合体育館に隣接する中央公園では、10月15日から24日まで、フラワーオブジェクトの設置やライトアップを行い、世界新体操の会場となった西日本総合展示場新館近くの小倉ガレリアでは、10月25日から31日まで、フラワーオブジェクトを設置した。

さらに、会場周辺の装飾に加え、観客入口に大会ロゴをイメージしたフラワーオブジェクトを設置し、大会観戦に訪れた方々を華やかに出迎えた。

●車両を活用したPR

大会をPRするために各交通事業者に協力いただき、市営バス、西鉄バス、北九州モノレール、筑豊電気鉄道の各車両に選手や大会ロゴをデザインしたラッピング（9月下旬から運行開始）を行った。市営バスの車内には西日本工業大学の学生が大会をテーマに制作したポスターを掲示し、大会開催を盛り上げた。

また、市公用車や郵便車両へステッカーを貼り、広く大会開催のPRを行った。

情報発信

大会の開催を契機に本市の魅力を発信するため、テレビや新聞、ホームページ、SNS等による広報を展開した。コロナ禍であったことから、発信のタイミングや内容を工夫し、ご覧になった方々の心に響くよう努めた。

● テレビ朝日との連携

大会開催が正式に決定された後、「SDGs未来都市」や「環境」といった本市の強みをどのように国内外に発信していくか、市内部で検討を行った。その上で、2020年12月11日、大会の放映権を有するテレビ朝日と協議を行い、本市のPR映像制作と大会時の放映について提案を受けることとなった。

2021年1月22日、テレビ朝日から、大会中継番組におけるテレビCM制作・放送のほか、PR動画制作、テレビ朝日・六本木ヒルズ夏祭りSUMMER STATIONでのPRブース出展など、多くの提案があった。そのため、市内部で費用対効果等を整理し、2021年2月17日、テレビ朝日に対して、テレビCM制作・放送は実施、PR動画制作とPRブース出展は今後検討の旨、回答した。結果的に、コロナの感染拡大に伴いテレビ朝日・六本木ヒルズ夏祭りSUMMER STATIONは中止となったため、テレビCM制作・放送とPR動画制作を行うことにした。

1. テレビCM制作・放送

テレビ朝日の大会中継番組において、本市のCM(30秒)を放送した。皿倉山の夜景や小倉城といった観光名所の映像のほか、SDGs未来都市をPRするため洋上風力発電の風車やロボット技術の映像を取り入れるとともに、市民の皆様にも出演いただき、「想いをつむぎ 未来へつなぐ」をキャッチコピーに、本市の魅力や人の温もりが感じられるCMを制作した。

①放送日程：10月21～24日、29・30日(計6日間)
②放送時間：ゴールデンタイム
③放送回数・地域：各日1回・全国

2. PR動画制作・配信

10月6日、体操元日本代表の田中理恵さんや白井健三さん出演のもと、本市の魅力を発信するPR動画を市国際スポーツ公式YouTubeチャンネルで配信を開始した。動画時間は約4分。先人たちが苦労の末に身につけた技術、そして、それが次世代に受け継がれ高度な技として進化し、今もなお私たちを魅了し続ける体操競技。一方、本市では、歴史や文化、産業技術に加え、多くの困難を市民とともに乗り越えてきた市民力、先人から引き継がれた多くの資産がある。こうした体操と本市の「繋がる未来」をテーマに動画を制作した。

●J:COM番組「つながるニッポン！応援のチカラ」

10月16日に放送されたJ:COM番組「つながるニッポン！応援のチカラ」に市長が出演した。ウィズコロナの時代、様々な課題を抱えながらも頑張っている人を応援する番組で、市長と番組MCの中井美穂さん、ゲストの東ちづるさんが出演し、大会の概要や見どころ、コロナ対策、大会への抱負等をテーマに、大会や本市の魅力を全国にPRすることができた。

①放送日時：10月16日 14:00～14:30

②放送地域：全国

●新聞への記事掲載

①朝日新聞朝刊（3月31日）

本市世界体操・新体操選手権推進室の三浦室長（当時）とタレントの中上真亜子さんのインタビュー記事を掲載した。内容は、大会誘致の経緯や大会の見どころ、本市の意気込み、コロナ対策など。

②読売新聞朝刊（8月14日）

国際体操連盟の渡辺会長、福岡県知事、市長による鼎談記事を掲載した。内容は、大会の魅力や安全安心な大会への取組み、地域の活性化の方策、大会への想いなど。

③毎日新聞朝刊（9月22日）

体操元日本代表で組織委員会の委員も務めた田中理恵さんのインタビュー記事を掲載した。内容は、現役時代の世界体操の思い出や活躍が期待される体操日本への想い、本市の印象など。

●市政だよりや雑誌等による情報発信

5月から10月までの各1日号の市政だよりに体操・新体操のまめちしきを連載した。また、10月1日号に合わせ大会の情報満載の増刊号を発行し、大会の紹介、技やルールの解説、選手からのメッセージ等を掲載した。

7月21日には、大会公式ガイドブック「くるり北九州」が文化工房から発売された。大会の概要のほか、新体操元日本代表の畠山愛理さんが本市の観光名所を訪れ、紹介している。

●市特設サイトによる情報発信

7月9日、大会に関連した市の取組みを中心に紹介する市特設サイトを公開した。大会情報や本市の魅力が効果的に伝わるよう、写真を多く掲載し、視覚的に分かりやすいサイトを制作した。

●SNSによる情報発信

6月下旬から、市国際スポーツ公式SNS（Twitter、Instagram、Facebook）の投稿を開始した。大会に関連した市の取組みを中心に、選手出演によるカウントダウン、短尺動画の配信など、多くの方々の認知度を高め、広く情報が届くよう魅力的なコンテンツを用意した。

さらに、市役所で初めてとなる「民間企業と連携したSNSによる情報発信」の試みとして、SNSマーケティングに多くの実績と知見を有するgaabooと連携することで、情報発信のタイミングやコンテンツを工夫し、本市の魅力をより効果的・戦略的に発信した。

その結果、コロナ禍でありながら、高い投稿表示率を記録し、多くのフォロワーを獲得するなど、観戦に訪れたいユーザーはもちろんのこと、大会や選手に興味関心のある方々に、日常的に目にしてもらえるアカウント運営を実現でき、体操・新体操ファンを中心に本市の知名度向上やPRに繋がった。

●松岡修造さんとのコラボ企画によるポスター制作

テレビ朝日の世界体操・新体操2021メインキャスターである松岡修造さんとのコラボ企画の一環で、「CANDO! つなぐ北九州」をキャッチコピーに、松岡修造さんや市民のメッセージを掲載したポスターを制作した。ポスター中央の松岡修造さんは、元気いっぱいなTシャツ姿と、キリッと決めたスーツ姿の2パターンを用意。制作したポスターは9月26日の朝日新聞朝刊への掲載や小倉駅1階改札内通路等に掲示した。「どこで手に入るのか」という問合せが相次ぐなど、市民の関心は高かった。

朝日新聞朝刊（9月26日）

効果測定

●パブリシティ効果

今大会は、「世界体操」と「世界新体操」の史上初の同時開催であるとともに、東京2020オリンピック後、国内初の世界選手権であったことから、国内外から大きな注目を集め、メディアで数多く報道された。また、「100日前イベント」など市民向けの「大会関連イベント」、選手等との「市民交流」、街を体操一色に染めた「都市装飾」といった様々な取組みや、万全のコロナ対策を講じ100%有観客で開催できたことで、これらを紹介する報道も相次いだ。

さらに、大会で個人総合と種目別鉄棒で銀メダルを獲得した体操日本代表の橋本大輝選手など、選手からのSNS投稿も多く見られた。

これら大会に関する報道等の宣伝効果を広告費に換算した「パブリシティ効果」について、日本国内のテレビ、新聞、雑誌、国内外のWEB、SNSを対象に、大会開催が正式に決定した2020年11月から2021年12月までの14か月分を調査したところ、件数は3万を超え、効果額は約446億円となった。

大会の開催を通じ、非常に高い広報効果が認められ、都市イメージの向上、シビックプライドの醸成に大きく寄与した。

西鉄エージェンシー調べ

調査媒体	パブリシティ効果	件数
①テレビ（全国、福岡、BS）	400億6,800万円	642件
②新聞	21億9,500万円	807件
③雑誌	900万円	32件
④WEB	20億1,600万円	5,549件
⑤SNS（Twitter、Instagram）	3億4,800万円	24,066件
合 計	446億3,600万円	31,096件

※調査範囲：テレビ・新聞・雑誌は「国内」、WEB・SNSは「国内」・「海外」
※調査期間：2020年11月1日～2021年12月31日（14か月間）

●経済波及効果

大会開催に関わる経費や選手団・スタッフ・観客の消費支出、大会会場の改修、大会に関連した市の取組みに関わる経費等について、市内の経済波及効果を算定したところ、約40億円となった。

北九州市立大学調べ

種別	主な内容	経済波及効果
①大会本体	・大会開催 ・大会参加者による消費支出　等	18億8,600万円
②北九州市関連事業	・大会会場の改修 ・おもてなし、気運醸成、情報発信　等	21億4,100万円
	合 計	40億2,700万円

※大会期間：12日間、大会会場：2会場、大会参加：71か国・地域1,271人、観客：26,665人

●市民アンケート

大会閉幕後の11月30日から12月2日、大会開催の評価等について、18歳以上の市内居住者を対象にインターネットによるアンケート調査を実施した（有効回答数1,073）。

その結果、大会について、9割を超える市民に認知されており、2021年3月に実施した市民アンケートに比べて約6割増加した。また、大会全体、コロナ禍での有観客開催、国際スポーツ大会等の誘致について、肯定的な回答が約7割（否定的な意見は数%）となり、今回の様々な取組み等が多くの市民から高く評価された。

大会開催が本市にとって良かったと評価できる点として、「北九州市の良いイメージが、国内に広まった」が最も多い結果となり、大会開催を通じて、本市の魅力を効果的に発信できたことが評価された。

北九州市立大学調べ

①大会の認知（%）	
知っている※1	91.4
知らなかった	8.6

約6割増加

2021年3月
32.3
67.7

※1　世界体操・新体操の両方もしくはどちらかのみ開催されたことを知っているを含む

②大会の観戦の有無※2（%）	
観戦した※3	36.5
観戦しなかったが、新聞等で情報を見た	42.7
特に情報は得なかった	20.8

※2　①で「知っている」と答えた人を対象
※3　会場もしくはテレビ・ネットで観戦したを含む

③大会全体の評価（%）		
とても良かった	26.4	69.7
ある程度良かった	43.3	
どちらとも言えない	26.0	
あまり良くなかった	2.8	4.3
全く良くなかった	1.5	

④コロナ禍での有観客開催に対する評価（%）		
とても良かった	26.9	68.6
ある程度良かった	41.7	
どちらとも言えない	26.0	
あまり良くなかった	3.4	5.4
全く良くなかった	2.0	

⑤大会開催によるシビックプライドの変化（%）		
非常に高まった	7.5	35.2
ある程度高まった	27.7	
特に変化はなかった	39.5	
わからない	25.3	

⑥国際スポーツ等の誘致に対する考え方（%）		
とても意義がある	25.6	71.7
ある程度意義がある	46.1	
どちらとも言えない	23.0	
あまり意義がない	4.0	5.3
全く意義がない	1.3	

⑦大会開催が北九州市にとって良かったと評価できる点（複数回答可）※4（%）	
北九州市の良いイメージが、国内に広まった	41.8
会場となった総合体育館や西日本総合展示場が効果的に利用された	40.9
体操や新体操への関心が高まった	38.2
国際交流が進んだ	31.4
北九州市の良いイメージが、海外に広まった	26.9
世界体操・新体操のPR装飾などで街の雰囲気が明るくなった	26.0
宿泊者が増加するなどによる経済効果があった	25.8
体操や新体操の普及や人材育成につながった	14.3
その他	0.9
特になし	18.1

※4　①で「知っている」と答えた人を対象

●市幹部職員が選んだ10大ニュース

毎年年末に発表される「市幹部職員が選んだ10大ニュース」において、世界体操・新体操が、2020年は2位にランクイン、2021年は2位に100票以上の大差をつけ、1位に輝いた。

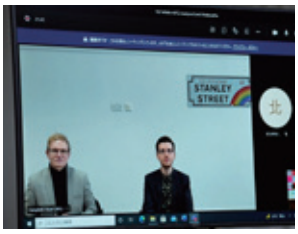
大会のレガシー

都市間交流

●次期開催都市との交流 ～イギリス・リバプール市～

(1) オンラインでのエール交換

大会開幕を目前にした10月14日、2022年の世界体操開催都市であるイギリス･リバプール市と本市がオンラインでエール交換を行った。



(2) 子どもたちの交流

長尾小学校とリバプール市の King David School がビデオ交流とプレゼント交換を行った。

教育・文化

●子どもたち・市民とトップアスリート等の交流

(1) 体操

①12月8日：足立小学校、河内小学校、木屋瀬小学校が水鳥監督とオンライン交流を実施。

②2022年1月18日：水鳥監督がオリ･パラ推進校の教員向けにオンライン講演を実施。

(2) 新体操

①11月28日：「ありがとう北九州」展スペシャルイベントとして、元日本代表の皆川夏穂選手によるトークショーと新体操クラブの子どもたちとの交流を実施。

②12月21日：皆川選手と松ヶ江南市民センター17人、沼市民センター7人がそれぞれオンライン交流を実施。

●ドラえもんプロジェクト

大会の開催を記念して、市立の小学校や特別支援学校小学部に、テレビ朝日から「逆上がり補助機」、藤子・F・不二雄プロから「てんとう虫コミックス ドラえもん」の寄付を受け、10月15日に贈呈式を行った。

●フレイル予防の推進

2022年1月15・16日にイオン戸畑でサンテジムを開催。コロナ禍で感染防止対策を十分取りながら、2日間で82人が参加した。

●「ありがとう北九州」展

11月23日から28日まで、イオンモール八幡東内の特設会場に、大会のハイライト写真、各選手からの「Thank you」メッセージ、大会メダルや選手のサイン入りグッズ、市民の応援メッセージ等を展示した。

選手からのメッセージは、子どもから大人まで、広くの市民がメッセージや観戦で応援のおもてなしをしたことに対する返礼であった。

KOHEI UCHIMURA THE FINAL

体操で五輪２連覇、本市で開催された世界体操の鉄棒では会心の着地を決めた内村航平選手が、3月12日に開催された「KOHEI UCHIMURA THE FINAL」（東京体育館）で競技人生最後の演技を行い、現役を引退した。会場にはリオデジャネイロ、東京の両五輪をともに戦ったメンバーも集結した。

内村航平選手の引退を受けて、生まれ故郷である本市と体操を始めた地元である諫早市は、両市民からの感謝の想いを込めたメッセージ動画を制作した。動画には、両市から100人を超える市民が登場した。

「KOHEI UCHIMURA THE FINAL」の会場において、内村航平選手や約6,500人の観客の前で放映した。内村航平選手からも故郷からのメッセージ動画は喜ばれた。

寄稿文

大会開催に携わった皆さまからお寄せいただいた寄稿文をご紹介いたします。

組織委員会

日本体操協会　守永 直人さん

今回の世界選手権は新しい時代へチャレンジする大会でありました。「選手のため」にはもちろんの事、「地域市民のため」、そして、「次世代のために」を目標に掲げ皆で作り上げた大会でした。そのチャレンジに積極的に取り組まれた北九州市の皆さんに大変感謝しています。

株式会社 CB　山口 翔さん

まずは本当にお疲れ様でした。スタッフの中で一人ぐらい倒れる人がいるかな～と思っていましたが、誰も脱落することなく終わりましたね！

沢山の想い出を作れたのは、街・食・そして市役所の皆様の人柄！本当に楽しかった！
有難うございました！！（住民票移そうかな）

株式会社 JTB　太郎丸 文子さん

宿泊・輸送・食事に関わる事業者とともに、選手・関係者の皆様に安全・快適に過ごして頂けるよう知恵を絞りながら取り組みました。北九州で開催された素晴らしい大会に携わることができ、大変貴重な経験をさせて頂いたと思っております。ありがとうございました。

株式会社アルム　鹿島 浩さん

世界体操・新体操の会場で、帰国前ＰＣＲ検査及び渡航用陰性証明書の発行を担当させていただきました。準備段階から組織委員会の皆さまに全面的にご協力いただき、期間を通して大きな混乱もなくスムーズに検査を行うことができました。何より、選手や関係者の皆様が無事に帰国できるお手伝いができたことをとても嬉しく思っております。

今回、貴重な機会をいただいた組織委員会の皆様をはじめ大会関係者の皆様に感謝申しあげます。

本当にどうもありがとうございました。

消防

消防局警防課

消防局では、各国の選手団や観客の皆さんが安全に安心して大会に来ていただけるよう、事前の関連施設への立ち入り検査や怪我や病気、事故等に備えて現地に消防職員を常駐させるなど、関係機関と連携した消防対策を行いました。

幸いにも大きな事故や災害もなく大会を終えることができましたが、今後とも大規模イベントの開催時には、多くの皆さんが安心して北九州市に来ていただけるよう、関係部署との連携をさらに強化し、万全を期していきたいと思います。

世界体操（会場）

北九州市スポーツ協会　宮田 義高さん

「世界体操の開催を振り返って」

この度、世界体操選手権大会が、ここ北九州市立総合体育館で開催できましたことは、大会の誘致を決定頂きました組織委員会をはじめ、福岡県、北九州市トップの決断と長期間サポート頂きました関係者の皆様の努力の賜物であり、また、大会をご声援頂きました市民の皆様のご声援が大会を成功裏に導いたものと感謝申し上げます。

世界新体操（会場）

北九州観光コンベンション協会　高崎 洋さん

「世界新体操 2021」が関係された全員の力の集結により、世界中から選手・お客様をお迎えし無事に開催できました。その一翼を担えたことを糧として、今後のMICE誘致・開催に活かしていきます。ありがとうございました。

体操の楽しみ方講座・大会運営

自由ケ丘高等学校体操競技部監督　松浦 聡志さん

世界体操にあたり「体操の楽しみ方講座」で、映像をもとに体操の種目や技の名前を解説させて頂きました。九州共立大学体操競技部の現役の学生に対しても多くの質問をいただき、来場の皆様の興味関心の深さを実感しながらの楽しい講演となりました。

自由ケ丘高等学校体操部３年　島田 蒼汰さん

世界トップの選手の練習を間近で見たりサポートでき、良い経験ができて嬉しかったのが感想です。物心付いたときから始めている体操は僕にとって常に大きな夢を与えてくれるかけがえのない大切な競技です。

新体操の楽しみ方講座・大会運営

福岡大学スポーツ科学部教授　柿本 真弓さん

新体操において、「世界新体操の楽しみ方講座」「世界新体操選手権大会」「皆川夏穂さんのトークショー」に関わらせて頂いたことに大変感謝しております。どのお仕事も楽しむことができました。

北九州市民と一緒に行う様々なイベントを企画、運営されてきた推進室の皆様のご苦労に敬意を表します。「想いは叶う・想いは届く」ことを感じさせていただきました。2021年下半期は、私の人生で貴重な体験ができた時間でした。有難うございました。

福岡大学スポーツ科学部３年　生島 富美華さん

世界選手権のボランティアに参加させていただき、普段見ることのできない世界のトップ選手のアップやトレーニングといった裏側まで見ることができたり、間近で演技を見させていただき、貴重な体験ができました。今後私が大会に出るときには大会が開催されることが当たり前ではないことを忘れずにいたいです。

福岡大学スポーツ科学部２年　木下 怜奈さん

普段 YouTubeやテレビなどのメディアでみる世界を生で見ることが出来、とても感動しました。また、本番だけでなく、その前のルーティンなどこのような仕事をしないと見れないような部分も存分に見ることが出来とても勉強になりました。このような機会を与えて下さり本当にありがとうございました。

福岡大学スポーツ科学部２年　河野 杏さん

新体操の楽しみ方講座では新体操を知らない方や興味がある方に新体操の面白さや楽しみ方を伝えられることができて自分自身とても嬉しかったです。

世界新体操では日頃 YouTubeでしか見たことのない選手を間近で見ることができ、一生経験できないようなことを知ることができて嬉しかったです。私自身ももっと上手くなりたいと思ったし、当たり前に試合に出れることに感謝したいと思いました。

福岡大学スポーツ科学部２年　伊東 来夢さん

世界選手権では、テレビでしか見たことがなかった選手を間近で拝見し、とても貴重な体験をさせていただきました。また、私は皆川選手のトークショーにも参加させていただきましたが、オフの日の過ごし方や試合での気持ちの持っていき方など、普段は聞けないことを聞くことができてよかったです。

福岡大学スポーツ科学部１年　木村 果愛さん

世界新体操選手権に役員として携わらせていただき、とてもいい経験が出来ました。間近で世界の選手の試合直前の様子や裏での練習の取り組み方を見れ、どの国もコーチとの信頼が強く、選手は自信をもって本番のフロアに向かっていたのが印象に残っています。このような貴重な経験をできて、嬉しく思います。

福岡大学スポーツ科学部１年　森 夕華さん

世界新体操選手権大会に役員として携われたことは本当に貴重で素晴らしい経験になりました。いつも画面越しに見ていた選手たちの演技を目の前で見ることができ、多くの学び、発見、刺激、感動などいろいろ感じることがありました。個人では、選手一人一人が自分の魅力や強みを活かした演技をしていて個性あふれる演技ばかりだったので、その世界観に引き込まれました。

Z世代プロジェクト

上米良 萌さん

今大会の応援プロジェクトに携わり、今まで見過ごしてしまっていた北九州ならではの美しさや市民の方々の思いの熱さ、優しさにも触れることができ、学生生活の中でとても有意義な体験になったと思います。

小林 秀太朗さん

学生という立場でありながら今回スポーツを通したまちづくりに携わることができて大変光栄に思います。北九州出身ではないからこそわかる、この街の魅力を沢山感じることが出来ました。

新谷 飛香さん

このプロジェクトを通じて北九州市民の方々や北九州市の企業の方々と沢山関わらせていただき、改めて北九州市にはあたたかくてガッツのある方が多くいらっしゃると感じました。また、自分がこのプロジェク

トに関わらせて頂けたこと、とても誇りに思います。市の美しさを追求することでさらに北九州市が大好きになりました。

塚本 真由さん

このプロジェクトを通して、北九州市の美しさや市民の方々の温かさを改めて実感することが出来ました。また、この大会を通して、今まで関心のなかった世界体操、新体操に関心を持つようになりました。世界大会という大きな大会に関われたことを誇りに思います。

太田 圭祐さん

当初想像していたより、大きなプロジェクトになり、応援したことに期待以上の価値があったと感じています。テレビに出られたことによって周りの人も喜んでいたので関わってよかったと思います。

大津 胡桃さん

今回のプロジェクトを通じて、北九州の美について触れ、北九州に詳しくなったおかげでさらに北九州の事が大好きになりました。大きなプロジェクトで大変なこともありましたが、これからの自分の自信に繋がりました。

本田 蒼依さん

これまで地元北九州に関わったプロジェクトなど一度も参加したことがなかったですが、世界体操新体操という素晴らしい大会のプロジェクトに関わることができて大変光栄でした。今まで気づけなかった北九州の魅力や地元の方の温かさを身に染みて感じました。これからも北九州のイベントには積極的に参加したいと思います。

小坂 真穂さん

私はこのプロジェクトに参加させていただくことで、多くの学びを得ることが出来ました。それも、北九州市役所様やATOMicaの皆様の助けがあったからです。また、この活動を通して私自身も、体操・新体操の魅力を深く感じることができました。これからも、体操・新体操の選手の皆さんを応援していきたいと思います。

築後谷 果奈さん

多くの学びや経験を得られた非常に思い出深いプロジェクトでした。普段は交流する機会のない北九州の企業の方々や地域の人々と触れ合う貴重な体験もでき、北九州という場所の魅力も改めて感じました。世界体操・新体操のPRをテーマとしたプロジェクトでしたが、その枠を超えた経験ができたことを、とても嬉しく思います。

井上 裕崇さん

今回のプロジェクトを通して北九州市民の温かさや、北九州の魅力について気づくことのできなかったことにも気づけるようになったり、自分の中でも成長を感じることができました。こうした活動に携われたことをこれからの活動にいかしていきたいと思います。

株式会社 ATOMica　小田﨑 唯さん

今回の企画は世界体操そして北九州市を盛り上げるPR大使になるというなかなかハードなものでしたが、10人全員が最後までやり遂げてくれました。素晴らしい成長を遂げてくれた10人のATOMatch生、本当によく頑張りました。

北九修造プロジェクト

長尾小学校６年　立木 佑芽さん

「松岡修造さんとの交流」

今日の感想を三つ書きます。

一つ目は、自分が松岡さんに見せたことです。リハーサルの時に私は失敗しました。そして本番が始まる前、すごくきんちょうしていて成功するか心配だったけど自分の力を出せて良かったです。

二つ目は、目標をもつということです。松岡さんが目標をもつことはすばらしいと言っていました。なので私も目標に向かってがんばろうと思いました。

三つ目は、「でんぐり返しのその先に」という言葉のことです。この言葉は、でんぐり返しをしたらその先には未来があるということです。でんぐり返しはあまり意識せずに回っていても、そのでんぐり返しをすると見えなかった未来があるということが心に刺さりました。

これからは、自分の目標を持ち、なりたい自分に向かっていけるように、まず自分ができることから進めていきたいなと思いました。

長尾小学校６年　末次 海里さん

「松岡修造さんとの交流」

今日の感想を三つ書きます。

一つ目は、「でんぐり返しのその先に」という言葉のことです。交流の中で松岡さんが話していたのが「でん

ぐり返しのその先に」です。この言葉は、でんぐり返しといういつも何気なくしていることだけど、でんぐり返しはどんどん繰り返してどんどん前に進んで行くという意味があるということを知りました。その話を聞いて人生の中でもでんぐり返しをするように、目標に向かって繰り返し努力して前へ進んでいこうと思いました。

二つ目は、「CANDO」という言葉についてです。CANDOとは、日本語に訳すと「できる」という意味なのですが、これをローマ字で読むと「感動」となります。そのことを聞いて、スポーツなどを通してこれからは、感動という点に注目して、見ようと思いました。

三つ目は、自分の役割をしっかりこなせたことです。私には、学年委員としてのセリフ、委員長としてのセリフ、自分ががんばっていることについてのセリフがありましたが全て言い切ることができました。そして、前の人がきんちょうしてとちゅうでやめてしまったけれど、そこも上手くカバーできました。このようなことから、自分は発表する時少し声が小さくなることがあるのでこれからは、堂々と発表しようと思いました。

今日の交流を通して、どんどん前に進んで自信を持って、堂々とした態度で生活しようと思いました。

長尾小学校６年　竹中 紅葉さん

「松岡修造さんとの交流」

今日の感想を三つ書きます。

一つ目は、松岡さんの前で演技をしたことです。みんなで練習をしたのは３～４回ぐらいでした。なので「大丈夫かなー。」と心配で緊張しました。けど、本番は成功したのでとてもうれしかったし楽しかったです。またこのようなことがあるときはもっと自信をもって動きたいなと思いました。

二つ目は、しい葉くんのことです。しい葉くんはいつも授業中や日常生活の中でとても積極的に動いています。そして今日、29日に松岡さんの質問にみんなが答えている中、しい葉くんが大きな声でしゃべっていると松岡さんがきづいてくれました。そして、しい葉くんは、急にふられたにもかかわらずがんばってしゃべってとてもすごいと思いました。いつも積極的に動いているから、松岡さんに知ってもらえたんだと私は思いました。

三つ目は、松岡さんの話を聞いて、「CANDO」という言葉を知ったことです。松岡さんはCANDOが「できる」という意味だと言っていました。そしてCANDOをローマ字で読むと「感動」という言葉になり、とても深い言葉だなと心に残りました。

これからは、松岡さんとの交流会の経験を生かしていきたいと思いました。勇気をもってどんどん挑戦していきたいです。

長尾小学校６年　古川 結理さん

「きちょうな経験」

今日は松岡さんとの交流で、とても楽しいきちょうな経験をした。木屋瀬小といっしょに松岡さんとの話しを聞きました。

松岡さんの言葉一つ一つに重みがあり、例えば目標がないと、応援される意味はないや、「でんぐり返しのその先に」などかっこいい名言などを話してくれました。オリンピックは世界中の平和、世界の環境、オリンピックが開催されるその国の文化を伝えるためでもあるといってくれ、環境では冬季オリンピックに使った雪は自然の物ではなく、じんこうの雪だった、ときちょうな実体験を話してくれたので、地球温だん化がどれだけ激しいかがすごくよく伝わりました。松岡さんはそこにいる周りの人たちをみんな明るくしてくれ、まさに「SAの道」を目ざす私たちのお手本だなと思いました。それから私は松岡さんのようなプラス思考を持ちポジティブにすごしていきたいと思います。また松岡さんのかっこいい名言は「Gに逆らえ」という言葉で、ゴール・ゴキブリ・元気など最初はいっている意味が分からなかったけど、今思い返すとゴールや元気などはみんなが支えながらすることだなと思いました。そう考えると「でんぐり返しのその先に」では、と中で見た動画に最初はうまくなかったけどどんどんくり返しやってうまくなっている体操選手がいたので、やっぱり努力することが大切なんだと学んだ。これからは、みんなで支え合いながら、自分自身の目標に向かって努力していこうと思いました。そして、支えてくれている人達に、ありがとうということをかかさないようにします。

みんなで応援プロジェクト

東谷市民センター館長　馬場 純子さん

「東谷から愛♡をこめて世界を応援」をキャッチフレーズに、日本のおもてなし「和」人と人との繋がり「輪」をテーマに、地域性を活かした応援案山子などで、市民センターと地域、子どもたちと連携しながら、素晴らしい応援ができた事は、感慨深いものがあります。

また、男子体操の水鳥監督とのオンライン交流も盛り上がり、「頑張れ日本・輝け日本」と直接エールを送れた事は、嬉しかったです。

応援プロジェクトに関われた事に感謝しております。

今回のこの活動が地域の自信につながりました。

企救丘市民センター館長　安倍 ゆかりさん

ブルガリア選手団とのオンライン交流会には、子ども会の協力によりたくさんの子どもたちが参加してくれました。実際に五輪金メダリストの選手と交流して、より興味を持つことができました。会場で応援した子や、体操教室に通っている子もいて、貴重な体験になったと思います。

SDGsに関する取組み

株式会社アステック入江　水江 太一さん

リサイクルは目立つ産業ではなく、弊社も一般の方々に認知されない企業ですが、今大会でリサイクルメダル製作等に携わったことで、リサイクル産業に対するモノの見方を変えることができたのは非常に誇らしい経験になりました。

株式会社小倉縞縞　堀内 織江さん

小倉織は「槍をも通さぬ小倉織」という逸話があるほどにとても丈夫な織物で、一度途絶えた後に復元・再生され現在につながっております。

コロナ禍の今、改めて持続可能とは何かを考え、未来につなげるひとつの形として開発したのが再生ポリエステル使用の小倉織ですが、今大会の選手メダルリボンや記念品としてご活用いただき大変光栄に感じております。

このSDGsの想いを込めたメダルが、選手の皆様の栄光を祝福するとともに、今と未来、北九州と世界をつなげる一助となれたならば幸いです。

保健福祉局先進的介護システム推進室

持続可能な介護の実現には、介護ロボット・ICT等の機器を活用した先進的介護の推進が有効です。

これらの機器は一般の方にはなじみが薄いですが、今大会を機に介護ロボットを活用した先進的介護「北九州モデル」を紹介できたことは、介護施設の利用者やその家族となる可能性がある方への啓発のいいきっかけとなりました。

また、タイ王国大使館の方が北九州モデル普及センターの視察にお見えになるなど、日本の介護の取組への関心の高さもうかがえました。

竹灯籠によるおもてなし

『男のよか余暇塾』　塾生一同

世界体操・世界新体操、北九州市同時開催への応援モニュメント展示にて参加させていただき、選手や来場者の皆さんを、竹灯籠を制作して歓迎いたしました。

選手の皆さんが競技に全力で競う姿と、私たちの応援する気持ちは何処か共通の気持ちがあることに感動を得ることが出来ました。

今回は、このようなイベントへお声掛けいただきましたことへ感謝とお礼を申し上げます。

小倉南区　立石 望さん

総合体育館に竹灯籠を飾り、来場者や選手団へのおもてなしをしました。2020東京オリパラで見たピクトグラムを使用して、世界共通でわかるデザインにしようと思い、構想から作成まで約1か月で仕上げましたが、丁度稲刈りの繁忙期と重なり大変でした。

会場の入口と選手の目につくところに竹灯籠を置くことができ、大変満足でした。特に、途中電池交換のために大会開催中に会場を訪れた際には、来場者が竹灯籠の前で写真を撮っている姿を見て感激しました。

公式練習見学・大会観戦事業

長尾小学校６年　河津 響華さん

「公開練習の見学ふり返り」

総合体育館に行って、トルコ、中国、イスラエルの体操選手の練習を見に行った。体育館の中は、熱気があって、他の学校の人の応援や、選手たちの迫力がすごかった。

国それぞれのユニフォームがあった。

段ちがい平行棒は、中国の選手が、低い所から高い所にいく技を何回もしていてすごかった。

平均台は、イスラエルの選手が飛んで乗ったり、上でまわったりしているバランス感覚がすごかった。

床は、トルコの選手が、リズムに合わせておどっていたり、バク転を何回も続けていてすごかった。

あん馬をやりおえたイスラエルの選手や、トルコの選手のコーチが手をふってくれてとてもうれしかった。

英語でもあったように、コーチだったり、親だったりの支えてくれる人たちがいるからこそ選手はがんばれるんだなと思った。

選手たちもだけれど、コーチや支えてくれる人たちは、選手のことを考えて行動しなきゃいけないからすごいと思った。

木屋瀬小学校６年　男子児童２名

僕はこの世界体操・新体操がこの北九州市で開催できたことをとても誇りに思っています。実際に生で選手たちを見ることができてとても感動しました。そして、技にチャレンジする選手を見て、僕もチャレンジする精神は大事だなと知りました。このことを踏まえ、僕も今後はチャレンジをする回数を増やしていきたいと思います。

僕は世界体操を生で見て体を動かす楽しさと体操のすごさが分かりました。僕は今体育の授業で跳び箱の練習をしています。世界体操を生で見て選手たちの着地がとてもきれいだったと思いました。だから僕も世界体操の選手のように、着地をきれいにやりたいと思いました。

おもてなしイベント

国際政策課・国際交流員　リシャブ　バトナガーさん

Being able to have participated and helped in the GWC planning and Omotenashi Culture show has been one of the major highlights of my job as a CIR so far. Introducing Japanese culture to the participants of the championship gave me a sense of fulfillment. I could never have imagined that I would ever be able to interact with such high level athletes from all over the world. I am so grateful to have been able to show these atheletes the beauty of Japan as well as the pride of Kitakyushu.

世界体操選手権のおもてなし伝統文化スペシャルショーを手伝うことができたことは、これまでの国際交流員として一番心に残る経験です。出場選手に日本文化を紹介することで、充実感を味わうことができました。世界中から集まったこのようなトップアスリートと交流できるとは想像もしていませんでした。これらの選手たちに日本の美しさと北九州の魅力を示すことができて、そーとー嬉しいです。

北九州市記念品

社会福祉法人桑の実会　桑の実工房

理事長　桑園　英俊さん

「世界体操・新体操の記念品として桑の実工房の藍染ハンカチを納品してほしい」と、お話を頂いた時は、限られた期限に作品を仕上げることが出来るのか、不安でいっぱいでした。「テレビで見ている選手にハンカチを使ってもらえるんですね！」、「後何枚で仕上がりますか」と日々納品に向け意欲的に取り組む所員の姿に励まされながら無事に10月６日に納品が出来ました。1600枚の藍染ハンカチが完成したときの喜びや、達成感は今後も忘れることのない貴重な経験となりました。所員・職員にとって大きな自信に繋がるイベントでした。

リラックスプラン

グリーンパーク　施設職員一同

私たちグリーンパークは、選手ほか大会関係者のリラクゼーション会場として、大会おもてなしの一端を御手伝いさせていただきました。選手のメンタルヘルス面を考慮した秀逸なアイデアだと思います。運営当日は、来園した外国の方々の喜ばれた笑顔が印象的でした。

おもてなしVillage

若松体育館　施設職員一同

コロナ禍の状況で、東京オリンピック後に、北九州市で世界体操・新体操選手権大会が、観客を入れての開催となり、とてもよかったと思います。私たちもこの大会にほんの少しですがかかわることができ本当にうれしく思いました。また、体育館に来館された選手からもスポーツのもつ力や魅力など、素晴らしさを感じることができました。

10月23日(土)のスペシャルパフォーマンス（八幡中央高校書道部や黒田二十四騎、五平太ばやし）とても素晴らしかったです。

外国の選手だけでなく、私たちも感動しました。

小倉城竹あかり

小倉城竹あかり実行委員会　実行委員長　辻 利之さん

「小倉の街が海外の人達で溢れかえる」そんなイメージを描きながら、小倉城竹あかりを企画。

でも海外からの選手や関係者との接点が無いとの決定に、気を落とす時もありました。しかしながら推進室の皆さんのご対応や一生懸命さがメンバーにも伝わり皆が元気になり、同時に北九修造（松岡修造）さんからの応援も有り、全国に発信もして頂きました。世界体操世界新体操、そして小倉城竹あかり、共に有観客で開催できた事、素晴らしき思い出となりました。有難うございました。

都市装飾

交通局総務経営課　山下 真吾さん

世界体操・新体操選手権が北九州で開催され、その広報活動に携わる機会をいただき光栄に思います。より多くの方に本大会に興味を持っていただくことを念頭にラッピングバスデザインを考え、出場選手をできる限り大きく掲出することでインパクトを加えました。ラッピングバス出発式以降は、たくさんの方にご乗車いただき、また、写真を撮っていただくこともあり、バスもとても喜んでいました。

情報発信

株式会社オリオンファクトリー　渋田 慎さん

推進室の皆様、大会の盛会、誠におめでとうございます。

今大会のレガシー映像制作業務に携わらせて頂きました。

松岡修造さんの言葉「スポーツは感動を与える」、まさにスポーツは人々の感情を揺さぶり、突き動かす事を実感しました。トップアスリート内村航平選手の美技、そして微動だにせず決めた着地。今でも映像を見返す度に心震わせ落涙します。この現場に立ち会え、今大会に関わることができ、そして北九州市民で良かったと思えた瞬間でした。このような大規模な大会が地元北九州市で開催される事はシビックプライドの醸成に繋がる一つになると強く確信しました。

株式会社 gaaboo　斎藤 拓哉さん

世界体操と世界新体操が北九州市で同時開催されるというメモリアルな大会で、北九州市様と共にＳＮＳ活用した大会の盛り上げ・魅力発信に携われたことを光栄に思います。狙いのひとつとしていた選手から北九州市の投稿をシェアしていただくことも叶い、フォロワー数以上に投稿が多くのユーザーに見ていただくことができました。本お取り組みを起点とし、さらに北九州市としてのＳＮＳ活用が発展するよう、引き続き尽力いたします。

選手からのメッセージ

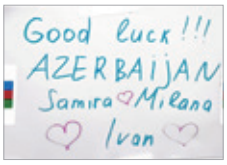
世界体操・世界新体操に出場した選手からの感謝のメッセージをご紹介します。（アイウエオ順）

アイスランド

アイルランド

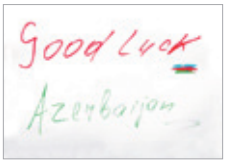
私たちへの歓迎 ありがとう

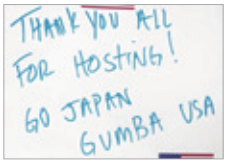
アゼルバイジャン



アゼルバイジャンに幸運を!!

アメリカ

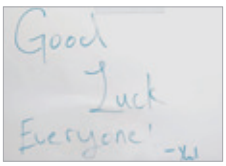




おもてなししてくれてありがとう！
がんばれ日本　親友アメリカより

とことんやろう！

どうもありがとう

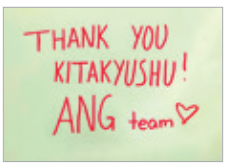


皆さんに幸運を！

アルメニア

エレバン（アルメニアの首都）に
お越しください！

アンゴラ



ありがとう　北九州！
アンゴラチーム♡

イギリス

“イギリス”からこんにちは

イスラエル

温かい歓迎　ありがとう

ありがとう　★北九州★
イギリスチームより

こんにちは　日本

イタリア

イスラエルチームに幸運を
がんばろう！

ありがとう　北九州♡
がんばれ　イタリア

ありがとうございました
北九州!!　イタリアより

インド

イタリアの力

バタフライーズ　戦士

こんにちは。私は日本が大好きです。
温かい歓迎とおもてなし。
日本は良い所です。ありがとう。

私たちは北九州が大好きです。

親切にしてくれてありがとう。
皆さんは本当にすばらしいです。
愛を込めて。神のご加護を。

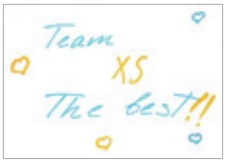
ありがとう♡　北九州

北九州を楽しめました♡
チームインディア

ウクライナ

日本大好き♡

がんばれ　ウクライナ



チームXS　最高!!

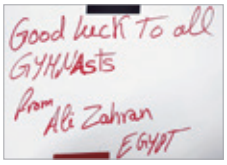
人生を楽しんで♡

エクアドル

エジプト

ありがとう　北九州！★

北九州のおもてなしに感謝！
決勝進出に感謝！
ナンシー・タマン



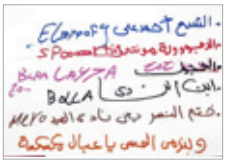
すべての選手に幸運を

皆のことが大好き♡
すべてに感謝します。
なんて優しい人々。北九州が大好き

私たちの幸運を祈って！
私たちはベストを尽くします♡

我々の幸運を祈って
ファロス灯台（エジプトにある灯台）はここにあり

エストニア



すべての選手たちへ
一生懸命頑張ってきたよね。
今も限界を超えて努力しつづけている…
世界大会を楽しんで、
ベストを尽くしてください…
そして、忘れないで
あなた方は、チャンピオンであること、
そして誰かのロールモデルに
なっていることを♡
ナンシー・タマン　エジプト

サポートいただきありがとう！
エストニアチームより

オーストラリア

こんにちは。
チーム オーストラリア

オーストリア

温かい歓迎ありがとう！
なんて素敵なひとたちなの！

幸運を祈ります！

オランダ

チーム　オランダ

笑顔

カザフスタン

カナダ

ギリシャ

がんばれ カナダ！

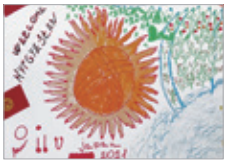
ギリシャ

キルギス

グアテマラ

クロアチア

コロンビア



歓迎　キルギスタン

ありがとう 北九州
グアテマラ♡

チーム クロアチア

良い一日を！

サウジアラビア

とても優しい人々！ ありがとう。
私たちの幸運を祈ってね♡
サウジ チーム♡

とても楽しかった！温かいおもてなしを
ありがとう。私たちは北九州が大好きです♡
サウジ チーム

サンマリノ

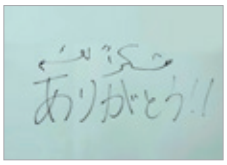
チーム サンマリノ♡
ありがとう 北九州！

ジョージア

♡ジョージア♡
皆さんに幸運を！
スタッフの皆さんありがとう。
皆さんはとても素敵です。
ぜひトビリシ(ジョージアの首都)に
お越しいただき、
楽しんでもらいたいです。

ジョージアの国民的食べ物
アジャリア風ハチャプリ
（チーズ卵パイ）

シリア

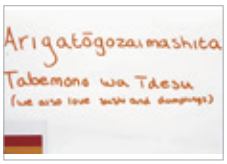


スイス

スウェーデン

スペイン

ありがとう 北九州 !!!
チーム スペイン



ありがとうございました。
食べ物は、最高です。
（私たちは寿司と団子も好きです）

幸運を！

みんなに幸運を(^^) 頑張れ！

スロバキア

スロベニア

チェコ

デンマーク

日本大好き デンマークより♡

ドイツ

サポートいただき、
本当にありがとうございます！

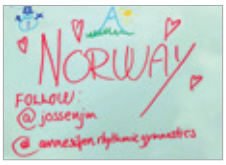
サポートしてくれてありがとう♡
チーム ドイツ

すべてに感謝!!

トルコ

ノルウェー

ノルウェー！！！



パナマ

全ての人にとって、
大成功でした！
素晴らしい時間を
過ごすことができました。

ハンガリー

がんばれ ハンガリー

フィリピン

フィリピン+日本
行け 行け モリナリさん※
※国際体操連盟 渡辺守成会長(北九州出身)

フィンランド

こんにちは！
新体操チーム フィンランド

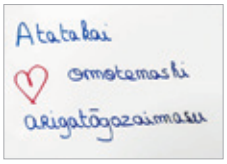
ありがとう！

ありがとう！北九州！

おもてなし ありがとう

ブラジル

フランス



温かいおもてなし
ありがとうございます

どうも ありがとうございます♡

ありがとう 北九州！日本大好き♡

フランスからこんにちは。
ありがとうございます。

ブルガリア

ベトナム

ベトナムより愛を込めて

がんばれ ベトナム！！！
フォーとバインミー食べて

ベラルーシ

ベラルーシより ありがとう

がんばれ ベラルーシ

ベルギー

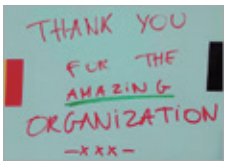
おもてなし ありがとう！
2023年にアントワープで
会いましょう！

素晴らしい世界。親切な人々。
ありがとう！

ポーランド

ベルギーチーム

ありがとう ベルギー♡日本



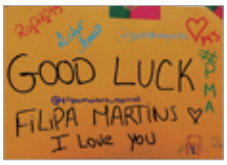
ありがとう。素敵なおもてなし!

ポーランド ここにあり!

ボリビア

がんばれ♡ボリビア!

ポルトガル



幸運を! フィリップ マーティン♡
みんな 大好き

ありがとう!

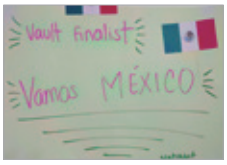
メキシコ

ありがとう 北九州!
みんな大好きです!

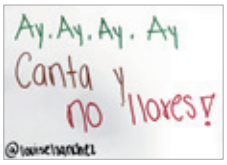
万歳 メキシコ!

100% メキシコ!
永遠に

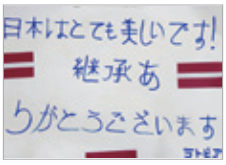
ラトビア



決勝進出!
頑張れ メキシコ



歌って! 泣かないで!



リトアニア

日本での温かい歓迎と
おもてなしをありがとう。
第2の故郷のようです。
リトアニアより愛を込めて
皆様のご健勝をお祈りします。

素敵な笑顔と温かい気持ちで
歓迎してくれてありがとう♡
リトアニアから愛をこめて、
幸運を祈ります。

ルクセンブルク

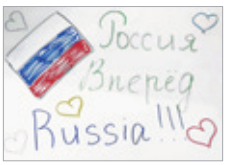
ルクセンブルクから
ありがとう 北九州!

ルクセンブルク
ありがとう 北九州!

私達を歓迎してくれて、
とても親切にしてくれて、ありがとう!

ルクセンブルク

ロシア体操連盟



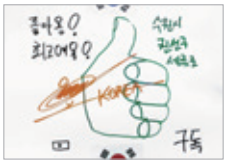
ロシア 前へ ロシア!!!♡

韓国

韓国 頑張って!

愛してる♡

体操

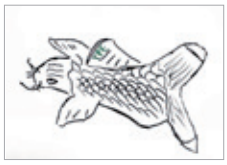


イイね! 最高!

韓国

台湾

中国

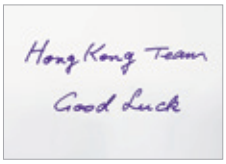


香港

中国に幸運を!

香港 加油!(がんばれ!)

南アフリカ



香港チームに幸運を

ありがとう!北九州!!!

日本

【第50回 世界体操選手権北九州大会 男子選手団団長 水鳥 寿思様からのメッセージ】

第50回世界体操競技選手権北九州大会ではいままでに経験したことのない歓迎を受け、関係者をはじめ市民のみなさまに対して感謝の気持ちでいっぱいです。会場には温かく挨拶をしてくれるスタッフの姿と応援のメッセージがあふれていました。

コロナ禍におけるスポーツの価値が問われていただけに、これだけ応援をいただけることに驚いたのと同時に、市民のみなさんの記憶に残る大会にしたいという想いで試合に臨みました。

東京五輪からの調整に苦労する姿も見受けられましたが、おかげさまで良い演技を披露することができました。これを機に市民のみなさまとも継続した交流ができることを楽しみにしています。

▷10月26日市長表敬時
左から
安里選手、水鳥団長、米倉選手

▷11月1日 市長表敬時
後段左から／スポーツ担当理事 市長
皆川選手 喜田選手 大岩選手
吉岡団体コーチ
前段左から／稲木選手 松原選手
杉本選手 鈴木選手 今岡選手
山崎強化本部長

年	月	日	項 目
2020	6	下旬	福岡県を通じて、「2021 世界新体操」の開催の打診あり
	8	1	国際体操連盟 渡辺会長が、総合体育館、西日本総合展示場(本館·新館)等を視察。世界体操と新体操の同時開催の可能性に言及
		19	国際体操連盟 渡辺会長が、市長·梅本副市長を表敬訪問。世界体操と新体操の同時開催を提案
	9	15	市長と県知事が電話会談し、世界体操·新体操選手権大会の誘致の方針決定
		16	日本体操協会に、国際体操連盟会長に宛てた、市長·県知事連名の「開催立候補親書」を提出
	10	19	日本体操協会から国際体操連盟に、市長·県知事連名の「開催立候補親書」と立候補書類を提出
	11	上旬	国際体操連盟の理事会の結果、本市での世界体操·新体操選手権大会の開催が決定
		8	体操国際大会「Friendship and Solidarity Competition（友情と絆の大会）」のクロージングセレモニーにおいて、北九州市で体操と新体操の世界選手権を開催することを発表
		16	市民文化スポーツ局に「世界体操·新体操選手権推進室」を新設
2021	1	13	国際体操連盟 渡辺会長の北九州市来訪
	2	15	「2021 世界体操·新体操選手権北九州大会」広報戦略策定
	3	1	日本体操協会に「世界体操·新体操選手権推進室」の係長1人を派遣（3/1～9/16）
		31	朝日新聞記事掲載（三浦室長〈当時〉とタレント 中上真亜子さんのインタビュー記事）
	4	15	九州学生体操連盟の堀内会長及び福岡県新体操クラブ連盟の上村理事長へ梅本副市長より世界体操·新体操選手権北九州市アドバイザーの辞令交付
		16	国際体操連盟の岩崎メディカル委員長との意見交換及び現地視察
		19	㈱テレビ朝日、㈱電通、設営業者等の大会関係者による会場視察（4/19～4/20）
	5	21	㈱ポーラ及川社長と市長とのオンライン面会
	6	18	新体操個人日本代表選考会視察（高崎アリーナ）（6/18～6/20）
		23	市国際スポーツ公式SNS投稿開始（Twitter、Instagram、Facebook）
		28	大会組織委員会設立総会開催
	7	9	市特設サイト公開
		10	100日前イベント / 100日前イベント出演者による市民との交流
		14	第1回「2021 世界体操·新体操選手権北九州大会」における北九州市新型コロナウイルス感染症対策検討会議
		21	大会公式ガイドブック「くるり北九州」販売開始
		22	世界体操の楽しみ方講座
		24	東京 2020 オリンピック体操競技（7/24～8/3）無観客開催
		31	新体操の楽しみ方講座
	8	2	第1回 COVID-19 対策会議
		6	東京 2020 オリンピック新体操競技（8/6～8/8）無観客開催
		11	第2回「2021 世界体操·新体操選手権北九州大会」における北九州市新型コロナウイルス感染症対策検討会議
		14	読売新聞記事掲載（国際体操連盟 渡辺会長、福岡県知事、市長による鼎談記事）
	9	1	ボランティア募集開始（9/1～9/22）
		1	第2回 COVID-19 対策会議
		13	第3回 COVID-19 対策会議
		15	組織委員会第2回総会開催
		16	市営バスラッピング車両出発式·運行開始（9/16～10/31）
		17	エコメダルプロジェクト実施（9/17～9/30）
		17	都市装飾開始（9/17～10/31）
		20	西鉄バスラッピング車両運行開始（9/20～10/31）
		21	北九州モノレールラッピング車両運行開始（9/21～10/31）
		22	毎日新聞記事掲載（体操元日本代表 田中理恵さんインタビュー記事）
		26	朝日新聞ポスター掲載（松岡修造さんとのコラボ企画によるポスター）
		27	筑豊電気鉄道ラッピング車両運行開始（9/27～10/31）
	10	1	第4回 COVID-19 対策会議
		1	大会観戦チケットの抽選販売受付開始
		1	市政だより10月1日号 増刊号発行
		1	個別会見「2021世界体操·新体操選手権北九州大会」における大会概要とSDGs100本プロジェクトについて
		1	小倉イルミネーション点灯開始（大会開催に合わせて特別に例年より約1か月早く点灯開始）
		1	在福岡タイ王国総領事館と市民のオンライン交流

年	月	日	項 目
2021	10	1	ワクチン・検査パッケージの対象事業に決定
		2	Z世代プロジェクト世界一周イベント
		3	Z世代プロジェクトMini Demo Day（中間報告会）
		4	松岡修造氏と市内小学校の直接交流
		5	在福岡ベトナム総領事館と市民のオンライン交流
		6	第3回「2021世界体操・新体操選手権北九州大会」における北九州市新型コロナウイルス感染症対策検討会議
		6	（市長定例会見）北九州市PR動画配信開始について
		8	メディカルガイドライン及び大会の新型コロナ感染症対策の公表（記者会見）
		13	（市長定例会見）大会開幕、新型コロナウイルス感染症対策について
		13	クリーンアップできれいやん（市民ボランティアによる一斉清掃活動）
		14	2022年世界体操開催都市 イギリス・リバプール市とのエールの交換（オンライン）
		15	中央公園フラワーオブジェクト設置・ライトアップ開始（10/15～10/24）
		15	市内小中学校による公式練習見学（世界体操）
		15	テレビ朝日、藤子・F・不二雄プロから子供たちへプレゼント贈呈式
		17	「2021世界体操・新体操選手権北九州大会」オープニング記者会見（北九州市立総合体育館）
		17	「おもてなしVillage（若松体育館）」開設（10/17～10/28）
		18	第50回世界体操競技選手権開幕（10/18～10/24）
		18	市内小中学校による予選観戦（世界体操）
		18	男子体操強化本部長 水鳥寿思氏と市民のオンライン交流
		18	ミクニワールドスタジアム北九州でのリラックスプラン実施（10/18～10/31）
		18	世界体操競技選手権大会会場周辺でサンテジム開設（10/18～10/24）
		19	男子体操強化本部長 水鳥寿思氏と市民のオンライン交流
		20	市内小中学校による予選観戦（世界体操）
		21	（市長定例会見）世界体操開幕、「ワクチン・検査パッケージ」活用について
		21	テレビCM放送開始（テレビ朝日大会中継番組、10/21～10/24・10/29・10/31 計6日間）
		24	国際体操連盟ジェンダー平等フォーラム
		25	体操日本選手団による市長表敬
		25	新体操ブルガリア選手団と企救丘市民センターのオンライン交流
		25	小倉ガレリアフラワーオブジェクト設置開始（10/25～10/31）
		25	市内小中学校による公式練習見学（世界新体操）
		19、26	グリーンパークでのリラックスプラン実施
		27	第38回世界新体操選手権開幕（10/27～10/31）
		27	市内小中学校による予選観戦（世界新体操）
		27	世界新体操選手権大会会場周辺でサンテジム開設
		29	（市長定例会見）世界新体操開幕、コロナ禍での100%有観客開催について
		30	夜もきれいやん～コクランタン2021～（市民手作りのランタン展示、音楽ステージ）
		31	ミクニワールドスタジアム北九州でのスペシャルイベント
		31	「2021世界体操・新体操選手権北九州大会」クロージング記者会見（西日本総合展示場本館）
	11	1	新体操日本選手団による市長表敬
		4	（市長定例会見）大会閉幕を受けて
		23	「ありがとう北九州」展 / 「ありがとう北九州」展スペシャルイベント（11/23～11/28）
		25	（市長定例会見）「ワクチン・検査パッケージ」と検査の集計について
		28	Z世代プロジェクト Demo Day（最終報告会）
	12	8	男子体操強化本部長 水鳥寿思氏と市内小学生のオンライン交流
		21	新体操元日本代表 皆川夏穂選手と市民のオンライン交流
		24	（市長定例会見）市民アンケート結果について
2022	1	19	（市長定例会見）パブリシティ効果・経済波及効果について
		15～16	イオン戸畑でサンテジムを開催
	3	12	内村航平選手の引退にあたり、本市、諫早市の市民で制作した感謝のメッセージ動画を配信
		23	大会組織委員会解散総会開催
		31	「世界体操・新体操選手権推進室」解散

2022年3月発行
編集　北九州市　北九州市大規模国際大会等誘致委員会
発行　北九州市

北九州市印刷物登録番号第 2110129A号

※本報告書の記事及び写真の無断転載・複写を禁じます。